

第3部 人間発達教育科学研究所

【目次】

はじめに	1
1. 人間発達教育科学研究所の概要	2
(1) 組織（部門）と構成メンバー	2
1) 保育実践研究部門	
2) 人間発達基礎研究部門	
3) 発達臨床支援研究部門	
(2) 組織運営	4
1) 財政基盤（予算配分）	
2) 運営会議	
3) 情報発信（広報活動）	
2. 事業／研究成果報告	6
(1) 研究所の事業／研究成果（概要）	6
(2) 部門の研究概要	8
・ 保育実践研究部門	8
・ 人間発達基礎研究部門	10
・ 発達臨床支援研究部門	13
(3) 研究強化・支援の取り組み	15
(4) 年度別 論文一覧	32
(5) 年度別 書籍一覧	44
3. 活動報告（国際シンポジウム、セミナー等）	47
(1) 研究所主催シンポジウム／セミナー	47
(2) 部門別 主催/共催/後援シンポジウム/セミナー/イベント	48
・ 保育実践研究部門	48
・ 人間発達基礎研究部門	65
・ 発達臨床支援研究部門	75
資料① 年度別構成メンバー	i
資料② 研究所規則	ii

はじめに

お茶の水女子大学「ヒューマンライフイノベーション開発研究機構」は、本学のこれまでの教育研究の実績や人材育成の経験を活かし更に発展させる、総合的、国際的な研究・教育活動を行うことを目的として、2016（平成28）年に開設されました。本機構は、「ヒューマンライフイノベーション研究所」と「人間発達教育科学研究所」の2つの研究所で構成されており、人間の発達段階に即した心身の健康と生活環境の向上を意図したイノベーションを実現する教育研究拠点をめざしています。

人間発達教育科学研究所（Institute for Education and Human Development）は、本学の人間発達科学をテーマとする学内教員を組織し、人間の発達と教育に関する総合的、国際的な研究拠点を構築することをめざして、2016年4月に設置されました。人間発達に関する基礎研究と実践研究・臨床研究を結びつける中から、革新的・効果的な成果発信と提言を行ない、子ども達の教育的・社会的格差の解消を志向する研究などを含め、少子化を質的・量的に改善する施策や、子どもから青年期以降までの発達の質の向上に向けた施策の策定に貢献することを目標としています。

本研究所の前身は、子どもの発達過程の解明を基礎としたより良い養育や保育、教育のあり方の提案を目的に、2002年4月に学内措置センターとして設置された「子ども発達研究センター」であり、翌2003年度には文部科学省に認可されて「子ども発達教育研究センター」として正式に発足しました。2008年4月にはさらに視点を広げ、生涯にわたる人間の発達と教育に関する総合的な研究活動を行なうことを目的とした「人間発達教育研究センター」に改組されました。その後2010年、2012年、2015年の3回の改組を経て、2016年4月、「人間発達教育科学研究所」として生まれ変わりました。現在では、本学「ヒューマンライフイノベーション開発研究機構」傘下の研究所として、本学内外の研究・教育者の協力を得ながら、「保育実践研究部門」「人間発達基礎研究部門」「発達臨床支援研究部門」の3領域で研究活動を推進しています。

さらには、機構のもう一つの研究所、ヒューマンライフサイエンス研究所と連携し、第4期中期目標期間においては、「こころ」と「からだ」と「食（食育を含む）」の三面からアプローチすることにより、革新的な健康イノベーションを促進していきたいと考えております。また、企業・研究機関等と連携して、先端研究拠点を形成するとともに、論文や学会発表、シンポジウム等において、その研究成果を広く社会に発信し、知的財産の創出や実用的なアウトカムを目指した実装研究を推進していく所存です。

引き続きご支援ご指導のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。

令和7年2月

人間発達教育科学研究所長 大森美香

1. 人間発達教育科学研究所の概要

(1) 組織（部門）と構成メンバー

人間発達教育科学研究所は、「保育実践研究部門」「人間発達基礎研究部門」「発達臨床支援研究部門」の3つの研究組織から構成されている。部門ごとに以下のような研究および実践事業を展開・推進している。

1) 保育実践研究部門

構成所員の異動や附属学校との関連を考慮し、「保育・教育実践研究部門」のうち教育実践研究を「人間発達基礎研究部門」に移行したことにより、2023年度から部門名称を「保育実践研究部門」とした。

同部門では、乳幼児期の保育・教育の向上、保育者の育成、地域子育て支援の開発に関して統合的に、学内の3つの乳幼児施設（附属幼稚園、ナーサリー、こども園）に加え、地域との連携も図りながら研究を行うと共に、乳幼児保育・教育のカリキュラム及び学生・保育者・社会人向けの学習・研修プログラムの開発と評価に関する研究を行う。

【構成メンバー】 ※2022-2024の構成メンバーは巻末資料①参照

- 小玉亮子（基幹研究院 人間科学系 教授） ※部門長
- 刑部育子（基幹研究院 人間科学系 教授）
- 西 隆太郎（基幹研究院 人間科学系 教授）
- 内海緒香（人間発達教育科学研究所 特任准教授）
- 松島のり子（基幹研究院 人間科学系 講師）
- 辻谷真知子（基幹研究院 人間科学系 助教）
- 宮里暁美（人間発達教育科学研究所 客員研究員）
- 一見真理子（人間発達教育科学研究所 客員研究員）
- 上垣内伸子（人間発達教育科学研究所 客員研究員）
- 菊地知子（人間発達教育科学研究所 研究協力員）



2) 人間発達基礎研究部門

「保育・教育実践研究部門」のうち教育実践研究については、附属との連携研究がコンピテンシー育成開発研究所のほうに移管したことを受け、2023年度より「人間発達基礎研究部門」の「発達に関する社会科学研究」に移行。「人間発達基礎研究部門」の2つの研究カテゴリーは、「心身の健康や発達に関する基礎的研究」「認知・言語発達研究」「発達に関する社会科学研究」の3つのカテゴリーに再編された。

同部門では、子ども期から老年期までの人間の生涯発達について、心理学、認知科学、教育学、社会学の方法論を用いて、人々の心身の健康や格差など社会的問題の解決に資する理論的・実証的知見の蓄積を行う。

- ① 「心身の健康や発達に関する基礎的研究」では、子ども期の環境因子と個人因子の相互作用に関する縦断研究や心身の健康や発達に関する基礎的研究を展開する。
- ② 「認知・言語発達研究」では、言語理解・記憶・語り・感情などの認知機能の解明を行う。
- ③ 「発達に関する社会科学研究」では、子どもの学力や教育達成の格差に関する研究、教育・健康に関する社会科学研究等を実施する。

【構成メンバー】 ※2022-2024の構成メンバーは巻末資料①参照

大森美香（基幹研究院 人間科学系 教授） ※研究所長
 浜野 隆（基幹研究院 人間科学系 教授） ※副研究所長／部門長
 上原 泉（人間発達教育科学研究所 教授）
 大森正博（基幹研究院 人間科学系 教授）
 大多和直樹（基幹研究院 人間科学系 教授）
 杉野 勇（基幹研究院 人間科学系 教授）
 富士原紀絵（基幹研究院 人間科学系 教授）
 今泉 修（人間発達教育科学研究所 准教授）
 伊藤大幸（基幹研究院 人間科学系 准教授）
 宝月理恵（基幹研究院 人間科学系 准教授）
 武藤世良（基幹研究院 人間科学系 講師）
 齊藤 彩（基幹研究院 人間科学系 助教）
 三宅雄大（基幹研究院 人間科学系 助教）
 合澤典子（人間発達教育科学研究所 特任リサーチフェロー）
 秋篠宮紀子（人間発達教育科学研究所 特別招聘研究員）
 榊原洋一（人間発達教育科学研究所 客員教授）
 神尾陽子（人間発達教育科学研究所 客員教授）
 島田祥子（人間発達教育科学研究所 研究協力員）
 松本聡子（人間発達教育科学研究所 研究協力員）

山宮裕子（人間発達教育科学研究所 研究協力員）

猪股富美子（人間発達教育科学研究所 アカデミック・アシスタント）

西田麻衣（人間発達教育科学研究所 アカデミック・アシスタント）

3) 発達臨床支援研究部門

発達障害（自閉症スペクトラム症、注意欠如多動症など）を有する子どもや青年への支援に関する調査研究をはじめ、支援が求められる家庭や地域、福祉や教育の現場などに実際にに関わりながら、そこに生きる人々を支援するプログラムやコンサルテーション技法などの介入方略や理論を検討していく。

【構成メンバー】 ※2022-2024 の構成メンバーは巻末資料①参照

高橋 哲（基幹研究院 人間科学系 准教授） ※部門長

石丸径一郎（基幹研究院 人間科学系 教授）

山田美穂（コンピテンシー育成開発研究所 教授）

平野真理（基幹研究院 人間科学系 准教授）

砂川芽吹（基幹研究院 人間科学系 助教）

（2）組織運営

1) 財政基盤（予算配分）

第4期の間人間発達教育科学研究所の予算は、「ミッション実現加速（研究・イノベーション）」を目的とした学生納付金から拠出されており、特任教員2名とアカデミック・アシスタント1名の人件費の他、2022年度と2023年度は各700万円、2024年度は550万円の直接経費で運営されている。

【2022～2024年度 IEHD 直接運営経費 予算内訳】

単位：円

費目名	使 途 内 容 等	2022年度	2023年度	2024年度
研究推進費	論文支援、学会発表補助	2,800,000	2,700,000	2,000,000
部門研究費	各3部門の研究推進費	600,000	1,000,000	600,000
国際拠点形成強化費	国際拠点形成強化をめざした研究/事業への支援	—	1,000,000	1,000,000
融合研究強化費	ヒューマンライフサイエンス研究所との連携 研究推進・強化	500,000	300,000	100,000
教員研究費	特任准教授、特任 RF/AF	400,000	350,000	250,000
シンポジウム開催費	国際シンポジウム/セミナー開催諸経費	500,000	600,000	500,000
広報（強化）費	HP 保守管理、英文コンテンツ強化、和英パンフ等	600,000	300,000	340,000
図書・資料費	融合研究や部門研究の補助予算 （図書購入限定）	200,000	150,000	50,000
最終報告書作成費	第3期最終評価報告書作成	300,000	—	—

中間評価費	第4期中間評価に関わる謝金等	—	—	60,000
その他運営費	事務局経費、電話/郵便等通信費、複合機等	1,100,000	600,000	600,000
合 計		7,000,000	7,000,000	5,500,000

2) 運営会議

人間発達教育科学研究所では、研究所の運営並びに研究・業務に関する事項を審議するため、「運営会議」を設置している（研究所規則第11条：巻末資料②参照）。研究所長が議長を務め、副研究所長および各部門長、研究所専任教員である教員（計6名）から構成されている。オブザーバーとして、ヒューマンライフイノベーション開発研究機構長、ヒューマンライフサイエンス研究所長および事務局、機構の事務を担当する研究・産学連携課職員を迎え、円滑な機構運営をめざした体制で研究所運営を行っている。（詳細は巻末資料②参照）。

「運営会議」は、原則的に年に2～3回程度（前学期始め、後学期始め等）、対面式（状況に応じオンライン）の会議を開催するほか、メンバーの海外出張や講師依頼・兼業等については、適宜メール会議（電子的決裁）を行い、迅速かつ効率的な決裁をめざしている。

開催実績は2022年度が12回（うちオンライン2回）、2023年度が7回（うちオンライン2回）、2024年度が7回（うちオンライン2回）である。

【人間発達教育科学研究所運営会議メンバー】※2022-2024の構成メンバーは巻末資料①参照

大森美香（研究所長：基幹研究院人間科学系 教授）

浜野 隆（副研究所長／人間発達基礎研究部門長：基幹研究院人間科学系 教授）

小玉亮子（保育実践研究部門長：基幹研究院人間科学系 教授）

高橋 哲（発達臨床支援研究部門：基幹研究院人間科学系 准教授）

上原 泉（人間発達基礎研究部門：人間発達教育科学研究所 教授）

今泉 修（人間発達基礎研究部門：人間発達教育科学研究所 准教授）

3) 情報発信（広報活動）

①人間発達教育科学研究所パンフレット（和英）

人間発達教育科学研究所では、本研究所の目的や組織体制、研究内容等を広く社会に発信するため、毎年、研究所パンフレット（日本語版、英語版）を発行し、学内外の研究機関や連携団体等に配布している。また、研究所が主催/共催/後援する各種シンポジウムやセミナー等でも配布され、以下研究所ホームページでPDF（無料ダウンロード）で公開している。

研究所 HP : <http://www-w.cf.ocha.ac.jp/iehd/>



②人間発達教育科学研究所ホームページ

人間発達教育科学研究所では、2016年8月にホームページ（日本語、英語）を開設し、人間発達科学に関する研究成果を積極的に発信するとともに、国内外、学内外の連携強化をはかっている。特に、3部門（①保育実践研究部門、②人間発達基礎研究部門、③発達臨床支援研究部門）で各々主催（共催/後援）するシンポジウムやセミナー等の多くは一般にも広く公開され、数多くのリピーターがアクセスしている。また、研究所の最新情報のみならず、研究所メンバーがこれまで携わってきた大型研究プロジェクト（21世紀COE:2002-2006年度、グローバルCOE:2007-2011年度等）についても、研究レガシーとしてその成果を引き継ぎ、リンク公開している。

ホームページへのアクセス状況については、開設年度である2016年度の月間平均ユーザー数が356人、月間平均ページビュー(PV)数が992PVであったのに対し、第4期中間評価年度の2024年度（11月現在）には、それぞれ726人、1,660PVと大きな増加を示している。



2. 事業／研究成果報告

(1) 研究所の事業／研究成果（概要）

2022年度

- ・第3期の評価や成果報告をとりまとめ、研究所ホームページ等で情報公開した。第3期の成果物である『Q&Aシリーズ：発達障害』3冊については、第4期もオンライン無料ダウンロード及び資料請求サービスを継続し、社会からの要望に応えた（無料ダウンロード数：253件、資料請求：183件）※2023.1月末現在
- ・第3期の実績を踏まえ、研究所の研究・教育活動をさらに前進させるため、戦略的な人員配置を行った（新規：特任准教授1名、研究員4名、客員教授1名、客員研究員1名、研究協力員1名、非常勤講師2名）
- ・第4期キックオフシンポジウムとして「ヒューマンライフイノベーション開発研究機構シンポジウム「健康で心豊かな”人生”を科学する～こころとからだ」をハイブリッドで開催し、産学官連携共同研究を視野に入れた戦略的な情報発信を行った（参加者195名）。
- ・ライフステージに応じた「こころ」と「からだ」の重点研究を支援・推進するため、所内公募を行い、論文支援11件、学会発表補助7件、部門研究費8件を採択した。
- ・研究教育力を強化し、各分野の研究成果を国内外へ積極的に情報発信するため、部門を中心としたセミナー/シンポジウム/講座等を年間10件開催した（主催/共催/後援含む）。

- ・ヒューマンライフサイエンス研究所との連携強化、研究教育力強化をめざす融合研究として、学内科研「脂質摂取行動パターンが及ぼす心理・器官変容の解明 -文理融合研究が導く理学基礎研究の心理学的活用（研究代表者：宮本泰則）」に研究参加した。
- ・研究所パンフレット（和英）を発行するとともに、第4期の研究所体制を反映させたホームページの更新を行った。さらに海外への学術情報発信を強化するため、英文コンテンツを充実させ、英文ページの再構築を行った。

2023 年度

- ・各部門の研究教育力を強化するため、戦略的な人員配置を行った（新規：研究員2名、特任リサーチフェロー1名、研究協力員1名）。
- ・ミッション重視の戦略的組織改編として、「保育・教育実践研究部門」のうち教育実践研究を「人間発達基礎研究部門」の「発達に関する社会科学的研究」に移行し、「保育・教育実践研究部門」を「保育実践研究部門」に、「人間発達基礎研究部門」を3つの研究カテゴリー（①心身の健康や発達に関する基礎的研究、②認知・言語発達研究、③発達に関する社会科学的研究）に再編した。
- ・部門再編による研究強化の一環として、新たに「認知発達科学セミナー」シリーズを開始するとともに、「自己」研究会による産学官連携シンポジウムを共催した。
- ・研究教育力を強化し、各分野の研究成果を国内外へ積極的に情報発信するため、部門を中心としたセミナー/シンポジウム/講座等を年間15件開催した（主催/共催/後援含む）。
- ・UNESCO や CEDEP 等の学外機関との連携シンポジウムの他、お茶大附属小・中・高、附属幼稚園、いずみナーサリー、こども園、ジェンダード・イノベーション研究所、SDGs 推進研究所等、学内組織との共催・後援イベントを開催し、社会的インパクトのある情報発信を行った。
- ・ヒューマンライフイノベーション開発研究機構内の連携研究/学術交流を推進すると共に、新たな文理融合研究の可能性を探るための「研究交流会」を開催した。
- ・ライフステージに応じた「こころ」と「からだ」の重点研究を支援・推進するため、所内公募を行い、論文支援15件、学会発表補助8件、部門研究費6件を採択した。

2024 年度

- ・各部門の研究教育力をさらに強化するため、研究員1名と客員研究員1名を追加配置するとともに、アカデミック・アシスタント1名を加え事務局機能を強化した。
- ・人間発達基礎研究部門の研究強化の一環として、「認知発達科学セミナー」シリーズを昨年度に続き継続開催するとともに、新たなシリーズ企画として「子どもの教育・支援について語り合う会」と「心身の健康に関する基礎的研究セミナー」を開始した。
- ・研究教育力を強化し、各分野の研究成果を国内外へ積極的に情報発信するため、部門を中心としたセミナー/シンポジウム/講座等を年間15件開催した（主催/共催/後援含む）。

- ・昨年度に続き、UNESCO 連携国際シンポジウムや「自己研究会」を開催し、継続的・戦略的な情報発信を行い、研究拠点としての実績をアピールした。
- ・お茶大附属小・中学校、附属幼稚園、いずみナーサリー、こども園、SDGs 推進研究所、コンピテンシー育成開発研究所等、学内組織との共催・後援イベントを開催し、社会的インパクトのある情報発信を行った。
- ・ヒューマンライフイノベーション開発研究機構内の連携研究／学術交流を推進すると共に、新たな連携研究の可能性を探るため、「総合知」の講演を基軸にした「研究交流会」を開催した。
- ・ライフステージに応じた「こころ」と「からだ」の重点研究を支援・推進するため、所内公募を行い、論文支援 7 件、学会発表補助 6 件、部門研究費 5 件を採択した。

(2) 部門の研究概要

人間発達教育科学研究所は、「保育実践研究部門」「人間発達基礎研究部門」「発達臨床支援研究部門」の 3 つの研究組織から構成されている。2022 年度～2024 年度における 3 部門の研究概要は以下のとおりである。

【保育実践研究部門】 部門長：浜口順子（2022 年度）、小玉亮子（2023-2024 年度）

1. 保育実践研究部門の研究事業

人間発達教育科学研究所において本部門は、乳幼児期の保育・教育の向上、保育者の育成、地域子育て支援の開発に関して、学内の保育・教育施設三園（附属幼稚園、いずみナーサリー、文京区立お茶の水女子大学こども園）に加え、地域との連携も図りながら研究を行っている。乳幼児保育・教育のカリキュラム、保育者や社会人向けの学習プログラムの開発と評価を行い、保育研究に関する情報発信を行うとともに、実践研究からの知見を踏まえた地域向けのイベントやワークショップを開催している。

2. 活動概要

令和 4 年度から令和 6 年度までの第 4 期中期計画（乳幼児期の保育・教育に関する研究推進と成果の発信、産学官連携共同研究の推進、公開シンポジウムやセミナーの開催）に該当する活動は以下のとおりである。

保育実践研究部門は、保育実践研究部門の研究者と三園の保育者で構成された「保育マネジメント研究会」（2021 年 4 月発足）を研究活動の拠点としている。この研究会では、現職の保育者に学ぶ機会を提供し、乳幼児教育のエキスパートを育成することを目的とするとともに、保育・教育施設における保育・教育活動を組織的かつ計画的に改善する「保育マネジメント」の在り方を追究するため、さまざまなプロジェクトを推進し、実践活動と研究成果の発信も行っている。2022 年度からは、乳幼児保育・教育のカリキュラムや実践に関する研究成果を国内外の学会や学会誌で発表するとともに、地域に開かれたこ

どもフォーラムや乳幼児保育・教育に関する国際的シンポジウムの開催など、現代の子どもや子育てに関する課題解決を図り社会や環境に変化をもたらす社会的インパクトの高い実践活動や産学官連携共同研究につながる取り組みを推進した（業績一覧・活動報告参照）。

全科目、基本オンライン型での開講である ECCELL「保育・子育てラーニングプログラム」（文部科学省の職業実践力育成プログラム（BP）に認定）は、学習時間を取ることが難しい幼稚園教諭、保育士などの現職者をはじめ、子どもに関わるあらゆる社会人を対象として、豊かな保育や子育て、子育て支援を実現できるようリカレント学習（学び直し・学びほぐし）の場を提供し、保育や子育ての質の向上に貢献した（2024年3月終了）。

2022年9月開催『2022LIFE×ART 記録展-子どもにふれる-』は、お茶の水女子大学のアート教育実践者たちによる展覧会であり、アートを通じて「ライフ（生活・人生）」を多角的に捉え、表現する場である。LIFE×ART 記録展は、社会が直面する課題に対して、アートの視点から新たな理解や気づきを促し、生活や教育における豊かな創造性を生むと同時に、異なる分野の交流を通じて、新たな発想や解決策が生まれる場としても貢献した。実践の成果は部門研究費により展覧会カタログ（全28ページ）として制作され、日本語と英語の冊子の形で出版された。

毎年開催されている「お茶大こどもフォーラム」は、保育や子育てに関わるテーマで、研究報告やシンポジウム、ワークショップ分科会を通じて専門家や参加者同士の学び合いを促進するイベントである。保育の質向上や子育て支援に役立つ新しい知見を提供し、少子化や育児の負担といった社会的課題に対する解決策を模索する場として貢献した。2022年度はオンライン、2023年度は対面で開催された。

「お茶大子育てサロン」は、「こどもまんなか社会」を実現するために、学内の施設を会場としてお茶の水女子大学附属幼稚園・いずみナーサリー・文京区立お茶大こども園の保育者が協働して実施する子育て支援である。2023年6月より年2回、合計4回開催された。親子の交流を深め、健全な育児のサポートを行うことで、育児ストレスの軽減や子育て環境の向上に貢献できた。開催に先立ち、部門研究費により子育て支援ブックレットを作成した。

国際機関の学識経験者である客員研究員の加入を機に、2023年7月、ユネスコの研究員2名（パリとジャカルタ）を招き、オンラインによる国際シンポジウム「世界の幼児教育は、今—UNESCO/タシケント国際用意教育会議の成果から」を開催し、議論の内容を日本語にまとめ出版した（研究所予算）。この国際シンポジウムは、世界の幼児教育の現状に焦点を当て、持続可能な開発（SDG4）や2022年のタシケント宣言の成果についても議論した。幼児教育を改善し、国際的な目標と整合させるための対話を促進することで、教育の質や公平性といったより広範な問題に取り組むことに貢献した。

産学官連携共同研究の推進として、保育×SDGs イベント「暮らしの中で楽しむ乳幼児の運動遊び」を令和5年、令和6年にわたり2回開催した。これらの活動は東京新聞や朝

日新聞で報道された。このイベントでは、ログイン株式会社「moffn」（リサイクル素材で作られた柔らかいボール）という安全で感覚を刺激する素材を使って、幼児の身体活動を促進することに焦点を当てている。この取り組みは、SDGs の目標 3、4、12 に沿ったもので、健康、質の高い教育、責任ある消費に貢献した。ログイン株式会社、一般社団法人コーチトラスト、筑波大学とウェスタンコロラド大学の実践研究者とともに定期的な研究会の開催を行っている。

3. 令和 7 年 3 月までの予定

第 9 回お茶大こどもフォーラムを 3 月 20 日に開催予定である。

【人間発達基礎研究部門】 部門長：浜野隆

1. 研究部門の研究事業

人間発達教育科学研究所において本部門は、生涯にわたる「こころ」と「からだ」の健やかな発達のあり方に関して、おもに心理学・教育学・社会学の領域から 3 つの研究事業を展開している。「①心身の健康や発達に関する基礎的研究」では、子ども期の家族関係や友人関係、メディアなどの環境因子と気質、発達障害特性などの個人因子の相互作用が子どもの発達やウェルビーイングに及ぼす短期的・長期的な影響に関する追跡研究、さまざまな発達段階における健康行動など心身の健康や発達に関する基礎的研究を展開している。「② 認知・言語発達研究」では、子どもから成人にかけての言語理解・記憶・語り・感情などの認知機能の発達の過程や、その発達の個人差や障害について、実験心理学的に研究を行い、人々の心身の健康に資する基礎的知見の蓄積や理論の構築をおこなう。「③発達に関する社会科学研究」では、子どもの学力や教育達成の格差に関する研究、社会情緒的側面やその発達・教育に関する研究、教育・健康に関する社会科学研究等を実施している。生涯発達における社会的格差等の問題について検討し、教育的・社会的格差の解消に向けた提言や発達に関する理論的・実証的知見の蓄積をおこなう。

2. 活動概要

令和 4 年度から令和 6 年度までの第 4 期中期計画（人間発達基礎研究に関する研究推進と成果の発信、産学官連携共同研究の推進、公開シンポジウムやセミナーの開催）に該当する活動は以下のとおりである。

・親子双方の発達障害特性と養育環境、子どもの QOL との関連（2022 年 6 月～）

就学移行期の子どもをもつ家庭を対象とした質問紙調査を実施し、親子双方の発達障害特性と養育環境および子どもの QOL との関連を検討した。2023 年 2 月に、2023 年度に小学校に入学する子どもをもつ母親 408 名を対象に、ウェブ質問紙調査を実施した。成果は、2023 年 9 月の第 19 回日本子ども学会学術集会にて発表された（齊藤彩・松本聡子

「母子双方の自閉スペクトラム症特性と子どもの QOL との関連—養育態度に着目した検討—」)。なお、本発表は、第 19 回日本子ども学会学術集会優秀発表賞を受賞した。上記の学会発表の内容を基に、学術論文として発信することを目指す。

・国際セミナー「心理的援助要請に関する日伊比較」

モンタナーリ・マルコ (Marco Montanari) 先生を招き、心理的な悩みを抱えた個人が積極的に心理的援助を求める、心理的援助要請 (Help-seeking) について講演いただいた。心理的援助要請は、治癒への道の始まりである。心理的援助要請は、個人が所属する文化の影響を大きく受けると考えられる。本セミナーでは、イタリアと日本における援助要請の比較を通して、援助要請態度と文化の関連について解説した。

・感情と食行動に関する尺度開発 (2023 年 6 月～)

感情に起因する摂食量の程度を測定する尺度の開発を目的とした研究を行った。感情の高揚の反応として起こる情動的摂食は、食べ過ぎや、不安や抑うつの問題につながると指摘されている。本研究では、ネガティブ感情だけでなくポジティブ感情による摂食量にも注目し、摂食量の増加だけでなく減少も考慮した尺度である情動的摂食尺度

(Salzburg Emotional Eating Scale; SEES) の日本語版開発を行った。日本人の大学生および成人 800 名を対象としてオンライン調査を実施した。本調査により SEES-J はポジティブ感情 1 因子、ネガティブ感情 3 因子から構成されることが確認された。得られた成果は、AICP International Workshop on Health and Well-being (東北大学) および日本パーソナリティ心理学会第 33 回大会 (筑波大学) にて発表した。現在、投稿論文として発表するため成果をまとめている。

・認知発達科学に関する研究教育セミナーの開催 (2023 年 10 月～)

最新の研究動向や研究法を学ぶことを目的とし、基礎研究に従事する心理学者や神経科学者から研究成果を講演いただく認知発達科学セミナーを開催した。本セミナーは、広く人間に関心をもつ学内外の学生や研究者の教養を深め、今後の研究推進の一助となるという社会的意義および価値を有する。更に、講演者の研究者としての来歴や哲学にも触れることで、学生や若手研究者にとって進路選択・キャリア設計・研究態度に関する学びを得る機会にもなっている。第 1 回認知発達科学セミナーは、「自閉スペクトラム症者の非定型な知覚に関する基礎的・応用的検討 (2023. 10. 19)」、第 2 回認知発達科学セミナーは、「抑うつの認知バイアスの研究と新しい展開 (2024. 6. 13)」というテーマで開催した。基礎研究への興味関心の促進や、研究者育成への貢献、疾患患者への理解を深める等の機会を提供できた。

・対人援助職の人々の心身の健康に関する研究 (2024 年 6 月～)

児童支援に関わる職員の働きやすさやメンタルヘルスおよび独自の困難さについて調査

し、支援を考えることを目的とした。2024 年は、放課後児童クラブや放課後等デイサービスにおける実態を知るため、埼玉県加須市に協力いただき、加須市の放課後児童クラブや放課後等デイサービスについての意見交換会を行い、その後実際に施設見学を行った。施設の利用の仕方や、職員の方の働く環境について現場の方に状況を伺うことができた。施設の職員の方の意見をもとに、今後の調査について検討を進める。

・感情理論に関する国際ワークショップ・講演会・セミナーの開催（2024 年 8 月）

心の哲学や感情の哲学、感情科学がご専門で、感情・情報・コミュニケーションの研究に取り組まれているアンドレア・スカランティーノ先生を招き、感情理論に関する国際ワークショップ・講演会・セミナーを開催した。国際ワークショップ（2024.08.03 日本発達心理学会主催）では、感情（emotions）の定義の歴史を辿ることで、現代の三大感情理論である心理学的構成主義、評価理論、基本感情理論それぞれが感情発達研究にとっていかなる長所と短所を持つかを考察し、なぜ発達心理学にとって感情の定義が重要なのかを検討した。公開講演会（2024.08.04 日本発達心理学会主催）では、講師が提唱する新しい基本感情理論（New Basic Emotion Theory）と感情発達の関係性を探る講演を行った。学術セミナー（2024.08.05 日本感情心理学会主催）では、招待講演と国際シンポジウムが開催され、日本の感情研究者とともに感情表出や感情・情動、スカランティーノ先生の「感情の動機づけ理論」に関して議論が行われた。

・心身の健康に関する基礎的研究セミナー（2025 年 1 月）

心身の健康に関する基礎的研究を中心とした心理学的視点から、最新の研究動向を紹介し、実践的な研究手法を学ぶことを目的とするセミナーを開催した。心身の健康の増進や調査・実践に興味関心を持つ本学の学生を中心に、教職員、学外の方々を対象とし、学びの機会を提供するものである。第 1 回（2025.01.10: ウェビナー開催）は「若年労働者のメンタルヘルス支援を考える ―基礎研究と実践研究から―」というテーマで開催し、本学学生のみならず、他大学学生や一般の方に参加いただいた（申込 71 名）。セミナー後のアンケート回答から、「若年労働者への支援についての理解が深まった」や、「研究手法を知ることで自信の研究に役立つ知識が得られた」などセミナーを評価する声をいただいた。本セミナーにより参加者にとって学びとなる機会を提供することができた。

・産学官連携共同研究の推進として、以下の研究活動を進めている。

受託研究「学力調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究」（文部科学省、浜野 隆（2022 年 8 月～2023 年 3 月）

受託研究「「みえる」からはじまる、人のつながりと自己実現を支えるエンパワーメント社会共創拠点」（国立研究開発法人科学技術振興機構（COI-NEXT）、大森美香、2022 年 10 月～）

共同研究「緑内障予防・治療のための行動変容：心理学的エビデンスにもとづくイネー
ブラー技術の実装 “AI を用いた治療アドヒアランスサポートシステムの開発”」
(国立大学法人東北大学／オムロン サイニックス株式会社、大森美香、
2024 年 12 月～)

3. 令和 7 年 3 月までの予定

第 3 回認知発達科学セミナー「視聴覚情報が伝えるコミュニケーションの生涯発達」
(2025. 02. 18 : オンライン) を 2025 年 2 月に開催予定である。

【発達臨床支援研究部門】 部門長：高橋哲

1. 発達臨床支援研究部門の研究事業

人間発達教育科学研究所において本部門は、発達障害（自閉症スペクトラム症、注意欠如
多動症など）を有する子どもや青年への支援に関する調査研究をはじめ、支援が求められる
家庭や地域、福祉や教育の現場などに実際にに関わりながら、そこに生きる人々を支援するプ
ログラムやコンサルテーション技法などの介入方略や理論の検討をおこなう。

2. 活動概要

令和 4 年度から令和 6 年度までの第 4 期中期計画（発達臨床支援に関する研究推進と成
果の発信、産学官連携共同研究の推進、公開シンポジウムやセミナーの開催）に該当する活
動は以下のとおりである。

・地域貢献事業としての一般市民向け公開セミナーの開催および心理職の効果的な育成

本学心理臨床相談センターでは、地域の方々を対象にカウンセリング等の心理学的支
援を行っている。こうした心理臨床実践を通じて得られたメンタルヘルスに関する専門
的な知識を外部に積極的に発信し、一般市民に広め、社会全体の心の健康増進につながる
という社会的な意義や価値を有している。個人の心の健康のみならず社会全体の幸福度
向上まで幅広い範囲に影響を与え、その社会的インパクトは多岐にわたる。具体的にイン
パクトを与えた領域としては「地域社会への寄与」「福祉の改善への寄与」「専門職の高度
化への寄与」が挙げられる。

お茶大心理臨床相談センター第 2 回公開セミナー（2023. 3. 21 : オンライン）は「女性
の人生と心理臨床」をテーマとして開催した。登壇者が多岐にわたるテーマ（女性とメン
タルヘルス、発達障害のある女性・女の子、乳幼児を育てる母親のレジリエンス、女性の
犯罪と加害者臨床）を報告し、精神疾患に対する誤解や偏見を解消し、心の病は誰にでも
起こりうるという理解を深めさせることを通じて脱スティグマ化に寄与した。第 3 回公
開セミナー「メンタルヘルスのヤングケアラー～外から見えにくい「ケア」へのまなざし
～」（2024. 3. 2 : オンライン）では「メンタルヘルスのヤングケアラー」をテーマとした。

本セミナーを通じて多くの市民や専門家がヤングケアラーの実態と背景に関する理解を深めることができ、これはヤングケアラーの早期発見・早期支援につながるインパクトをもたらした。

- ・自閉スペクトラム症商のある女兒を対象とした親子プログラムの実施

本学心理臨床相談センターでは、2021年度から自閉スペクトラム症（以下、ASDとする）のある女兒およびその保護者を対象とした親子プログラム「あまなつ茶あむ」を継続的に実施している。具体的には、ASDのある小学生の女の子とその保護者を対象にし「からだ」と「こころ」へのアプローチ、そして心理教育グループ実践のためのファシリテーター養成プログラムの開発を目的として実施している。実践に際しては、当部門に所属する複数の教員のほか、本学博士課程に所属する大学院生をスタッフとし、大学院生に対するトレーニングセッションを事前に行った上でプログラムの運営を図っており、要支援者に対する支援と同時に、心理支援に携わる大学院生の育成という観点も兼ねている。

- ・大学院および卒後教育活動としての公開セミナーの運営事業

大学院生を上記公開セミナーの企画段階から関与させ、セミナーの運営に関する教育活動として位置付けて実施した。第2回・第3回共に、招聘講師の講演だけでなく大学院生による研究・実践発表の企画を複数設け、地域住民にも広報をした上で実施している。具体的には、第2回セミナーにおいては、全体テーマである「女性の人生と心理臨床」に関連して3つの分科会を設けて大学院生からの発表が行われた。アンケート結果では、参加者のうち98.4%が「とても満足」または「やや満足」と回答していたほか、「一般にも公開してくれてありがたい。オンラインなので参加しやすかった。」「自分も女性であるという視点で臨床心理学を捉えたことがなかったことに気が付いた。」「あまり聞いたことのない話が聞けて刺激を受けた」など肯定的な感想が多く寄せられた。

- ・未就学児子育て中の母親を対象としたアートワークプログラムの実施

2024年度から、地域の未就学児子育て中の母親を対象としたアートワークプログラムでの予防的心理支援を継続的に実施している。具体的には、未就学児の母親が、アートワークを通して母親役割期待から解放され、従来の自分自身や、自分の中にあるポジティブ・ネガティブ双方の感情に気づき、そこに対するコンパッションを促進することを目的としている。実践に際しては、当部門に所属する教員のほか、本学博士後期課程に所属する大学院生がファシリテーターを担い、前期課程の大学院生が実習として参加することで、予防的支援の提供と同時に、心理支援に携わる大学院生の育成も兼ねている。

- ・心理専門職のレジリエンスとコンピテンシーの育成に関する研究（2023年1月）

心理専門職としてのコンピテンシーの中には、的確なアセスメントを実施し、その結果を

適切にフィードバックする能力が含まれる。当部門では、個別式の各種心理検査の使用方を習熟させるとともに、心理検査のフィードバックに関するレビュー論文について本学心理臨床相談センター紀要に掲載予定である。

- ・産学官連携共同研究の推進として、以下の研究活動を進めている。

受託研究「非行を有するハイリスクな青少年の自殺・自傷行為の理解・予防・対応策に関する包括的な検討」（一般社団法人いのち支える自殺対策推進センター、高橋哲（2022年11月～）

共同研究「レジリエンスの継時的変化に関する研究」（株式会社トワール、平野真理、2023年1月～）

3. 令和7年3月までの予定

お茶大心理臨床相談センター第4回公開セミナー「ニューロダイバーシティとジェンダーダイバーシティ～自閉症スペクトラムと性別違和の共起と当事者視点～」(2025.3.1: オンライン)を2025年3月に開催予定である。

(3) 研究強化・支援の取り組み

人間発達教育科学研究所では、研究所(部門)のミッションやKPI(評価指標)に基づいた研究・事業を強化・推進するため、研究員を対象とした独自の研究支援制度を設けている。「所内公募による審査制(研究所長と部門長による審査)」という形式を採用することにより、ミッション性の高い優れた研究(事業)に戦略的に予算を配分できるメリットがある。また、専門の異なる複数の研究者が協働で展開する研究・事業の推進や若手研究者支援にもつながっている。

2022年度～2024年度に実施した研究支援制度の成果は以下のとおりである。

2022年度

① 「研究推進費(論文支援)」(所内公募・審査制)

【対象者】人間発達教育科学研究所の研究員、特任教員、連携研究員

【助成総額】250万円(1件あたりの上限は30万円)

※1人2件まで申請可(今年度中に執行予定のものに限る)

【申請期間】2022年5月9日(月)～5月23日(月)

【補助対象条件】

- ・研究所(部門)のミッションに基づく研究において、本年度中に投稿もしくは発表予定の論文で、以下経費に係るもの(採択の可否不問)を補助する。

①投稿・発表論文の英訳または英文校閲費

②投稿論文のオープンアクセス掲載費(APC)もしくは投稿審査料/掲載料

※投稿（発表）先は、査読（審査）付きの学会誌、学術誌、学会に限定（ハゲタカジャーナルに類する雑誌への掲載不可）。

※申請者の研究員/特任教員/連携研究員がファーストでなくてもよい。

●審査結果・「研究推進費（論文支援）」（総額 250 万円）利用申請概況

申請総額～2,323,800 円（11 件）、採択総額～2,323,800 円（11 件）

	申請論文概要	申請額	採択額
1	①申請者氏名：今泉修 ②論文タイトル：Internalizing problems and suffering due to sensory symptoms in children and adolescents with and without autism spectrum disorder 共著者：辻百合香、菅原ますみ、生地新 オーサー順位：2nd 発行（発表）予定年月日：2022 年度中 現在の審査状況：修正稿を 4 月に再投稿して査読中 ③掲載誌・発表学会：Frontiers in Psychology ④内訳（名目）：論文掲載費（APC1,850USD）	241,000	241,000
2	①申請者氏名：今泉 修 ②論文タイトル：Mindfulness trait mediates between schizotypy and hallucinatory experiences 共著者：田上初夏 オーサー順位：2nd 発行（発表）予定年月日：2022 年度中に投稿 現在の審査状況：投稿準備中 ③掲載誌・発表学会：Consciousness and Cognition ④内訳（名目）：英文校閲費	71,000	71,000
3	①申請者氏名：高橋 哲 ②論文タイトル：Prevalence and functions of non-suicidal self-injury among justice-involved youth および（または）Clinically distinct subgroups of incarcerated methamphetamine users in Japan: a latent class analysis) 共著者：外部研究者数名 オーサー順位：筆頭 発行（発表）予定年月日：2023 年 1 月 1 日 現在の審査状況：データ取得済み、分析は未着手 ③掲載誌・発表学会：英文（Archives of Suicide Research および（または）Psychiatry Research を第一候補とする） ④内訳（名目）：英文校閲費及び APC の一部	30 万	30 万
4	①申請者氏名：山田美穂 ②論文タイトル：Collaborative Autoethnography on the researcher's own view of disability: A music education project for children with severe multiple disabilities 共著者：中西裕・岡田信吾・安久津太一 オーサー順位：筆頭 発行（発表）予定年月日：2023 年 3 月 1 日	10 万	10 万

	現在の審査状況：未投稿（執筆中） ③掲載誌・発表学会：InSEA Publications ④内訳（名目）：英文校閲費		
5	①申請者氏名：山田美穂 ②論文タイトル：Developing Psychological Professional Competencies through Training in Dance/Movement Therapy Techniques: Focusing on Psychological Education for Girls with ASD 共著者：砂川芽吹 オーサー順位：筆頭 発行（発表）予定年月日：2022年10月1日 現在の審査状況：未投稿（データ分析中） ③掲載誌・発表学会：American Dance Therapy Association ④内訳（名目）：学校発表抄録・ポスターの英文校閲費	10万	10万
6	①申請者氏名：齊藤 彩 ②論文タイトル：The Relationship Between Traits of Autism Spectrum Disorder, Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder, and Emotional Problems in Japanese University Students 共著者：松本聡子、坂田侑奈、菅原ますみ オーサー順位：筆頭 発行（発表）予定年月日：今年度中の採択・掲載をめざす 現在の審査状況：審査中 ③掲載誌・発表学会：Journal of Autism and Developmental Disorders ④内訳（名目）：英文校閲費及び掲載費	30万	30万
7	①申請者氏名：齊藤 彩 ②論文タイトル：Stress Mindset and University students' Mental Health in Japan During the COVID-19 Pandemic: A Behavioral Mediating model 共著者：劉艶艶・松本聡子・齊藤彩・吉武尚美・菅原ますみ オーサー順位：3rd 発行（発表）予定年月日：2022年6月予定 現在の審査状況：執筆ほぼ完了。英文校閲完了次第投稿 ③掲載誌・発表学会：Psychology & Health ④内訳（名目）：英文校閲費	20万	20万
8	①申請者氏名：大森美香 ②論文タイトル：A Study of Social Support and Depression among Parents Who Have Lost Their Only Child in China - The Mediating Role of Resilience and Trait Mindfulness 共著者：王小鳳・段晓鹏・菅原ますみ オーサー順位：4th 発行（発表）予定年月日：2022年11月1日 現在の審査状況：6月に投稿予定 ③掲載誌・発表学会：OMEGA-Journal of Death and Dying ④内訳（名目）：英文校閲費、APC	30万	30万
	①申請者氏名：内海緒香 ②論文タイトル：STEAM implementation with an Inquiry-Based		

9	Emergent Curriculum at an Early Childhood Education and Care Facility in Japan 共著者：宮里暁美・刑部育子・山崎寛恵・土谷香菜子 オーサー順位：筆頭 発行（発表）予定年月日：2023年3月1日 現在の審査状況：未投稿 ③掲載誌・発表学会：Asia-Pacific Journal of Research In Early Childhood Education ④内訳（名目）：英文校閲費、投稿料	30万	30万
10	①申請者氏名：辻谷真知子 ②論文タイトル：How do Japanese early-childhood practitioners think about under 3-year-old-children's risky experiences in playground? 共著者：秋田喜代美、石田佳織、宮田まり子、宮本雄太 オーサー順位：筆頭 発行（発表）予定年月日：未定 現在の審査状況：投稿中（9月中旬に投稿予定） ③掲載誌・発表学会：Asia-Pacific Journal of Research in Early Childhood Education ④内訳（名目）：英文校閲	261,800	261,800
11	①申請者氏名：大森美香 ②論文タイトル：Job-Search Behaviors during Involuntary Unemployment: A Social Cognitive Approach 共著者：山崎洋子・合澤典子 オーサー順位：筆頭 発行（発表）予定年月日：未定 現在の審査状況：査読中 ③掲載誌・発表学会：Journal of Career Development ④内訳（名目）：修正対応のサポート	15万	15万

② 「研究推進費（学会発表補助）」（所内公募・審査制）

【対象者】 人間発達教育科学研究所の研究員、特任教員、連携研究員

【助成総額】 30万円（1件あたりの上限：国内5万円、海外10万円）

※1人1件のみ。

【申請期間】 2022年5月9日（月）～5月23日（月）

【補助対象条件】

- ・ 研究所（部門）のミッションに関連する国内外の学会（大会）への参加経費（大会参加費、ポスター印刷等）と旅費（日当・宿泊費含む）の両方もしくはいずれか。大会参加費については、オンライン参加費含む。
- ・ 申請者の研究員/特任教員/連携研究員がファーストでなくてもよい。

● 審査結果・研究推進費（学会発表補助）（総額30万円）利用申請概況

申請総額～210,210円（7件）、採択総額～210,210円（7件）

（単位：円）

	申請論文概要	申請額	採択額
1	①申請者氏名：今泉修 ②学会・大会名：日本心理学会第86回大会 ③開催日時：2022年9月8日～11日 ④開催場所：東京都世田谷区（日本大学） ⑤発表タイトル：運動行為による偽陽性知覚頻度の変化（仮：ポスター・2nd）、ラバーハンド感覚の要求特性（仮：ポスター・2nd） ⑥内訳（名目）：大会参加費	15,000	15,000
2	①申請者氏名：松本聡子 ②学会・大会名：日本特殊教育学会第60回大会 ③開催日時：2022年9月17日～19日 ④開催場所：茨城県つくば市（つくば国際会議場） ⑤発表タイトル：大学生の注意欠如・多動傾向とコロナ禍におけるストレス、抑うつとの関連（ポスター・2nd） ⑥内訳（名目）：大会参加費	5,000	5,000
3	①申請者氏名：高橋 哲 ②学会・大会名：日本犯罪心理学会第60回大会 ③開催日時：2022年9月3日～4日 ④開催場所：名古屋大学 ⑤発表タイトル：少年鑑別所在所者の非自殺性自傷行為の特徴（口頭・筆頭） ⑥内訳（名目）：大会参加費、旅費	50,000	50,000
4	①申請者氏名：山田美穂 ②学会・大会名：2022年度 日本フォーカシング協会年次大会 ③開催日時：2022年9月17日～18日 ④開催場所：沖縄県那覇市、沖縄県男女共同参画センター ⑤発表タイトル：日本フォーカシング協会ダンス部2～地域の踊り～（口頭（実技発表）・筆頭） ⑥内訳（名目）：大会参加費、旅費	50,000	50,000
5	①申請者氏名：齊藤 彩 ②学会・大会名：日本特殊教育学会第60回大会 ③開催日時：2022年9月17日～19日 ④開催場所：茨城県つくば市（つくば国際会議場） ⑤発表タイトル：大学生の注意欠如・多動傾向とコロナ禍におけるストレス、抑うつとの関連（ポスター・筆頭） ⑥内訳（名目）：大会参加費、旅費	50,000	50,000
6	①申請者氏名：内海緒香 ②学会・大会名：日本教育心理学会（オンライン） ③開催日時：2022年8月10日～9月10日 ④開催場所：オンライン ⑤発表タイトル：新型コロナウイルス感染症対策下における子どもの心身発達と学習に関する意識調査：2020年11月小学1年生の保護者の報告から（ポスター・筆頭） ⑥内訳（名目）：大会参加費	7,000	7,000
	①申請者氏名：辻谷真知子 ②学会・大会名：日本こども学会 ③開催日時：2022年10月8日～9日		

7	④開催場所：東海学院大学（岐阜県） ⑤発表タイトル：園のきまりに関する保育者の考え方（仮）（ポスター・筆頭） ⑥内訳（名目）：大会参加費、旅費	33,210	33,210
---	---	--------	--------

③ 「部門研究費」支援（所内公募・審査制）

【対象者】 人間発達教育科学研究所の研究員（申請代表者）

【申請額】 第一次：60万円（1件あたりの上限：10万円）

再配分：100万円（1件あたりの上限なし）

※第一次～※1部門2件まで申請可

（同じ事業でも費目が異なれば2件申請可）

【申請期間】 第一次：2022年5月9日（月）～5月23日（月）

再配分：2022年11月26日（木）～12月10日（木）

【申請条件】

- ・研究所（部門）のミッションに関連する各部門の教育・研究活動全般。セミナーやシンポジウムの開催諸経費、講師謝金、旅費、役務費、図書・物品費、印刷費等。
- ・補助対象は申請前に部門長の承認を得て下さい。

●審査結果・部門研究費（総額：第一次60万円、再配分100万円）利用申請概況

申請総額～第一次：500,000円（5件） 採択総額～第一次：500,000円（5件）

再配分：981,000円（3件） 再配分：981,000円（3件）

合計：1,481,000円（全8件）

※網掛けは再配分（単位：円）

	研究（事業）名	申請者	部門メンバー	部門名	金額
1	地域貢献事業としての一般市民向け公開セミナーの実施	高橋 哲	山田美穂 石丸径一郎 砂川芽吹	発達臨床支援研究部門	10万
2	大学院および卒後教育活動としての公開セミナーの運営事業	山田美穂	石丸径一郎 砂川芽吹 高橋哲	発達臨床支援研究部門	10万
3	親子双方の発達障害特性と養育環境、子どものQOLとの関連	齊藤 彩	松本聡子	人間発達基礎研究部門	10万
4	ライフ×アート展（展示材料費、パネルポスター印刷費）	刑部育子	浜口順子 小玉亮子 内海緒香	保育・教育実践研究部門	10万
5	ライフ×アート展（報告書デザイン・印刷費）	刑部育子	浜口順子 小玉亮子 内海緒香	保育・教育実践研究部門	10万
6	心とからだの育ちを支える子育ての支援	宮里暁美	小玉亮子、浜口順子、内海緒香、附属幼稚園、いずみナーサリー、	保育・教育実践研究部門	501,000

			こども園の先生方		
7	親子双方の発達障害特性と養育環境、子どものQOLとの関連	齊藤 彩	松本聡子	人間発達基礎研究部門	15万
8	心理専門職のレジリエンスとコンピテンシーの育成に関する研究	高橋 哲	山田美穂 石丸径一郎 平野真理 砂川芽吹	発達臨床支援研究部門	33万

2023年度

① 「研究推進費（論文支援）」（所内公募・審査制）

【対象者】人間発達教育科学研究所の研究者、特任教員

【助成総額】240万円（1件あたりの上限は30万円）

※1人2件まで申請可（今年度中に執行予定のものに限る）

【申請期間】2023年4月25日（火）～5月16日（火）

【補助対象条件】

- ・研究所（部門）のミッションに基づく研究において、本年度中に投稿もしくは発表予定の論文で、以下経費に係るもの（採択の可否不問）を補助する。

①投稿・発表論文の英訳または英文校閲費

②投稿論文のオープンアクセス掲載費（APC）もしくは投稿審査料/掲載料

※投稿（発表）先は、査読（審査）付きの学会誌、学術誌、学会に限定（ハゲタカジャーナルに類する雑誌等への掲載は不可）。

●審査結果・・・「研究推進費（論文支援）」（総額240万円）利用申請概況

申請総額～3,236,096円（15件）、採択総額～2,566,096円（15件）

	申請論文概要	申請額	採択額
1	①申請者氏名：今泉 修 ②論文タイトル：Mindfulness trait mediates between schizotypy and hallucinatory experiences 共著者：田上初夏 オーサー順位：2nd 発行（発表）予定年月日：2023年7月頃 現在の審査状況：初回審査後 Major revision 中 ③掲載誌・発表学会：Humanities and Social Sciences Communications (Springer Nature 社) ④内訳（名目）：APC 215,000円 (1590USD)	21万5千	21万5千
2	①申請者氏名：今泉 修 ②論文タイトル：Sense of agency over object movement and appearance (仮) 共著者：武井明日香 オーサー順位：2nd 発行（発表）予定年月日：2023年7月までに投稿予定	12万3千	12万3千

	現在の審査状況：投稿準備中 ③掲載誌・発表学会：Consciousness and Cognition(Elsevier社) ④内訳（名目）：英文校閲費	千	千
3	①申請者氏名：小玉亮子 ②論文タイトル：日本におけるレッジョ・エミリアの受容の歴史 （A History of Reception of Reggio Emilia Early Childhood Education in Japan） 共著者：浅井幸子、太田素子 オーサー順位：2nd 発行（発表）予定年月日：2024年3月1日 現在の審査状況：EECERA2022の学会大会で口頭報告をしたものを、これから投稿する ③掲載誌・発表学会：European Early Childhood Education Research Journal ④内訳（名目）：英文校閲費	30万	20万
4	①申請者氏名：高橋 哲 ②論文タイトル：Public perception of recidivism risk for individuals discharged from correctional institutions in Japan 共著者：なし オーサー順位：単独筆頭 発行（発表）予定年月日：2024年2月1日 現在の審査状況：データ分析中 ③掲載誌・発表学会：Criminal Justice and Behavior 他 ④内訳（名目）：英文校閲費もしくはAPC	30万	15万
5	①申請者氏名：辻谷真知子 ②論文タイトル：Sharing beliefs about social norms in early childhood centers in Japan: through group interview with practitioners（仮） 共著者：なし オーサー順位：単独筆頭 発行（発表）予定年月日：2023年12月頃に投稿予定 現在の審査状況：投稿準備中 ③掲載誌・発表学会：EECERAJ（European Early Childhood Education Research Association Journal） ④内訳（名目）：英文校正	18万7千	18万7千
6	①申請者氏名：齊藤 彩 ②論文タイトル：Social problems in preschool children with developmental coordination disability 共著者：藤澤翠美花・中井昭夫 オーサー順位：2nd 発行（発表）予定年月日：2023年8月頃初回投稿予定 現在の審査状況：未投稿 ③掲載誌・発表学会：Research in Developmental Disabilities ④内訳（名目）：英文校閲費	20万	20万
	①申請者氏名：砂川芽吹 ②論文タイトル：Camouflaging in autistic young women: a		

7	<p>qualitative study 共著者：なし オーサー順位：単独筆頭 発行（発表）予定年月日：2024年2月1日 現在の審査状況：投稿準備中 ③掲載誌・発表学会：Autism in Adulthood ④内訳（名目）：英文校閲費</p>	30万	15万
8	<p>①申請者氏名：砂川芽吹 ②論文タイトル：How much of my true self can i show? social adaptation in autistic women: a qualitative study 共著者：なし オーサー順位：単独筆頭 発行（発表）予定年月日：2023年5月1日 現在の審査状況：公開済み ③掲載誌・発表学会：BMC Psychology ④内訳（名目）：論文掲載費</p>	261,096	261,096
9	<p>①申請者氏名：齊藤 彩 ②論文タイトル：The Relation between ADHD characteristics of both parents and children, parental nurturing attitudes, and children's mental health 共著者：松本聡子 オーサー順位：筆頭 発行（発表）予定年月日：2023年8月に初回投稿予定 現在の審査状況：未投稿 ③掲載誌・発表学会：Journal of Attention Disorders ④内訳（名目）：英文校閲費</p>	20万	20万
10	<p>①申請者氏名：大森美香 ②論文タイトル：Investigation of effects of shame on attitudes toward seeking professional help in Japanese university students: Focusing on cultural self-construal 共著者：Kayo, Tozawa, Aizawa オーサー順位：4th 発行（発表）予定年月日：2023年10月（6月に校閲，7月投稿を予定） 現在の審査状況：MS執筆中 ③掲載誌・発表学会：検討中 ④内訳（名目）：英文校閲費</p>	15万	15万
11	<p>①申請者氏名：大森美香 ②論文タイトル：An ecological momentary assessment investigation of body image and fat talk among Japanese college students 共著者：Takamura, Yamazaki, Kikuchi, Nakamura, Yoshiuchi, Yamamoto オーサー順位：筆頭 発行（発表）予定年月日：検討中 現在の審査状況：MS校閲開始 ③掲載誌・発表学会：検討中</p>	30万	18万

	④内訳 (名目): 投稿支援サービス、APC 一部		
12	①申請者氏名: 合澤典子 ②論文タイトル: Psychological effects of leisure activities on the relationship between COVID-19-related stressors and subjective well-being among Japanese adults 共著者: 千葉咲香、大森美香 オーサー順位: 筆頭 発行 (発表) 予定年月日: 2023 年 10 月 現在の審査状況: 執筆中 (2023 年 6 月に英文校閲予定) ④掲載誌・発表学会: Communication Research Reports ④内訳 (名目): 投稿論文支援	15 万	15 万
13	①申請者氏名: 合澤典子 ②論文タイトル: Development of the Japanese version of the Salzburg Stress Eating Scale (SSES-J) 共著者: 竹村美那、王燕園、嘉陽彩乃、大森美香 オーサー順位: 筆頭 発行 (発表) 予定年月日: 2023 年 11 月頃 現在の審査状況: 執筆中 (6 月に英文校正・論文投稿支援を行う予定) ③掲載誌・発表学会: Appetite ④内訳 (名目): 投稿論文支援	15 万	15 万
14	①申請者氏名: 山田美穂 ②論文タイトル: Making DMT Accessible to Japanese Psychology Graduate Students through the Infusion of Focusing Techniques in a DMT Training Group: A Small Group Case Study 共著者: Tomoyo Kawano オーサー順位: 筆頭 発行 (発表) 予定年月日: 2023 年 12 月 現在の審査状況: 執筆中 ③掲載誌・発表学会: Body, Movement, and Dance in Psychotherapy ④内訳 (名目): 英文校閲費	10 万	10 万
15	①申請者氏名: 刑部育子 ②論文タイトル: Activating Young Children's STEAM Learning with a Novel "Aha" Moment 共著者: 土谷香菜子 オーサー順位: 2nd 発行 (発表) 予定年月日: 2024 年 1 月 31 日 現在の審査状況: 投稿前 ③掲載誌・発表学会: 教育科学 特集"STEM 教育; クリエイティブデザインとそのモデル" (Education Sciences "Special Issue "STEM Education: Creative Designs and Models") ④内訳 (名目): 英文雑誌投稿審査料/掲載料、英文校閲費	30 万	15 万

② 「研究推進費（学会発表補助）」（所内公募・審査制）

【対象者】 人間発達教育科学研究所の研究者、特任教員

【助成総額】 30 万円（1 件あたりの上限：国内 5 万円、海外 10 万円）

※ 1 人 1 件のみ。

【申請期間】 2023 年 4 月 25 日（火）～5 月 16 日（火）

【補助対象条件】

- ・ 研究所（部門）のミッションに関連する国内外の学会（大会）への参加経費（大会参加費、ポスター印刷等）と旅費（日当・宿泊費含む）の両方もしくはいずれか。大会参加費については、オンライン参加費含む。
- ・ 申請者の研究者/特任教員がファーストでなくてもよい。

● 審査結果・研究推進費（学会発表補助）（総額 30 万円）利用申請概況

申請総額～590,409 円（8 件）、採択総額～590,409 円（8 件）

※但し、No. 2, No. 4, No. 6, No. 8（各 10 万×4 件）、国際拠点強化費の予算使用

（単位：円）

	申請論文概要	申請額	採択額
1	①申請者氏名：今泉修 ②学会・大会名：SARMAR2023(14th Biennial Meeting of the Society for Applied Research in Memory and Cognition) ③開催日時：2023 年 8 月 9 日～12 日 ④開催場所：名古屋市名古屋ガーデンパレス ⑤発表タイトル：Does sense of agency affect recollection and familiarity in recognition memory?（ポスター・2nd、発表申込採択済み） ⑥内訳（名目）：大会参加費	40,409	40,409
2	①申請者氏名：小玉亮子 ②学会・大会名：PECERA:第 23 回太平洋幼児教育学会大会 ③開催日時：2023 年 7 月 7 日～9 日 ④開催場所：インドネシア・バリ ⑤発表タイトル：Development of interactive map recordings and documentation(ポスター・筆頭、Accept 済み) ⑥内訳（名目）：大会参加費、旅費一部補助	10 万	10 万 (※)
3	①申請者氏名：齊藤 彩 ②学会・大会名：日本パーソナリティ心理学会第 32 回大会 ③開催日時：2023 年 9 月 9 日～10 日 ④開催場所：石川県金沢市金沢歌劇座 ⑤発表タイトル：親の発達障害特性と親役割および子育てレジリエンスに関する研究（ポスター・筆頭（責任発表者）） ⑥内訳（名目）：旅費、ポスター印刷費	5 万	5 万
	①申請者氏名：石丸徑一郎 ②学会・大会名：26th Congress of the WORLD ASSOCIATION FOR SEXUAL HEALTH		

4	③開催日時：2023年11月2日～5日 ④開催場所：Mirage Park Resort Hote. アンタルヤ（トルコ） ⑤発表タイトル：i) Development process of Aromantic/Asexual Identity in Japan（口頭発表・2 nd ） ii) Autistic Tendencies in Japanese Adults with Gender Identity Disorder（ポスター・4 th ） ⑥内訳（名目）：大会参加費、旅費一部補助	10万	10万 （※）
5	①申請者氏名：内海緒香 ②学会・大会名：日本心理学会第87回大会 ③開催日時：2023年9月15日～17日 ④開催場所：神戸市 神戸国際会議場・神戸国際展示場 ⑤発表タイトル：女子大学生の高脂肪食摂取に関連する要因（ポスター・筆頭） ⑥内訳（名目）：大会参加費、旅費	5万	5万
6	①申請者氏名：辻谷真知子 ②学会・大会名：EECERA（European Early Childhood Education Research Association） Conference ③開催日時：2023年8月30日～9月2日 ④開催場所：リスボン（ポルトガル） ⑤発表タイトル：Early childhood practitioners' response to 'play fighting' in Japan: Based on a questionnaire survey using a fictional scene（ポスター・筆頭） ⑥内訳（名目）：大会参加費、旅費の一部補助	10万	10万 （※）
7	①申請者氏名：山田美穂 ②学会・大会名：2023年度 日本フォーカシング協会年次大会 ③開催日時：2023年8月19日～20日 ④開催場所：福岡県博多市（九州大学西新プラザ） ⑤発表タイトル：日本フォーカシング協会ダンス部3～フェルトセンスと踊る～：口頭（実技発表）・筆頭 ⑥内訳（名目）：旅費	5万	5万
8	①申請者氏名：砂川芽吹 ②学会・大会名：26th Congress of the WORLD ASSOCIATION FOR SEXUAL HEALTH ③開催日時：2023年11月2日～5日 ④開催場所：Mirage Park Resort Hote. アンタルヤ（トルコ） ⑤発表タイトル：Camouflaging in middle-aged autistic women: A qualitative study（ポスター・筆頭） ⑥内訳（名目）：大会参加費、旅費の一部補助	10万	10万 （※）

③ 「部門研究費」支援（所内公募・審査制）

【対象者】 人間発達教育科学研究所の研究者、特任教員

【助成総額】 100万円（1件あたりの上限：30万円）

※1部門2件まで申請可（同じ事業でも費目が異なれば2件申請可）

【申請期間】 2023年4月25（火）～5月16日（火）

【補助対象条件】

・研究所（部門）のミッションに関連する各部門の教育・研究活動全般。セミナーやシンポジウム

ジウムの開催諸経費、講師謝金、旅費、役務費、図書・物品費、印刷費等。

※補助対象者は申請前に部門長の承認を得てください。

※昨年度末の事前調査にご提出頂いた方も内容をご調整のうえ再提出をお願いします。

●**審査結果・部門研究費（総額：100万円）利用申請概況**

申請総額～1,560,000円（6件） 採択総額～1,410,000円（6件）

※但し、No.3(30万)については、国際シンポジウムの予算使用

（単位：円）

	研究（事業）名	申請者	部門メンバー	部門名	採択額
1	心理職の効果的な育成に関する研究	高橋 哲	山田美穂 石丸径一郎 平野真理 砂川芽吹	発達臨床支援研究部門	30万
2	文京区在住の未就園児家庭に対する子育て支援イベント	宮里暁美	浜口順子 内海緒香	保育実践研究部門	11万
3	国際シンポジウム 「世界の幼児教育は、今：UNESCO/タシュケント国際幼児教育会議の成果から」	小玉亮子	一見真理子	保育実践研究部門	30万 (※)
4	感情と食行動に関する尺度開発	合澤典子	大森美香	人間発達基礎研究部門	30万
5	幼児教育と表現の可能性をさぐる～ライフ×アート展開催～	浜口順子	刑部育子	保育実践研究部門	20万
6	幼児教育と表現の可能性をさぐる～ライフ×アート展開催報告書の制作～	浜口順子	刑部育子	保育実践研究部門	20万

2024年度

① 「研究推進費（論文支援）」（所内公募・審査制）

【対象者】 人間発達教育科学研究所の研究員、特任教員

【助成総額】 150万円（1件あたりの上限は25万円）

※1人1件まで申請可（今年度中に執行予定のものに限る）

【申請期間】 2024年5月7日（火）～5月21日（火）

【補助対象条件】

・研究所（部門）のミッションに基づく研究において、本年度中に投稿もしくは発表予定の論文で、以下経費に係るもの（採択の可否不問）を補助する。

①投稿・発表論文の英訳または英文校閲費

②投稿論文のオープンアクセス掲載費（APC）もしくは投稿審査料/掲載料

※投稿（発表）先は、査読（審査）付きの学会誌、学術誌、学会に限定（ハゲタカジャーナルに類する雑誌への掲載は不可）

※申請者である研究員／特任教員がファーストである必要はない。

●**審査結果**・・「**研究推進費（論文支援）**」（総額 150 万円）利用申請概況

申請総額～1,715,000 円（7 件）、採択総額～1,715,000 円（7 件）

	申請論文概要	申請額	採択額
1	<p>①申請者氏名：高橋 哲</p> <p>②論文タイトル：Public perception of recidivism risk of released correctional inmates in Japan オーサー順位：筆頭 発行（発表）予定年月日：未定 現在の審査状況：未投稿</p> <p>③掲載誌・発表学会：International Journal of Law and Psychiatry</p> <p>④内訳（名目）：投稿・発表論文の英訳または英文校閲費（もしくはオープンアクセス掲載費（APC））</p>	25 万	25 万
2	<p>①申請者氏名：小玉亮子</p> <p>②論文タイトル：A History of Reception of Reggio Emilia Early Childhood Education in Japan 共著者：浅井幸子、太田素子 オーサー順位：2nd 発行（発表）予定年月日：2024 年度中 現在の審査状況：投稿準備中</p> <p>③掲載誌・発表学会：European Early Childhood Education Research Journal</p> <p>④内訳（名目）：英文校閲費用、採択時、Figure 作成費用</p>	25 万	25 万
3	<p>①申請者氏名：今泉 修</p> <p>②論文タイトル：Effects of the visual perspective on sense of self-location (仮) 共著者：東井千春 オーサー順位：2nd 発行（発表）予定年月日：2024 年度中 現在の審査状況：投稿準備中</p> <p>③掲載誌・発表学会：Frontiers in Virtual Reality</p> <p>④内訳（名目）：英文校閲費約 63,000 円，オープンアクセス掲載費約 152,000 円 [975 USD])</p>	21 万 5 千	21 万 5 千
4	<p>①申請者氏名：齊藤 彩</p> <p>②論文タイトル：Relationship between mothers' and children' s ADHD traits and children' s emotional/behavioral outcomes 共著者：松本聡子 オーサー順位：筆頭 発行（発表）予定年月日：2024 年度中</p>	25 万	25 万

	現在の審査状況：未投稿（2024年7月までに再投稿） ③掲載誌・発表学会：International Journal of Developmental Disabilities ④内訳（名目）：英文校閲費		
5	①申請者氏名：合澤典子 ②論文タイトル：Validation and reliability assessment of the Japanese version of the Salzburg Emotional Eating Scale (SEES-J) 共著者：王燕園、大森美香 オーサー順位：筆頭 発行（発表）予定年月日：2024年度中 現在の審査状況：投稿準備中 ③掲載誌・発表学会：Eating Behavior ④内訳（名目）：英文校閲費	25万	25万
6	①申請者氏名：砂川芽吹 ②論文タイトル：Development of Camouflaging in autistic young women オーサー順位：筆頭 発行（発表）予定年月日：2025年2月 現在の審査状況：投稿準備中 ③掲載誌・発表学会：Autism in Adulthood ④内訳（名目）：英文校閲費	25万	25万
7	①申請者氏名：刑部育子 ②論文タイトル：Activating Young Children's STEAM Learning with Aha-Experiences; Supporting Infants and Toddlers' Creativity and Aesthetic Sense 共著者：土谷香菜子 オーサー順位：2nd 発行（発表）予定年月日：2024年12月末（締切） 現在の審査状況：投稿準備中 ③掲載誌・発表学会：Education Sciences "Special Issue "STEM Education: Creative Designs and Models" ④内訳（名目）：投稿論文のオープンアクセス掲載費（APC）30万円のうち上限25万まで	25万	25万

② 「研究推進費（学会発表補助）」（所内公募・審査制）

【対象者】 人間発達教育科学研究所の研究員、特任教員

【助成総額】 50万円（1件あたりの上限：国内5万円、海外10万円）

※1人1件まで申請可（今年度中に執行予定のものに限る）

【申請期間】 2024年5月7日（火）～5月21日（火）

【補助対象条件】

- ・研究所（部門）のミッションに関連する国内外の学会（大会）への参加経費（大会参加費、ポスター印刷等）と旅費（日当・宿泊費含む）の両方もしくはいずれか。大会参加費については、オンライン参加費含む。

・申請者の研究員／特任教員がファーストでなくてもよい。

●**審査結果・研究推進費（学会発表補助）（総額 50 万円）利用申請概況**

申請総額～676,969 円（8 件）、採択総額～676,969 円（8 件）

（単位：円）

	申請論文概要	申請額	採択額
1	①申請者氏名：内海緒香 ②学会・大会名：OMEP「世界幼児教育・保育機構」第76回 OMEP 世界大会 ③開催日時：2024年7月15日～19日 ④開催場所：Thailand Bangkok ⑤発表タイトル：CULTIVATING DIVERSITY THROUGH RHIZOME-BASED CHILDCARE MANAGEMENT: EXPLORING ECCE CURRICULUMS BASED ON “KURASHI” AND CREATIVITY IN JAPAN：ポスター・筆頭 ⑥内訳（名目）：大会参加費、旅費（3泊4日）	10万	10万
2	①申請者氏名：山田美穂 ②学会・大会名：International Association for Dance Medicine & Science 34th Annual Conference ③開催日時：2024年10月17日～20日 ④開催場所：Rimini, ITALY ⑤発表タイトル：Enhancing Self-Expression in Students through Dance/Movement Activities in a Special Needs School：ポスター・筆頭 ⑥内訳（名目）：旅費（5泊6日）	10万	10万
3	①申請者氏名：齊藤 彩 ②学会・大会名：日本教育心理学会第66回総会 ③開催日時：2024年9月14日～16日 ④開催場所：静岡県浜松市 ⑤発表タイトル：大学生の注意欠如・多動傾向と就業不安との関連（ポスター・筆頭（責任発表者）） ⑥内訳（名目）：大会参加費、旅費	5万	5万
4	①申請者氏名：今泉 修 ②学会・大会名：33rd International Congress of Psychology 2019 ③開催日時：2024年7月21日～26日 ④開催場所：チェコ（プラハ） ⑤発表タイトル：Graspable objects reduce pseudoneglect（ポスター・筆頭著者） Autistic imagination sub-traits and temporal integration in audition and vision（口頭・最終著者） ⑥内訳（名目）：大会参加費、ポスター印刷費	76,969	76,969
5	①申請者氏名：辻谷真知子 ②学会・大会名：European Early Childhood Education Research Association 32nd Conference ③開催日時：2024年9月3日～6日 ④開催場所：University of Brighton, England ⑤発表タイトル：Verbal interaction regarding social norms in	10万	10万

	early stage of speech development: From the observation of 1-year-old class in a Japanese daycare center: 口頭・筆頭) ⑥内訳 (名目): 大会参加費、旅費		
6	①申請者氏名: 石丸徑一郎 ②学会・大会名: World Professional Association for Transgender Health 28th Scientific Symposium ③開催日時: 2024年9月25日~30日 ④開催場所: スペイン、Oviedo ⑤発表タイトル: 1. Reliability And Validity Of The Japanese Version Of Gender Queer Identity Scale/ ポスター: オーサー順位 2) 2. Gender Differences In Sexual Orientation And Autistic Tendencies Among Psychiatric Clinic Patients With Gender Dysphoria/ ポスター: オーサー順位 4) ⑥内訳 (名目): 大会参加費、旅費	10万	10万
7	①申請者氏名: 合澤典子 ②学会・大会名: 日本健康心理学会第37回大会 ③開催日時: 2024年11月23日~24日 ④開催場所: 大分県別府市 ⑤発表タイトル: 修正版 Salzburg 感情起因の食行動尺度 (SEES-J) の作成および信頼性・妥当性の検討 (ポスター発表・筆頭 (責任発表者)) ⑥内訳 (名目): 大会参加費、旅費	5万	5万
8	①申請者氏名: 砂川芽吹 ②学会・大会名: INDONESIA AUTISM SUMMIT 2024 ③開催日時: 2024年10月3日~5日 ④開催場所: Malang, Indonesia ⑤発表タイトル: Relationship between self-esteem and camouflage in Autistic people (仮): ポスター・筆頭) ⑥内訳 (名目): 大会参加費、旅費の一部	10万	10万

③「部門研究費」支援 (所内公募・審査制)

【対象者】 人間発達教育科学研究所の研究員、特任教員

【助成総額】 60万円 (1件あたりの上限: 20万円)

※1部門2件まで申請可

【申請期間】 2024年5月7日 (火) ~5月21日 (火)

【申請条件】

- ・研究所 (部門) のミッションに関連する各部門の教育・研究活動全般。セミナーやシンポジウムの開催諸経費、講師謝金、旅費、役務費、図書・物品費、印刷費等。
- ・補助対象者は申請前に部門長の承認を得て下さい。
- ・昨年度末の事前調査にご提出頂いた方も内容をご調整のうえ再提出をお願いします。

●審査結果・部門研究費 (総額: 60万円) 利用申請概況

申請総額~848,740円 (5件) 採択総額~:848,740円 (全5件)

※但し、No.5については、国際拠点形成強化費の予算使用

(単位:円)

No	研究(事業)名	申請者	部門メンバー	部門名	採択額
1	認知発達科学に関する研究教育セミナーの開催	今泉 修	上原 泉	人間発達基礎研究部門	48,740
2	オンライン国際シンポジウム：世界の幼児教育は今、その2	小玉亮子	内海緒香 一見真理子 上垣内伸子	保育実践研究部門	20万
3	初心者の心理職の効果的な育成に関する研究	高橋 哲	石丸径一郎、 砂川芽吹 平野真理 山田美穂	発達臨床支援研究部門	20万
4	対人援助職の人々の心身の健康に関する研究—児童支援に関わる職員を対象としたフィールド調査—	合澤典子	齊藤彩 松本聡子 猪股富美子	人間発達基礎研究部門	20万
5	Andrea Scarantino 先生の招聘企画(日本発達心理学会・日本感情心理学会共催)	武藤世良	なし	人間発達基礎研究部門	20万(※)

(4) 年度別 論文一覧

【2022年度】

- 岡南愛梨・刑部育子 (2022). 1・2歳児クラスにおける仲間との遊びの変化——ビデオ観察ツール CAVScene における観察者の遊びの切り出しに着目して 質的心理学研究, 21, 34-50.
- 高谷実穂・刑部育子 (2022). フィンランドの保育者による子どもの主体性のとらえ方とその尊重 - フィンランドの ECEC の現場の記録から - お茶の水女子大学こども学研究紀要, 10, 97-107.
- 浜野隆 (2022). [図書紹介] クリスティ・クルツ著 仲田康一 (監修, 翻訳)・濱元伸彦 (翻訳) 『学力工場の社会学— 英国の新自由主義的教育改革による不平等の再生産』 日本教育政策学会年報, 29, 222-224.
- 浜野隆 (2022). ビッグデータ時代の学力論・学校論—学力格差の克服に向けた取り組みを中心に— 教育学年報, 13, 175-192.
- 平野順子・平野真理・並木有希・廣田愛海 (2023). 3歳未満児を育てる母親の自尊感情、レジリエンス、親性に関する研究—母親の就労と子どもの就園に着目して— 東京家政大学研究紀要人文社会科学, 63, 111-118.
- 三浦正江・平野真理・近藤有美香 (2023). 青年期・成人前期の女性が抱く女性観が一般性自己効力感、本来感、ハーディネスおよび人生への向き合い方に及ぼす影響 東京家政

- 大学研究紀要人文社会科学, 63, 39-48.
- 廣田愛海・平野真理 (2023). 日本における「雨」イメージの検討—雨中人物画の解釈にむけた地域差・性差・精神的健康による比較— お茶の水女子大学心理臨床相談センター紀要, 24, 107-118.
- Ohata, R., Asai, T., Imaizumi, S., & Imamizu, H. (2022). I hear my voice; therefore I spoke: The sense of agency over speech is enhanced by hearing one's own voice *Psychological Science*, 33, 1226–1239.
- Tsuji, Y., Imaizumi, S., Sugawara, M., & Oiji, A. (2022). Internalizing problems and suffering due to sensory symptoms in children and adolescents with and without autism spectrum disorder *Frontiers in Psychology*, 13, 872185.
- Tsuji, N., & Imaizumi, S. (2022). Sense of agency may not improve recollection and familiarity in recognition memory *Scientific Reports*, 12, 21711.
- 曾江久美・今泉修・内海緒香・伊藤大幸 (2022). リモート科学教室における子供たちの学び 応用物理教育, 46, 13–18.
- Ito, S., Miura, K., Miyayama, M., Matsumoto, J., Fukunaga, M., Ishimaru, K., Fujimoto, M., Yasuda, Y., Watanabe, Y., & Hashimoto, R. (2022). Association between globus pallidus volume and positive symptoms in schizophrenia. *Psychiatry and clinical neurosciences*, 76, 602-603.
- Endo, M., & Ishimaru, K. (2023). Perceptions on Becoming a Parent and Forming a Family: A Qualitative Exploration of the Social Experiences of Japanese Women with Same-Sex Partners. *LGBTQ+ Family: An Interdisciplinary Journal.*, 19, 228-243.
- Demizu, Y., Matsumoto, J., Yasuda, Y., Ito, S., Miura, K., Yamamori, H., Fujimoto, M., Hasegawa, N., Ishimaru, K., & Hashimoto, R. (2022). Relationship between autistic traits and social functioning in healthy individuals. *Neuropsychopharmacology reports*, 42, 226-229.
- 石丸径一郎 (2022). LGBTQ+の生きづらさとメンタルヘルスの諸課題 精神医学, 64, 1069-73.
- 石丸径一郎・森田真梨子・此下千晶 (2023). ジェンダー・セクシュアリティと心理支援 臨床心理士会雑誌, 94, 8-11.
- 石丸径一郎・此下千晶・森田真梨子・半田知佳・宮山未来乃 (2022). 児童思春期のトランスジェンダーと心理職の役割 小児内科, 54, 1731-34.
- 石丸径一郎・宮山未来乃・此下千晶・森田真梨子・牧美風・田中琴羽 (2023). 性的マイノリティに対するフォビア 思春期学, 40, 338-341.
- 石丸径一郎・宮山未来乃・出水友理亜・森田真梨子・此下千晶 (2022). 性的マイノリティのためのメンタルケア 精神科, 41, 820-825.
- 石丸径一郎・此下千晶・宮山未来乃・森田真梨子 (2024). 認知行動療法とジェンダー・セ

- クシュアリティ 行動療法研究, 50, 137-145.
- 伊藤大幸・氏家達夫・村山恭朗 (2022). 縦断研究は発達の解明にどう貢献するのか 発達心理学研究, 33, 167-175.
- 浜田恵・伊藤大幸・村山恭朗・高柳伸哉・明翫光宜・辻井正次 (2022). 小中学生における性別違和感の時間的安定性:6年間の縦断調査による検討 発達心理学研究, 33, 366-377.
- 高柳伸哉・伊藤大幸・浜田恵・明翫光宜・中島卓裕・村山恭朗・辻井正次. (2023). 中学3年時における自傷行為の発生に至る軌跡の検証. 教育心理学研究, 71, 62-73.
- 伊藤大幸 (2022). 発達研究における縦断的アプローチの役割と方法論: What, Why and How? 発達心理学研究, 33, 176-192.
- Ohnuma, A., Narita, Z., Tachimori, H., Sumiyoshi, T., Shirama, A., Kan, C., Kamio, Y., & Kim, Y. (2023). Associations between media exposure and mental health among children and parents after the Great East Japan Earthquake. *European journal of psychotraumatology*, 14, 2163127.
- 神尾陽子 (2022). ICD-11 では重篤気分調節症 (DMDD) の診断はなぜ採用されなかったのか 精神神経学雑誌, 124, 740-741.
- 神尾陽子 (2022). 外来における継続的な診療のポイント. 継続的な診療と生活のサポート—?一般小児科医がどこまでできるか. 小児科, 63, 1288-1294.
- 神尾陽子 (2022). 自閉スペクトラム症 小児内科, 54, 723-728.
- 神尾陽子 (2022). 実践講座. 自閉スペクトラム症—ASDの評価・診断 総合リハビリテーション, 50, 981-987.
- 神尾陽子 (2022). 特集 (学会企画シンポジウム) 生活している地域で発達障がい児者の支援をするために—気づきから支援のネットワークへ—. 多職種連携支援の観点から今後の成育医療の役割を問う. 発達障害研究, 44, 23-24.
- 神尾陽子 (2022). 発達障がい支援をメンタルヘルスの枠組みでとらえ直す 発達障害研究, 44, 9-16.
- 井村夏希・小玉亮子 (2022). アニメ「プリキュア」シリーズにおけるケアに関する価値観の変容 お茶の水女子大学子ども学研究紀要, 10, 87-96.
- 小玉亮子 (2023). 幼児教育におけるジェンダーポリティクス—ペスタロッチ・フレーベルハウスとナチズムの関係に着目して 教育育学研究, 89, 539-551.
- 松島のり子 (2023). 「1963年「幼稚園と保育所との関係について(通知)」の政策的意図 お茶の水女子大学 人文科学研究, 19, 77-89.
- 松島のり子 (2022). 「1966年「幼児教育の普及状況調査」の実施過程とその意義—幼稚園と保育所に関わる行政の連携に着目して—」 お茶の水女子大学子ども学研究紀要, 10, 1-12.
- 三宅雄大 (2023). 教育の観点から:「生活保護解体論」における教育費保障:大学等就学に着目して 貧困研究, 22, 96-107.

- 三宅雄大 (2023). 社会的投資との交差点：生活保護制度における「進学支援」と「人材投資」 地域社会学会ジャーナル, 9, 9-15.
- Tsuji, Y., Matsumoto, S., Saito, A., Imaizumi, S., Yamazaki, Y., Kobayashi, T., Fujiwara, Y., Omori, M., & Sugawara, M. (2022). Mediating role of sensory differences in the relationship between autistic traits and internalizing problems *BMC Psychology*, 10, 148.
- 大多和直樹・小川清華・神谷潤・権野禎・高橋沙綾 (2023). KH Coder をどう効果的に利用するか—実習からみえてきた初学者が共有しておくべきこと— 人間発達研究, 37, 1-22.
- 齊藤彩 (2023). 大学生の自閉スペクトラム症傾向および友人からのサポートと精神的健康の問題との関連 お茶の水女子大学人文科学研究, 19, 161-172.
- Stickley, A., Shirama, A., Kamio, Y., Takahashi, H., Inagawa, T., Saito, A., & Sumiyoshi, T. (2023). Association between autistic traits and binge drinking: Findings from Japan. *Social Psychiatry and Psychiatric Epidemiology*, 58, 217-226.
- Shirama, A., Stickley, A., Kamio, Y., Saito, A., Haraguchi, H., Wada, A., Hasegawa, Y., Sueyoshi, K., & Sumiyoshi, T. (2022). Emotional and behavioral problems in Japanese preschool children with subthreshold autistic traits: findings from a community-based sample. *BMC psychiatry*, 22, 499.
- Saito, A., Matsumoto, S., Sakata, Y., & Sugawara, M. (2023). The Relation Between Autism Spectrum Disorder Traits, Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder Traits, and Emotional Problems in Japanese University Students. *Advances in Neurodevelopmental Disorders*, 7, 525-534.
- 坂田侑奈・菅原ますみ・松本聡子・齊藤彩・吉武尚美 (2022). 夫婦の自閉スペクトラム症的行動特性と抑うつとの関連 心理学研究, 93, 292-299.
- 榊原洋一 (2023). 発達障害の臨床と感情 精神療法, 49, 212-215.
- 榊原洋一 (2022). 現代の子どもを取り巻く課題 チャイルドヘルス, 25, 718-721.
- 中下綾子・橋優実・矢野晴夏・加藤桃・砂川芽吹 (2023). 発達障害児の感情制御に関する我が国の支援の現状と課題 お茶の水女子大学心理臨床相談センター紀要, 24, 79-93.
- Takahashi, M., Yamaki, M., Kondo, A., Hattori, M., Kobayashi, M., & Shimane, T. (2022). Prevalence of adverse childhood experiences and their association with suicidal ideation and non-suicidal self-injury among incarcerated methamphetamine users in Japan. *Child Abuse & Neglect*, 131, 105763.
- 高橋哲・石丸徑一郎・砂川芽吹・山田美穂・新垣有貴・岡本みどり・河田あかり・中下綾子・加藤碧子・宮山未来乃・中山晶衣・ORUM DESIREE・岩壁茂 (2022). お茶の水女子大学心理臨床相談センター 第1回公開セミナー 開催報告 お茶の水女子大学心理臨床相談センター紀要, 24, 119-128.
- 服部真人・小林美智子・高橋哲・高岸百合子・大宮宗一郎・谷真如・嶋根卓也 (2022). 覚醒

- 剤使用の引き金に関する実証的研究－薬物依存と他のアディクションの併存に焦点を当てて 日本アルコール・薬物医学会雑誌, 57, 127-142.
- 白永陽子・菅野哲也・高橋哲 (2022). 受刑者の子どもに関する一般市民の意識調査 矯正研究, 5, 173-225.
- 高橋哲 (2023). 女子大学生の再犯リスク認知に関する検討 リスク学研究, 32, 155-164.
- 中山晶衣・高橋哲 (2022). 摂食障害からの回復に関するスコアピングレビュー
一回復の定義, 回復促進要因, 回復過程に注目して－お茶の水女子大学心理臨床相談センター紀要, 24, 57-67.
- 岡本みどり・高橋哲 (2022). 難民の子どものメンタルヘルスに関する研究の現状
－低・中所得国から高所得国への移住者を対象として－ お茶の水女子大学心理臨床相談センター紀要, 24, 21-32.
- 服部真人・小林美智子・高橋哲・高岸百合子・大宮宗一郎・谷真如・嶋根卓也 (2022). 薬物依存と他のアディクションが併存する薬物事犯者の特徴 犯罪心理学研究, 60, 1-15.
- 辻谷真知子・秋田喜代美・石田佳織・宮田まり子・宮本雄太 (2022). 園における廃材使用と子どもの参画:入手と使用後の過程に着目して こども環境学研究, 18, 60-68.
- 宮本雄太・秋田喜代美・石田佳織・辻谷真知子・宮田まり子 (2022). 戸外環境における3歳未満児の身体動作に対する保育者の意識 国際幼児教育研究, 29, 105-120.
- 辻谷真知子 (2022). 子どもの「けが」に関する保育者の考え方の傾向:保育者・園による相違に着目して こども環境学研究, 18, 61-66.
- 辻谷真知子 (2023). 保育における「戦いごっこ」の位置づけと展望 お茶の水女子大学人文科学研究, 19, 91-101.
- 上原泉 (2022). “できる力”から“楽しむ力”を育てる時代へ－子どもの遊びとナラティブ
チャイルド・サイエン, 24, 66-70.
- 小澤怜奈・上原泉・甲田宗良 (2022). 大学生におけるセルフ・コンパッションに影響する運動・体育の諸要因の検討 徳島大学総合科学部人間科学研究, 30, 29-41.
- 山田美穂・橋本有子 (2023). ソマティクスを基盤とする教育実践における教師の身体知－協働的インタビューとムービングTAEを用いた言語化の試み 質的心理学研究, 22, 25-44.
- 新垣有貴・山田美穂 (2023). 心理士のセルフケアの定義と分類における整理の試み お茶の水女子大学心理臨床相談センター紀要, 24, 33-44.
- 加藤碧子・山田美穂 (2023). 心理療法における本当の自分 (Authenticity) の探求 お茶の水女子大学心理臨床相談センター紀要, 24, 95-106.
- 山田美穂 (2023). 身体・感情・共感 ダンスセラピーの実践 精神療法, 49, 220-222.
- 山田美穂・山部英之 (2022). 論語を身体で表現する:ダンスセラピーの視点を取り入れた教育実践 ダンスセラピー研究, 14, 39-41.
- 河田あかり・榎菜々子・山下美和・砂川芽吹・山田美穂 (2023). 自閉スペクトラム症のあ

る女の子の親子プログラム「あまなつ茶あむ」の実践：オンラインでの試行事例 お茶の水女子大学心理臨床相談センター紀要, 24, 45-56.

Yamamiya, Y., & Omori, M. (2023). How prepartum appearance-related attitudes influence body image and weight-control behaviors of pregnant Japanese women across pregnancy: Latent growth curve modeling analyses *Body Image, 44*, 53-63.

Wallner, C., Kruber, S., Adebayo, S. O., Yamamiya, Y., et al. (2022). Interethnic influencing factors regarding buttocks body image in women from Nigeria, Germany, USA, and Japan International *Journal of Environmental Research and Public Health, 19*, 13212.

Yamamiya, Y., Desjardins, C. D., & Stice, E. (2022). Sequencing of symptom emergence in anorexia nervosa, bulimia nervosa, binge eating disorder, and purging disorder in adolescent girls and relations of prodromal symptoms to future onset of these eating disorders *Psychological Medicine, 53*, 4657-4665.

【2023 年度】

富士原紀絵 (2023). 日本の教育における資質・能力の育成とその評価の史的変遷 教育目標・評価学会紀要, 33, 1-8.

杉山沙旺美・刑部育子 (2024). 「天然知能」の視点から捉える保育者の専門性 - 保育者のひらめきと生まれ続ける新たな実践の検討 - 共創学, 5, 10-22.

浜口順子 (2024). 園児から見た幼稚園主事・倉橋惣三ー「お茶の水幼稚園」卒業生への質問紙調査からー 幼児の教育, 123, 44-59.

平野真理 (2024). レジリエンスを引き出す箱庭の活用 精神療法, 50, 47-53.

小塩真司・中谷素之・西山久子・川本哲也・平野真理・遠藤利彦 (2024). 学会企画シンポジウム 1 非認知能力ー基本的な考え方, 応用可能性, そして問題点ー 教育心理学年報, 63, 227-237.

廣田愛海・平野真理 (2024). 国外における雨中人物画テストの実証的研究の動向 お茶の水女子大学臨床相談センター紀要, 25, 61-72.

上野雄己・平野真理・小塩真司 (2023). 子どもの身体活動とレジリエンス 子どもと発育発達, 21, 40-46.

岩根由佳・平野真理 (2024). 精神疾患の親をもつ子どもに関する研究の動向と課題 お茶の水女子大学臨床相談センター紀要, 25, 149-158.

平野真理・三浦正江・近藤有美香 (2024). 青年期・成人前期用女性観尺度の作成ー現代日本に生きる若者が抱える女性観の探索的検討ー 東京家政大学研究紀要人文社会科学, 61, 39-48.

上野雄己・平野真理・小塩真司 (2024). 壮年期・中年期の日本人における身体活動とレジリエンスの関連：傾向スコアを用いた逆確率重み付け推定法による試み スポーツ心理

- 学研究, 51, 1-12.
- 宝月理恵 (2023). 1920~1930年代における〈産む主体〉に対する「量」と「質」からの介
ジェンダー研究, 26, 43-47.
- 宝月理恵 (2023). 結核患者のバイオソシアリティと選択的無知：大正末期の患者雑誌に集
う人々 現代思想, 51, 90-100.
- 宝月理恵 (2023). 昭和初期における新中間層の母親たちの日常的衛生管理：家庭の衛生化
とケアの倫理 日本の教育史学, 66, 93-97.
- Tsuji, Y., & Imaizumi, S. (2024). Autistic traits and speech perception in social and non-social
noises *Scientific Reports*, 14, 1414.
- Tagami, U., & Imaizumi, S. (2023). Mindfulness trait mediates between schizotypy and
hallucinatory experiences *Humanities and Social Sciences Communications*, 10, 354.
- Murayama, Y., Ito, H., Hamada, M., Takayanagi, N., Nakajima, T., Myogan, M., & Tsujii, M.
(2024). Longitudinal associations between response-style strategies and abnormal eating
behaviors/attitudes in adolescents: A cross-lagged panel model *Journal of Eating
Disorders*, 12, 33.
- 伊藤大幸・中川 威・片桐正敏・田中善大・野村信威・原田新・村山恭朗 (2023). 実践論文
がつなぐ研究と実践 発達心理学研究, 34, 97-104.
- 伊藤大幸 (2023). 特別支援教育に関する研究の動向:研究デザインの内的妥当性の観点か
ら 教育心理学年報, 62, 108-122.
- 明翫光宜・高柳伸哉・鈴木勝昭・鈴木康之・伊藤大幸・村山恭朗・山根康宏・小倉正義・水
間宗幸・白石雅一・望月直人・水口勲・中島卓裕・浜田恵・中島俊思・野沢朋美・高田
晃治・松田凌・曾我部哲也・辻井正次 (2023). 無料低額宿泊所入所者の心理学的・精
神医学的特徴の実態調査 臨床精神医学, 52, 1235-1245.
- 曾江久美・羽瀨仁恵・今泉修・内海緒香・伊藤大幸 (2024). 学習者のリアルタイム感情測
定システム RTEMs の開発 日本教育工学会論文誌, 48, 253-262.
- 神尾陽子 (2023). 発達障害を理解する①Case に学ぶ典型例と対処法. 自閉スペクトラム
症(ASD) 総合診療, 33, 1041-1045.
- 神尾陽子 (2023). 第 120 回東京小児科医会学術講演会 発達障害の診断・治療・支援そして
地域内連携 東京小児科医会報, 41, 51-54.
- Omori, M., & Yamazaki, Y. (2023). Psychosocial perspectives on Preventive behaviours of
infectious disease: An empirical study in Japan. *The COVID-19 Pandemic in Asia and
Africa: Societal Implications, Narratives on Media, Political Issues: Societal Implications,
Narratives on Media, Political Issues*, 143, 205-218.
- Montanari, M., Perone, S., Omori, M., Kayo, A. & Barth, I. (2023). Same Issues, Different
Perceptions: A pilot study of pandemic related issues among Italian and Japanese
populations. *The COVID-19 Pandemic in Asia and Africa: Societal Implications,*

- Narratives on Media, Political Issues: Societal Implications, Narratives on Media, Political Issues, 143, 205-218.*
- 翁川千里・田代琴美・岩城美良・大森美香・渡辺弥生 (2023). 音声からの他者感情理解と共感性との関連 教育心理学研究, 71, 291-304.
- Omori, M., Aizawa, N., & Yamazaki, Y. (2023). Job-search behaviors during involuntary unemployment: A social cognitive approach. *Journal of Career Development, 50, 965-976.*
- 齊藤彩 (2024). 高等学校における通級による指導に関する研究動向と展望 お茶の水女子大学人文科学研究, 20, 85-95.
- Liu, Y., Saito, A., Matsumoto, S., Yoshitake, N., & Sugawara, M. (2023). Stress Mindset and University Students' Mental Health in Japan During the COVID-19 Pandemic: A Mediating model. *Japanese Psychological Research*, Advance online publication.
- 齊藤彩・松本聡子・吉武尚美・菅原ますみ (2023). 大学生の注意欠如・多動傾向と抑うつとの関連—コロナ禍におけるストレスを媒介として— 教育心理学研究, 71, 257-276.
- 榊原洋一 (2023). 「コロナ 禍はまだ終わっていない」 保育通信, 820, 14-16.
- 榊原洋一 (2023). 「コロナ禍で5歳児の発達に遅れが見られた!？」 保育通信, 824, 24-27.
- 榊原洋一 (2023). 「子どもの便秘をめぐる」 保育通信, 825, 10-12.
- 榊原洋一 (2023). 「新型コロナウイルス感染対策と保育」 保育通信, 817, 20-23.
- 小川淳子・持田聖子・木村治生・劉愛萍・榊原洋一 (2024). Finding Factors as Predictors of Children's Well-being Focusing On Resilience During the COVID-19 Pandemic Based on Analysis Results of the "Survey on Children's Daily Life Among Eight Asian Countries 2021" *ASIA-PACIFIC JOURNAL OF RESEARCH IN EARLY CHILDHOOD EDUCATION, 18, 3-24.*
- 平沢和司・杉野勇・歸山亜紀 (2023). 無作為抽出者を対象としたミックスモード調査の可能性—ウェブ法と郵送法の比較を中心に 現代社会学研究, 36, 77-93.
- Sunagawa, M. (2023). How much of my true self can i show? social adaptation in autistic women: a qualitative study *BMC Psychology, 11, 144.*
- 矢野晴夏・竹村美那・砂川芽吹 (2024). 自閉スペクトラム症のある児童の食の特異性とその支援の現状と課題 お茶の水女子大学心理臨床相談センター紀要, 25, 157-166.
- 中下綾子・砂川芽吹 (2024). 注意欠如多動症の成人が経験する感情制御困難の現状理解—感情制御困難の構成要因と内向的感情に着目したスコーピングレビュー お茶の水女子大学心理臨床相談センター紀要, 25, 103-115.
- 砂川芽吹 (2023). 発達障害とジェンダー, セックス—自閉スペクトラムのある女の子・女性を中心として— 発達障害研究, 45, 140-151.
- Takahashi, M. (2023). Impact of base rate information on estimated risk of recidivism of sex offenders in Japan *Psychology, Crime & Law, 30, 1452-1466.*

- Kondo, A., Shimane, T., Takahashi, M., Kobayashi, M., Otomo, M., Takeshita, Y., & Matsumoto, T. (2023). Sex differences in the characteristics of stimulant offenders with a history of substance use disorder treatment *Neuropsychopharmacology Reports*, *43*, 561-569.
- 高橋哲・鈴木愛弓・近藤あゆみ・服部真人・小林美智子・喜多村真紀・嶋根卓也 (2024). 覚醒剤事犯受刑者における自殺念慮の生涯経験率とその関連要因の検討 自殺予防と危機介入, *44*, 1-8.
- 高橋哲 (2023). 再犯防止に犯罪白書が果たす役割とその利活用の提案 罪と罰, *61*, 6-16.
- Tsujitani, M. (2023). Early Childhood Practitioners' Perceptions of Children's Risky Play Based on Childhood and Present Practice: A Questionnaire Survey in Japan *Early Childhood Education Journal*, *52*, 2009-2020.
- Tsujitani, M., Akita, K., Ishida, K., Miyata, M. & Miyamoto, Y. (2023). Outdoor environment for children below 3 years in Japanese early childhood care centers: Focusing on practices and views related to risky experiences *Asia-Pacific journal of research in early childhood education*, *17*, 47-71.
- 辻谷真知子・秋田喜代美・石田佳織・宮田まり子・宮本雄太 (2023). 園と地域の人々との関係構築に向けてー子どもの経験と園内で共有される内容からー 国際幼児教育研究, *30*, 35-49.
- 辻谷真知子 (2023). 園の規範について保育者が課題と感ずることー自由記述回答の分析からー お茶の水女子大学子ども学研究紀要, *11*, 1-10.
- 浅原正幸・川崎采香・上原泉・酒井裕・須藤百香・谷口巴・小林一郎・越智綾子・鈴木彩香 (2023). 「過去」「未来」を主題とする作文の分析 計量国語学, *34*, 17-30.
- 上原泉 (2023). 幼児期から思春期の自伝的語りの変遷過程と経験の捉え方 臨床神経科学, *41*, 1079-1082.
- 橋本有子・山田美穂 (2023). 「一人称の身体」に根差した教授法：ソマティック・ムーブメント／ダンスの教育実践を題材に。 舞踊学, *46*, 35-46.
- Yamada, M., & Kawano, T. (2024). Dance/movement therapy pedagogy with Japanese psychology graduate students: facing 'haji' *Body, Movement and Dance in Psychotherapy*, *19*, 127-141.
- Yamada, M., Nakanishi, Y., Okada, S., & Akutsu, T. (2023). Practitioner–researchers' views of disability education project for children with severe multiple disabilities: A first-person group study using collaborative autoethnography *International Journal of Music Education*, *42*, 495-507.
- 山田美穂・石丸徑一郎・砂川芽吹・高橋哲・平野真理・山口千晴・児玉美希・森裕子・笠原千秋・出水友理亜・廣田愛海・岡本みどり・金澤英莉・河田あかり・此下千晶・ORUM DESIREE・最首優希・齋藤仁美・高橋あゆみ・岩壁茂 (2024). お茶の水女子大学心理

- 臨床相談センター第2回公開セミナー開催報告 お茶の水女子大学心理臨床相談センター紀要, 25, 181-193.
- 山田美穂 (2024). 巻頭言 お茶の水女子大学心理臨床相談センター紀要, 25, 無し (巻頭言のため).
- 高橋あゆみ・山田美穂 (2024). 育児中の母親の現状と支援に関する文献検討—育児への否定的感情とソーシャル・サポートに焦点を当てて— お茶の水女子大学心理臨床相談センター紀要, 25, 95-104.
- 最首優希・山田美穂 (2024). 月経随伴症状が女性労働者にもたらす心理社会的困難に関する研究の現状と課題—「身体」「心」「職場」への影響と生理休暇制度に着目して— お茶の水女子大学心理臨床相談センター紀要, 25, 49-60.
- 山田美穂 (2023). 恥をほどいて躰は踊る 臨床心理学, 23, 432-433.
- 河田あかり・山田美穂 (2024). 乳幼児の母親が抱く子育てへの否定的な感情に関する質的研究の動向と今後の課題 お茶の水女子大学心理臨床相談センター紀要, 25, 73-84.
- 砂川芽吹・山田美穂 (2023). 自閉スペクトラムのある女の子の親子支援プログラム：試行実践と課題 発達心理学研究, 34, 145-158.
- 橋優実・加藤桃・最首優希・Vabulnik Mariia・河田あかり・砂川芽吹・山田美穂 (2024). 自閉スペクトラムのある小6女子とのところとからだプログラム—あまなつ茶あむでの自己表現の取り組み— お茶の水女子大学心理臨床相談センター紀要, 25, 119-130.
- Swami, V., Tran, U. S., Stieger, S., … Yamamiya, Y., et al. (2023). Body appreciation around the world: Measurement invariance of the Body Appreciation Scale-2 (BAS-2) across 65 nations, 40 languages, gender identities, and age *Body Image*, 46, 449-466.
- Yamamiya, Y., & Omori, M. (2023). How prepartum appearance-related attitudes influence body image and weight-control behaviors of pregnant Japanese women across pregnancy: Latent growth curve modeling analyses *Body Image*, 44, 53-63.
- Yamamiya, Y., & Stice, E. (2024). Risk factors that predict future onset of anorexia nervosa, bulimia nervosa, binge eating disorder, and purging disorder in adolescent girls *Behavior Therapy*, 55, 712-723.

【2024年度】

- 乗濱駿平・耿世嫻・宮崎翔・下島銀士・平野真理・ホシオシモ・矢谷浩司 (2024). 筆記開示チャットボットにおけるストレス解消感を高める視覚フィードバックデザインの比較評価 研究報告ユビキタスコンピューティングシステム, 2024, 1-8.
- 上野雄己・平野真理 (2024). 未就学児を持つ親における子育て経験とレジリエンスの関連 厚生指標, 71, 25-32.
- 宝月理恵 (2024). 社会学と医史学 日本医史学雑誌, 70, 262-263.

- Toi, C., Ishiguchi, A., & Imaizumi, S. (2024). Height of the first-person perspective affects the out-of-body experience illusion *Frontiers in Virtual Reality*, 5, 1445725.
- Tsuji, N., & Imaizumi, S. (2024). Order effects on the rubber hand illusion expectancy: A replication and extension of Lush (2020) *Collabra: Psychology*, 10, 116190.
- 曾江久美・羽瀨仁恵・今泉修・内海諸香・伊藤大幸 (2024). 学習者のリアルタイム感情測定システム RTEMS の開発 日本教育工学会論文誌, 48, 253-262.
- Nakamura, T., Sumiyoshi, T., Kamio, Y., & Takahashi, H. (2024). Reduced multiscale complexity of daily behavioral dynamics in autism spectrum disorder. *Psychiatry and Clinical Neuroscience Reports*, 3, e70016.
- 神尾陽子 (2024). 診断閾下の発達障害の臨床的意義 教育と医学, 821, 108-114.
- 村中智彦・神尾陽子 (2024). 知的障害・自閉症者の強度行動障害への支援の到達点—教育・福祉・医療連携の新たな一歩— 発達障害研究, 46, 19-28.
- 神尾陽子 (2024). 発達障害者にとっての「最適な」アウトカムとは何か こころと文化, 22, 224-228.
- 小玉亮子 (2024). 教育のランキングから見えること, 見えないこと— ジェンダーギャップ指数を手がかりに ジェンダー法学, 11, 49-60.
- 小玉亮子 (2024). 激動の 20 世紀を「よき教師」として生きる—ヒルデガルド・フォン・ギールケの場合— 歴史評論, 889, 17-31.
- 小玉亮子 (2024). 政治的実践としての幼児教育—1960 年代のレッジョ・エミリア市立乳児保育所・幼児学校に焦点を当てて— お茶の水女子大学子ども学研究紀要, 12, 11-21.
- 小玉亮子 (2024). 幼小中高でつながる探究-レッジョエミリア市立幼児学校の思想から- 高校生活指導, 217, 46-53.
- 宮里暁美・浜口順子 (2024). 大学コミュニティーにおける保育の「場」の多様性—文京区立お茶の水女子大学こども園 8 年間の歩みから 幼児の教育, 123, 48-62.
- Nishi, R. (2024). Final report: The Froebelian approach and the philosophy of Sozo Kurahashi: The Japanese ECEC Pioneer Froebel Trust 助成金最終報告書
- Wang, X., Duan, X., Sugawara, M., & Omori, M. (2024). The impact of social support on depressive symptoms through mindfulness and resilience among Chinese parents who lost their only child. *OMEGA: Journal of Death and Dying*, 302228241272529.
- 齊藤彩・原口英之 (2024). 専門学校における障害学生支援の実態に関する調査—発達障害特性のある学生に着目して— 特殊教育学研究, 62, 93-103.
- 榊原洋一 (2024). 海外文献の紹介 子どもにコロナワクチンは効果があるか? チャイルドヘルス, 27, 489-489.
- 榊原洋一 (2024). 海外文献の紹介 自閉症の子どものいる家族に生まれてくる子ども(次子)の 20.2%が自閉症を発症する チャイルドヘルス, 27, 817-817.
- 榊原洋一 (2024). 海外文献の紹介 小児期の虐待は子どもの問題行動の原因となる チャイ

- ルドヘルス, 27, 650-651.
- 榊原洋一 (2024). 海外文献の紹介 先天性サイトメガロウイルス感染症は自閉症の危険因子? チャイルドヘルス, 27, 567-567.
- 榊原洋一 (2024). 海外文献の紹介 添い寝の有無と乳幼児突然死の関係 チャイルドヘルス, 27, 409-409.
- 榊原洋一 (2024). 海外文献の紹介 妊婦の喫煙は,生まれてくる子どもの認知発達や脳機能に悪影響を及ぼす チャイルドヘルス, 27, 321-321.
- 榊原洋一 (2024). 海外文献の紹介 母子の低栄養が全年齢の人類の死亡や障害に与える影響の全体像 チャイルドヘルス, 27, 737-737.
- 榊原洋一 (2024). 気になる感染症・病気の動向と保育の中での予防・対応(第5回)新型コロナ・麻疹など感染状況とワクチン接種 保育通信, (830), 18-20.
- 榊原洋一 (2024). 気になる感染症・病気の動向と保育の中での予防・対応(第6回)わかっているようで難しい睡眠の話 保育通信, (833), 28-30.
- 村山眞維・太田勝造・ダニエル・H・フット・杉野勇・飯考行・石田京子・森大輔・椛嶋裕之 (2024). 弁護士への信頼と選択 法と社会研究, 9, 113-155.
- 森裕子・伊藤颯姫・高橋哲 (2024). なぜ人は褒めを皮肉として受け取る場合があるのか 心理臨床学研究, 41, 572-582.
- 高橋哲 (2024). 効果検証センターに期待すること 刑政, 135, 46-53.
- 高橋哲 (2024). 子どもへの無償の愛という幻想—「嬰兒殺」研究 臨床心理学, 24, 447-451.
- 喜多村真紀・嶋根卓也・高橋哲・小林美智子・大伴真理恵・鈴木愛弓・松本俊彦 (2024). 薬物使用のトリガーとしての月経前症状を持つ女性の特徴—覚醒剤使用のメリット・デメリットに焦点を当てて— 女性心身医学, 28, 349-356.
- 辻谷真知子 (2024). 保育実践における安全のための制限やきまりに関する判断——保育者への半構造化面接から—— 日本教育心理学会編『教育心理学研究』, 72, .
- 上原泉・張天依・池谷裕二 (2024). 退屈傾向尺度 (Boredom Proneness Scale) 日本語版の信頼性と妥当性の検討 —因子構造の確認— 日本ヒューマンケア科学会誌, 17, 8-18.
- Putnam, S. P., Selec, E., French, B., Gartstein, M.A., Lira Luttges, B., Utsumi, S., and 488 other Members of the Global Temperament Project (2024). The Global Temperament Project: Parent-reported temperament in infants, toddlers, and children from 59 nations. *Developmental Psychology*, 60, 253-263.
- 山田美穂 (2024). 序文 大学教育における「わたしのからだ」 ダンスセラピー研究, 16, 1-2.
- Swami, V., White, M. T., Voracek, M., … Yamamiya, Y., et al. (2024). Exposure and connectedness to natural environments: An examination of the measurement invariance of the Nature Exposure Scale (NES) and Connectedness to Nature Scale (CNS) across 65 nations, 40 languages, gender identities, and age groups. *Journal of Environmental*

Psychology, 99, 102432.

Yamamiya, Y., Suzuki, T., & Mukai, T. (2024). Perceptual discrepancies of body sizes in Japanese female college students: Using a 3-D silhouette scale. *Japanese Psychological Research*, Advance online publication.

Yamamiya, Y., & Stice, E. (2024). Risk factors that predict future onset of anorexia nervosa, bulimia nervosa, binge eating disorder, and purging disorder in adolescent girls. *Behavior Therapy*, 55, 712-723.

(5) 年度別 書籍一覧

【2022 年度】

杉山雅宏・平野真理・金子恵美子・相馬誠一(編) (2022). レジリエンスとグループアプローチ/オンラインを用いたグループアプローチ/しあわせすごろく グループ・アプローチでつながり UP! 学級経営のスタートがラクになる 20 のワザ (pp.24-27, 33-36, 80-83) 学時出版

平野真理 (2023). 自分らしいレジリエンスに気づくワーク～潜在的な回復力を引き出す心理学のアプローチ 金子書房

平野真理 (2022). レジリエンス 臨床心理学中事典 (pp.444-445) 遠見書房

平野真理 (2023). 集団を対象とした支援：集団療法 心理学的支援法 (n.d.) ミネルヴァ書房

小玉亮子・一見真理子(編) (2022). 20 世紀初頭のドイツにおける幼児教育の展開—ペスタロッチ・フレーベルハウスに焦点をあてて— 『幼児教育史研究の新地平 -幼児教育の現代史 (幼児教育史学会 15 周年記念下巻)』 (pp.14-38) 萌文書林

松島のり子 (2022). 保育所の対象・目的を規定した「保育に欠ける」をめぐる解釈の変遷 『幼児教育史研究の新地平 下巻 —幼児教育の現代史—』 (pp.102-126) 萌文書林

松浦素子 (2023). 第 1 章 C 成人期初期・中年女性の発達と心理・社会的課題 助産学講座 4 基礎助産学 4 母子の心理・社会学 第 6 版 (pp.35-65) 医学書院

三宅雄大 (2023). 教育政策 社会福祉の原理と政策 (pp.136-146) 全国社会福祉協議会

齊藤彩 (2022). 思春期の注意欠如・多動傾向と情緒の問題に関する心理学的研究: 遺伝と環境を踏まえた関連メカニズム 風間書房

齊藤彩・菅原ますみ (2022). 第 2 章 保護的・補償的体験 (PACEs) —ACEs に対する解毒剤 小児期の逆境的体験と保護的体験—子どもの脳・行動・発達に及ぼす影響とレジリエンス (p.24) 明石書店

齊藤彩・菅原ますみ (2023). 第 1 章 女性のライフサイクル各期における心理・社会的課題 B. 思春期・青年期女性の発達と心理・社会的課題 助産学講座 4 基礎助産学 [4] 母子の心理・社会学 第 6 版 (n.d.) 医学書院

- 砂川芽吹 (2022). 第2章「発達障害のある男女に見られるカモフラージュの違い」 続・発達障害のある女の子・女性の支援: 自分らしさとカモフラージュの狭間を生きる (pp.21-37) 金子書房
- 内海緒香・菊池知子・刑部育子・小玉亮子・高橋陽子・辻谷真知子・中澤智子・浜口順子・松島のり子・宮里暁美・山下智子 (2023). お茶の水女子大学 保育マネジメント研究ブックレット vol.1ー 保育マネジメントの現状と展望ー 国立大学法人お茶の水女子大学保育マネジメント研究会
- 山田美穂(2023). 障害×からだ これからの障害心理学 (p.29) 有斐閣

【2023 年度】

- 富士原紀絵 (2023). 4.授業中の口頭でのフィードバックの影響力 (pp.107-163) 法律文化社
- 浜野隆 (2023). 最高の子育て ソシム
- 平野真理 (2023). 集団療法に基づく支援 (pp.104-117) ミネルヴァ書房
- 平野真理 (2024). 感受性に対する心理支援 (pp.140-151) 花伝社
- 平野真理 (2023). 臨床場面への応用 (pp.213-315) 福村出版
- 平野真理 (2024). 心のレジリエンスのプロセス/心のレジリエンスの個人差/心のレジリエンスの発達 (pp.26-63) 放送大学教育振興会
- 宝月理恵 (2024). 近代日本の衛生とジェンダー 〈ひと〉から問うジェンダーの世界史 第1巻「ひと」とはだれか?ー身体・セクシュアリティ・暴力 (n.d.) 大阪大学出版会
- 一見真理子 (2023). 仁木ふみ子追悼文集 (p.294) 仁木ふみ子追悼文集編集グループ
- 一見真理子(編) (2024). 世界の幼児教育は、今 UNESCO/タシュケント国際幼児教育会議の成果から お茶の水女子大学人間発達教育科学研究所"
- 今泉修 (2023). 身体性と物語性の架け橋 自己の科学は可能か: 心身脳問題として考える (pp.43-66) 自閉スペクトラム症児の音声・非音声下における言語聴取困難
- 伊藤大幸 (2024). コロナ禍における発達 育ちと学びの心理学 (pp.12-13) 平石賢二
- 神尾陽子 (2023). 発達障害の精神病理 IV-ADHD 編 ADHD が医療化するということ: 「大人の ADHD」再考. (45736) 星和書店
- 神尾陽子 (2023). 現場からみたセカンドオピニオン 児童精神科のセカンドオピニオン: 自験例から. こころの科学増刊. 受ける? 受けない? 精神科セカンドオピニオン (pp.80-87) 日本評論社
- 神尾陽子 (2023). このまま使える! 不安症状のある自閉症児のための認知行動療法(CBT) マニュアル ミネルヴァ書房
- 神尾陽子(監修) (2023). 子どもの社会的行動のアセスメントー早期発見と支援に生かせる乳幼児健診でのままごと遊び 風間書房

- 松島のり子 (2024). 「保育マネジメント」をめぐる歴史の一端—保育施設の長に求められたこと お茶の水女子大学 保育マネジメント ブックレット vol.2 —保育マネジメントの現状と展望 2— (pp.3-11) お茶の水女子大学附属図書館 (E-book サービス)
- 宮里暁美 (2023). 一人ひとりの育ちの物語 今、この子は何を感じている？ 0歳児の育ちを支える視点 ひかりのくに (pp.42-99) ひかりのくに
- 宮里暁美 (2023). 「思考力の芽生え」にかかわる発達と保育 子どもの発達から見る「10の姿」の保育実践 (pp.82-95) ぎょうせい
- 榊原洋一 (2024). よくわかる ADHD のペアレンティング 落ち着きのない子を自信をもって育てるために ナツメ社
- 榊原洋一(監修) (2023). ADHD 2.0 特性をパワーに変える科学的な方法 ナツメ社
- 榊原洋一・神尾陽子 (2023). 発達障害の診断と治療—ADHD と ASD 診断と治療社
- 杉野勇・平沢和司(編) (2024). 無作為抽出ウェブ調査の挑戦 (p.208) 法律文化社
- 上原泉 (2023). 2.認知の発達 新 乳幼児発達心理学 [第2版]:子どもがわかる 好きになる (pp.15-40) 福村出版
- 内海緒香 (2024). 編集後記 (p.61) 国立大学法人 お茶の水女子大学 人間発達教育科学研究所
- 内海緒香 (2024). お茶の水女子大学ブックレット vol.2 -保育マネジメントの現状と展望 2- お茶の水女子大学附属図書館 (E-book サービス)

【2024年度】

- 榊原洋一(監修)(2024). ADHD がわかる本 正しく理解するための入門書 講談社
- 西隆太朗(2024). 保育を見ること、語り合うこと: 0~5歳児保育の写真・動画から学ぶ (p.112) 小学館
- 榊原洋一(2024). よくわかる ADHD の子どものペアレンティング ナツメ社
- 神尾陽子(2024). よくわかる自閉スペクトラムの子どものペアレンティング: こだわりの強い子を自信をもって育てるために ナツメ社
- 細谷実・小玉亮子・海妻径子(訳) (2024). 第7章「男たちの標準的な社会」・第9章「新しい男性性にむけて」 男のイメージ (n.d.) 中公新書
- 神尾陽子 (2024). 発達障害のインフレーション 発達障害なんか怖くない: 「特性」を「障害」にしないために (pp.117-146) 日本評論社
- Sugino, U. (2024). *Work History Factors Affecting Lawyers' Incomes: Firm Size, Clientele, and Legal Apprenticeship Cohort* The Japanese Legal Profession in Transition (pp.75-89) Springer
- 平野真理 (2024). 第16章 レジリエンスを引き出す心理支援 そもそも心理支援は、精神科治療とどう違うのか?—対話が拓く心理職の豊かな専門性 (pp.140-147) 誠信書房

- 平野真理 (2024). 二次元レジリエンス要因尺度 心理尺度構成の方法：基礎から実践まで (pp.242-248) 誠信書房
- 富士原紀絵 (2024). 「第2章 及川平治「分団式動的教育法の原点—宮城県師範学校時代を中心に—」」 大正新教育の実際家 (pp.29-52) 風間書房
- 富士原紀絵 (2024). 「教科書を超えて言語の力を育む」 探究の学びを拓く NIE (pp.19-24) 京都新聞出版センター
- 宝月理恵 (2024). 「近代日本の衛生とジェンダー」 〈ひと〉から問うジェンダーの世界史 第1巻 「ひと」とはだれか?—身体・セクシュアリティ・暴力 (pp.180-183) 大阪大学出版会
- 小玉亮子(編) (2024). 性別役割分業・子どもと教育の歴史 ジェンダー事典 (n.d.) 丸善出版
- Takahashi, M. (2024). *Current issues in offender assessment and rehabilitation in Japan*. In Chu, C.M.(Ed). *Offender Rehabilitation in Asia: Integrating and Adapting Western Models to Improve Outcomes*. New York; Routledge.

3. 活動報告（国際シンポジウム、セミナー等） ※詳細は第1部参照

(1) 研究所 主催/共催/後援 シンポジウム/セミナー

- ①ヒューマンライフイノベーション開発研究機構シンポジウム～健康で心豊かな「人生」を科学する～こころとからだ
 【日時】2022年11月2日(水) 13:30～16:30
 【場所】お茶の水女子大学 (ハイブリッド)
 【主催】ヒューマンライフイノベーション開発研究機構 (ヒューマンライフサイエンス研究所、人間発達教育科学研究所)
 【講演者】大隅 典子先生 (東北大学副学長・東北大学大学院医学系研究科 教授：神経発生学・発生発達神経科学) 他両研究所員4名
- ②人間発達教育科学研究所・ヒューマンライフサイエンス研究所共催 国際セミナー
 Emotion dysregulation as a atransdiagnostic process found in psychiatric and neurodevelopmental disorders
 【日時】2023年1月26日(木曜日) 15:30～16:30
 【場所】お茶の水女子大学 共通講義棟 2-101
 【共催】人間発達教育科学研究所・ヒューマンライフサイエンス研究所
 【講演者】Luisa Weiner 教授 (ストラスブール大学)
- ③ヒューマンライフサイエンス研究所・人間発達教育科学研究所共催 文理融合学内科研 研究発表会 (学内限定)
 「脂質摂取行動パターンが及ぼす心理・器官変容の解明—文理融合研究が導く理学基

礎研究の心理学的活用―」

【日時】2023年3月16日(木) 13:00～14:50

【開催方法】オンライン (Zoom)

【主催】ヒューマンライフイノベーション開発研究機構

(ヒューマンライフサイエンス研究所・人間発達教育科学研究所)

【講演者】宮本泰則・大森美香ほか7名

④ヒューマンライフイノベーション開発研究機構 2023年度 研究交流会

【日時】2024年2月27日(火曜日) 14:00～17:00

【場所】お茶の水女子大学 本館3階 306室

【主催】ヒューマンライフイノベーション開発研究機構

(ヒューマンライフサイエンス研究所・人間発達教育科学研究所)

【講演者】大金賢司、橋本恵、砂川芽吹、辻谷真知子ほか14名

⑤お茶の水女子大学 コンピテンシー育成開発研究所／人間発達教育科学研究所／ヒューマンライフサイエンス研究所 共同主催 「AI時代の人間の創造性、想像力」

【日時】2024年8月24日(土曜日) 14:00～16:30

【場所】お茶の水女子大学 講堂「徽音堂」

【主催】お茶の水女子大学 コンピテンシー育成開発研究所

人間発達教育科学研究所、ヒューマンライフサイエンス研究所

【共催】お茶の水女子大学附属高等学校

【講演者】内田伸子、茂木健一郎

⑥ヒューマンライフイノベーション開発研究機構 2024年度 研究交流会

【日時】2025年2月28日(金曜日) 14:00～16:45

【場所】お茶の水女子大学 本館3階 306室

【主催】ヒューマンライフイノベーション開発研究機構

(ヒューマンライフサイエンス研究所・人間発達教育科学研究所)

【講演者】稲穂健市(東北大学特任教授・主席 URA(研究推進・支援機構リサーチ・マネジメントセンター)、内閣府科学技術・イノベーション推進事務局 上席科学技術政策フェロー他)

伊藤大幸、平野真理、野田響子、須藤紀子

(2) 部門別 主催/共催/後援 シンポジウム/セミナー/イベント

保育実践研究部門

①2022年度 お茶の水女子大学 ECCELL 社会人プログラム「保育・子育て支援ラーニングプログラム」前学期(4月～9月開講)(オンライン:後援)

お茶の水女子大学「乳幼児教育を基軸とした生涯学習モデルの構築」事業 (ECCELL: エクセル) は、2019 年度から『保育・子育てラーニングプログラム』として、幼稚園教諭、保育士などの現職者をはじめ、子どもに関わる社会人の方々を対象として、豊かな保育や子育てを実現できるようリカレント学習 (学び直し・学びほぐし) の場を設けています。2021 年度から、全科目、基本オンライン型での開講となりました。

2 年以内にプログラム 120 時間以上受講すると、履修証明書が授与されるコースです。本プログラムは、文部科学省の職業実践力育成プログラム (BP) に認定されています。履修証明書コース (BP) は 2022 年度前学期が最後の募集となり、2022 年度前学期は、基礎科目を 3 つ、発展的科目を 2 つ開講します。

2022 年度前学期開講案内

お茶の水女子大学 ECCELL リカレント講座

「保育・子育て支援ラーニングプログラム」

文部科学省 職業実践力育成プログラム (BP) 認定

2022 年度前学期開講科目

科目名	単位数	開講時期	担当
基礎科目			
乳幼児の世界 A	12	2022 年度前学期	宮里 暁美
乳幼児の世界 B	12	2022 年度前学期	宮里 暁美
保育実践リーダーシップ論特論	12	2022 年度前学期	宮里 暁美
比較教育文化特論	12	2022 年度前学期	宮里 暁美
発展的科目			
保育実践リーダーシップ論特論	12	2022 年度前学期	宮里 暁美
比較教育文化特論	12	2022 年度前学期	宮里 暁美

【日時】2022 年 4 月～9 月開講 (前学期)

【プログラム】

発展的科目: 「保育実践リーダーシップ論特論」

(22.5 時間): (火) 18:20～19:50

「比較教育文化特論」

(22.5 時間): (木) 18:20～19:50

基礎科目: 「乳幼児の世界」(12 時間)

「保育デザイン論」(12 時間)

「子育て支援フィールドワーク」(6 時間)

【講師】浜口順子、小玉亮子、刑部育子、宮里暁美

(人間発達教育科学研究所保育実践教育部門)

②2022 年度保育・子育て支援ラーニングプログラム公開講座 「乳幼児の世界 A/B」(オンライン: 部門主催、研究所後援)

お茶の水女子大学 ECCELL リカレント講座

保育・子育て支援ラーニングプログラム

2022 年度前学期

公開講座 「乳幼児の世界」

講師: 宮里 暁美 先生 (お茶の水女子大学 寄附講座教授)

開講日: 「乳幼児の世界 A」: 5 月 18 日、25 日、6 月 8 日
「乳幼児の世界 B」: 6 月 22 日、7 月 6 日、20 日

全 6 回、水曜日、18:30～20:30 (120 分)

【講師】宮里 暁美 (お茶の水女子大学 寄附講座教授)

【プログラム】

<乳幼児の世界 A> 子どもって面白い!

1. 記憶の中の子どもを探る・語る
2. 物語の中の「ガンコモノ」たちの姿から

ゲストスピーカー 鮫島良一先生

(三松幼稚園園長・鶴見大学短期大学部准教授)

3. 「モノ」を作る・「モノ」と過ごす子どもたち

<乳幼児の世界 B> 子どもと暮らす

4. 「コト」と出会う・「コト」を作り出す子どもたち

【日時】「乳幼児の世界 A」: 5 月 18 日、25 日、6 月 8 日

「乳幼児の世界 B」: 6 月 22 日、7 月 6 日、20 日

全 6 回、水曜日、18:30～20:30 (120 分)

【講師】宮里 暁美 (お茶の水女子大学 寄附講座教授)

【プログラム】

<乳幼児の世界 A> 子どもって面白い!

1. 記憶の中の子どもを探る・語る
2. 物語の中の「ガンコモノ」たちの姿から

ゲストスピーカー 鮫島良一先生

(三松幼稚園園長・鶴見大学短期大学部准教授)

3. 「モノ」を作る・「モノ」と過ごす子どもたち

<乳幼児の世界 B> 子どもと暮らす

4. 「コト」と出会う・「コト」を作り出す子どもたち

5. 「食」を喜ぶ・「食」を作り出す子どもたち

ゲストスピーカー 川辺尚子先生（保育のデザイン研究所研究員）

【定員】およそ60名（先着順）

③2022年度保育・子育て支援ラーニングプログラム公開講座「保育デザイン論A/B」（オンライン：部門主催、研究所後援）



【日時】

「保育デザイン論A」：8月25日、27日

「保育デザイン論B」：9月8日、10日

全4回、木曜日：18:30～20:30、土曜日：13:00～17:20

【講師】 刑部 育子（お茶の水女子大学 教授）など

【対象】 保育現場で働く方、保育に関心のある一般社会人の方、他大学・本学の学生

【定員】およそ60名（先着順）

④第7回お茶の水女子大学「ライフ×アート」展 記録展～子どもにふれる～（共催）



【日時】2022年9月1日（木）～3日（土）

11:00～17:00（最終日は15:00まで）

トークイベント（9/1 18-20時）

【会場】国際交流留学生プラザ2F 多目的ホール

【主催】お茶の水女子大学アート実践研究会

【出展者】刑部育子、浜口順子、宮里暁美ほか
（人間発達教育科学研究所）

【入場料】無料

⑤2022年度保育・子育て支援ラーニングプログラム公開講座「乳幼児教育論A/B」（オンライン：部門主催、研究所後援）

【日時】全8回、水曜日、19:45～21:15

「乳幼児教育論A」：11月2日、16日、30日、12月14日

「乳幼児教育論B」：1月11日、25日、2月8日、22日

【講師】 浜口 順子（お茶の水女子大学 教授・文京区立お茶の水女子大学子ども園園長）



【対象】保育現場で働く方、保育に関心のある一般社会人の方、他大学・本学の学生

【定員】およそ60名（先着順）

【受講料】1講座6,545円（税込）2講座13,090円（税込）

⑥お茶大附属学校園（連携研究算数・数学部会）第6回統計教育シンポジウム（共催）

【日時】2023年3月19日（日）10:00～12:20

【形式】Zoomによるオンライン開催

【主催】お茶の水女子大学附属学校園連携研究 算数・数学部会

【プログラム】

- ・開会の挨拶：加々美勝久（元お茶の水女子大学附属中学校副校長、日本数学教育学会実践研究推進部長）
- ・趣旨説明：真島 秀行（お茶の水女子大学 名誉教授、日本学術会議数理科学委員会数学教育分科会 委員長）
- ・小学校 実践研究発表 倉次麻衣（お茶の水女子大学附属

小学校 教諭）

データを活用した問題解決の学習～体育の「リレー」を題材に～

- ・中学校 実践研究発表 藤原大樹（お茶の水女子大学附属中学校 教諭）

「箱ひげ図はなぜ必要か」に迫る問題解決と試行錯誤を通した単元指導

- ・高等学校 実践研究発表 三橋一行（お茶の水女子大学附属高等学校 教諭）

『「仮説検定の考え方」のロジック～仮説検定の本当の考え方とは～』の授業実践を振り返って

- ・講評と講演 長尾篤史氏（東京学芸大学 特命教授、前文部科学省 主任視学官）

「算数・数学科と統計教育」

- ・閉会の挨拶：吉田裕亮（お茶の水女子大学教授、お茶の水女子大学附属高等学校校長）

⑦第7回お茶の水女子大学大子ども園フォーラム（後援）

【日時】2023年3月21日（火）14:00～16:50 全体会・研究発表（ライブ配信）

2023年3月21日(火) 17:00~4月23日(日) 分科会 (オンデマンド配信)

【開催方法】Zoomによるオンライン/一部オンデマンド開催

【主催】お茶の水女子大学 保育マネジメント研究会

【後援】お茶の水女子大学 人間発達教育科学研究所

【プログラム】

<全体会・研究発表>

14:00~14:05 開会の辞

小玉亮子(お茶の水女子大学附属幼稚園園長・基幹研究院・人間科学系教授)

14:05~14:30 研究の概要と経過説明

松島のり子(基幹研究院・人間科学系 助教)

辻谷真知子(基幹研究院・人間科学系 助教)



14:30~15:10 実践報告:語り合い学び合う研究会の中から
見えてきたこと

○3園合同研究会からの報告

文京区立お茶の水女子大学こども園・いずみナーサリー・附属幼稚園

○学び合いの意味について講評

内海緒香(人間発達教育科学研究所特任准教授)

15:10~15:20 休憩

15:20~16:30 対話「こどもむら」の今から「保育マネジメント」の明日が見える

柿沼平太郎(学校法人柿沼学園認定こども園こどもむら理事長)

刑部育子(基幹研究院・人間科学系教授)

宮里暁美(お茶大アカデミック・プロダクション寄附講座教授)

16:30~16:45 質疑・応答

16:45~16:50 閉会の辞

浜口順子(文京区立お茶の水女子大学こども園園長・基幹研究院・人間科学系教授)

<分科会>

話題1 「やりたい！」が発揮される生活 その2 ~0~5歳児の姿から~
お茶大こども園の先生たち

話題2 子育て中のあなたにおくる 遊びのヒント・暮らしのアイデア
3園合同研究会(附属幼稚園・いずみナーサリー・お茶大こども園)

話題3 おいしく食べる生活 その3 ~子どもと一緒に作って食べよう~
藤吉陽子(おやつ研究家)

川島雅子(こども園管理栄養士)

話題4 物語が生まれたわけ～絵本「バスが来ましたよ」をめぐる～

話し手：松本春野（絵本作家）

聞き手：宮里暁美

話題5 「創る」が身近にある生活を語る その3 「創るが大好きな人の紹介」

鮫島良一（鶴見大学）

杉浦正衛（お茶大こども園の創る人）

宮里耕太（もの・モノ・mono）他

⑧2023年度 お茶の水女子大学 ECCELL 社会人プログラム「保育・子育て支援ラーニングプログラム」前学期（4月～9月開講）（オンライン：後援）

お茶の水女子大学「乳幼児教育を基軸とした生涯学習モデルの構築」事業（ECCELL：エクセル）は、2019年度から『保育・子育てラーニングプログラム』として、幼稚園教諭、保育士などの現職者をはじめ、子どもに関わる社会人の方々を対象として、豊かな保育や子育てを実現できるようリカレント学習（学び直し・学びほぐし）の場を設けています。2021年度から、全科目、基本オンライン型での開講となり、2023年度前学期は、基礎科目を1つ、発展的科目を1つ開講します。

2023(令和5)年度前学期 ECCELL オンライン
お茶の水女子大学 ECCELL カリキュラム
「保育・子育て支援ラーニングプログラム」
文部科学省 職業実践力育成プログラム(BP)認定

2022年度～2023年度開講予定科目

科目名	科目名	開講時期	担当
基礎科目	乳幼児教育の基礎	2022年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2022年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2023年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2023年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2024年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2024年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2025年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2025年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2026年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2026年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2027年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2027年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2028年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2028年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2029年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2029年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2030年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2030年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2031年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2031年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2032年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2032年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2033年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2033年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2034年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2034年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2035年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2035年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2036年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2036年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2037年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2037年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2038年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2038年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2039年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2039年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2040年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2040年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2041年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2041年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2042年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2042年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2043年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2043年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2044年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2044年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2045年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2045年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2046年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2046年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2047年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2047年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2048年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2048年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2049年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2049年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2050年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2050年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2051年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2051年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2052年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2052年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2053年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2053年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2054年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2054年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2055年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2055年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2056年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2056年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2057年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2057年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2058年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2058年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2059年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2059年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2060年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2060年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2061年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2061年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2062年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2062年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2063年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2063年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2064年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2064年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2065年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2065年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2066年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2066年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2067年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2067年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2068年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2068年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2069年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2069年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2070年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2070年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2071年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2071年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2072年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2072年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2073年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2073年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2074年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2074年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2075年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2075年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2076年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2076年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2077年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2077年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2078年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2078年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2079年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2079年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2080年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2080年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2081年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2081年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2082年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2082年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2083年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2083年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2084年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2084年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2085年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2085年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2086年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2086年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2087年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2087年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2088年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2088年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2089年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2089年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2090年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2090年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2091年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2091年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2092年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2092年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2093年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2093年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2094年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2094年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2095年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2095年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2096年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2096年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2097年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2097年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2098年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2098年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2099年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2099年度後学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2100年度前学期	宮里 暁美
	乳幼児教育の基礎	2100年度後学期	宮里 暁美

【日時】2023年4月～9月開講（前学期）

【プログラム】

発展的科目：「比較子ども社会学特論」

(22.5時間)：(木) 18:20～19:50

基礎科目：「子ども学ゼミ」(12時間)

【講師】浜口順子、小玉亮子

(人間発達教育科学研究所保育実践教育部門)

⑨2023年度保育・子育て支援ラーニングプログラム公開講座「子ども学ゼミ A/B」(オンライン：後援)

【日時】「子ども学ゼミA」：4月22日、29日 「子ども学ゼミB」：5月20日、27日

全4回、土曜日、9:00～12:00

【講師】 浜口 順子（お茶の水女子大学教授・文京区立お茶の水女子大学こども園園長）

【プログラム】

保育における子どもの遊びや表現の理解について、事例や表現物を交えて考えます

お茶の水女子大学人間発達教育科学研究所主催国際シンポジウム

世界の幼児教育は、今 UNESCO/タシュケント国際幼児教育会議の成果から

18:00 開会あいさつ
趣旨説明
お茶の水女子大学人間発達教育科学研究所 一見真理子

18:10 講演1
SDGsの中の幼児教育：SDG4の視点から
林川真紀氏
ユネスコ本部 教育2030部門ディレクター

18:50 講演2
教育の変革にむけた2022タシュケント国際幼児教育宣言とそのフォローアップ
ロカヤ・フォール・ディワラ氏
ユネスコ本部 教育プログラム専門官兼グローバル幼児教育アドバイザー

19:30 全体討論
コメント 世界の幼児教育の動向と日本の課題
お茶の水女子大学基幹研究院 小玉亮子

19:55 閉会あいさつ
お茶の水女子大学人間発達教育科学研究所長 大森美香

2023年7月21日(金) 18:00~20:00
オンライン(世界の子ども人事) 定員 200名
お茶の水女子大学 人間発達教育科学研究所 Email: h4h@cc.uocha.ac.jp

【日時】2023年7月21日(金) 18:00~20:00
【場所】お茶の水女子大学 (オンライン) ※同時通訳あり
【プログラム】

18:00~開会あいさつ及び趣旨説明 一見真理子(お茶の水女子大学人間発達教育科学研究所)

18:10~講演1「SDGsの中の幼児教育：SDG4の視点から」林川真紀氏(ユネスコ本部教育2030部門ディレクター)

18:50~講演2「教育の変革にむけた2022タシュケント国際幼児教育宣言とそのフォローアップ」

ロカヤ・フォール・ディワラ氏(ユネスコ本部 教育プログラム専門官兼グローバル幼児教育アドバイザー)

19:30~全体討論 コメント「世界の幼児教育の動向と日本の課題」

小玉亮子(お茶の水女子大学基幹研究院)

19:55~閉会あいさつ 大森美香(お茶の水女子大学人間発達教育科学研究所長)

⑫第1回お茶大のびのび子育てサロン「暮らしの中で楽しむ乳幼児の運動遊び」(共催)

暮らしの中で楽しむ乳幼児の運動遊び

乳幼児が楽しめるフワフワボール(moffn)で一緒に遊びませんか?
ふわふわの感触が気持ちいい! すくすく遊んで成長! 親子で遊んで成長!
ふわふわして遊ぶからヤキヤキすることもある! 乳幼児の運動遊びの可能性が広がります。
暮らしの中で、遊びの中で、大人も子どもも楽しめる運動遊びを体験しよう!
保護者から子育て情報まで、動きやすい環境でご参加下さい。

日 時: 令和5年9月22日(金) 18時~20時(受付開始: 17時30分~)

参加費: 無料 定員: 60名(事前申し込み制) 場: お茶の水女子大学附属小学校体育館
対象者: 教育関係者、研究者、学生、スポーツ指導者等、乳幼児の運動遊びに関心がある方々

＜プログラム＞
18:00~18:10 趣旨説明 宮里暁美(お茶の水女子大学)
18:10~18:30 講演「乳幼児にとっての運動遊び」水村(久埜)真由美(お茶の水女子大学)
18:30~19:30 ワークショップ【moffn】(フワフワボール)で遊ぼう他 進行:松元剛(筑波大学)
19:30~20:00 体験のまとめ・質疑応答 進行:宮里暁美(お茶の水女子大学)

申し込み期間: 2023年8月1日(火) ~ 9月14日(金) 定員になり次第締め切らせていただきます。
申し込み方法: 下記申し込みフォームから申し込みください。
<https://forms.office.com/e/4m693878>

問い合わせ先: 早稲田の園・かわせみホームからお問い合わせください。
お電話に長時間かかる場合がございます。ご了承くださいませ。
<https://forms.office.com/e/3m0h9k33vs>

主催: 国立大学法人お茶の水女子大学人間発達教育科学研究所
共催: お茶の水女子大学人間発達教育科学研究所 社会連携推進部門 生活のなかでSDGsを推進する 幼児教育推進センター 多様な参加を受け入れるリゾーム型保育マネジメント論の構築と実践論の展開 代表: 刑部育子
協力: ログイン株式会社、一般社団法人コーチトラスト

【日時】2023年9月22日(金) 18:00~20:00
【場所】お茶の水女子大学附属小学校体育館
【対象者】教育関係者、研究者、学生、スポーツ指導者等、乳幼児の運動遊びに関心がある方々

【主催】国立大学法人お茶の水女子大学保育マネジメント研究会

【共催】お茶の水女子大学人間発達教育科学研究所 保育実践研究部門

お茶の水女子大学 SDGs 推進研究所
科学研究費(基盤B) 多様な参加を受け入れるリゾーム型保育マネジメント論の構築と実践論の展開 代表: 刑部育子

【協力】ログイン株式会社、一般社団法人コーチトラスト
【プログラム】

18:00~18:10 趣旨説明 宮里暁美(お茶の水女子大学)
18:10~18:30 講演「乳幼児にとっての運動遊び」水村(久埜)真由美(お茶の水女子大学)

18:30~19:30 ワークショップ 【moffn】(フワフワボール)で遊ぼう他
進行:松元剛(筑波大学)

スペシャルゲスト: Dr. Kanae HANEISHI (米国・ウエスタンコロラド大学)

19:30~20:00 体験のまとめ・質疑応答

進行：宮里暁美（お茶の水女子大学）

⑬CEDEP 公開シンポジウム「子ども政策の総合化を考えるⅢ 保育幼児教育の公共性」（共催）

【日時】2023年9月24日（日）16:00～19:00

【場所】オンライン開催（Zoom ウェビナー）

【共催】日本学術会議心理学・教育学委員会 乳幼児発達・保育分科会／日本学術会議心理学・教育学委員会 排除包摂と教育分科会／東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター（CEDEP）／広島大学大学院人間社会科学研究科附属幼年教育研究施設／日本保育学会／日本教育学会／教育関連学会連絡協議会

【企画趣旨】シンポジウム「子ども政策の総合化を考える」、三回目の今回は、「保育・幼児教育の公共性」をテーマとする。こども家庭庁において現在打ち出されている施策は、保育・幼児教育の制度の充実よりも、個々の子ども・家庭の子育てを支援する

方向へと向かっている。ここで見過ごされがちなのは、保育・幼児教育施設が持つ公共的な性格である。このシンポジウムでは、個々の子どもの学びと育ちを支えるというだけでなく、文化と価値を継承・創造し、社会を変容させる駆動力となる保育・幼児教育の可能性を考える。

【プログラム】

司会：野澤祥子

（日本学術会議連携会員、東京大学大学院教育学研究科、東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター（CEDEP）准教授）

開会挨拶：中坪史典



（日本学術会議連携会員、広島大学大学院人間社会科学研究科教授、広島大学大学院人間社会科学研究科附属幼年教育研究施設長）

趣旨説明：浅井幸子

（日本学術会議連携会員、東京大学大学院教育学研究科教授、東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター（CEDEP）副センター長）

講演1 「保育無償化の意義と課題」

村上祐介（日本学術会議連携会員、東京大学大学院教育学研究科教授）

講演2 「幼児教育と公共性—レゾジョエミア市立幼児学校の思想と実践から—」

小玉亮子（日本学術会議連携会員、お茶の水女子大学基幹研究院教授）

講演3 「気候変動の時代の幼児教育：UNESCO 報告書『私たちの未来を共に再想像する』を受けて」

永田佳之（聖心女子大学現代教養学部教授）

指定討論：秋田喜代美（日本学術会議特任連携会員、学習院大学文学部教授）

岡部美香（日本学術会議第一部会員、大阪大学大学院人間科学研究科教授）

総合討論・コメント：勝野正章（日本学術会議第一部会員、東京大学大学院教育学研究科教授）

閉会挨拶：遠藤利彦（日本学術会議第一部会員、東京大学大学院教育学研究科教授、東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター（CEDEP）センター長）

⑭2023年度 お茶の水女子大学 ECCELL 社会人プログラム「保育・子育て支援ラーニングプログラム」後学期（10月～3月開講）（オンライン：後援）

お茶の水女子大学「乳幼児教育を基軸とした生涯学習モデルの構築」事業（ECCELL：エクセル）は、2019年度から『保育・子育て支援ラーニングプログラム』として、幼稚園教諭、保育士などの現職者をはじめ、子どもに関わる社会人の方々を対象として、豊かな保育や子育てを実現できるようリカレント学習（学び直し・学びほぐし）の場を設けています。2021年度から、全科目、基本オンライン型での開講となり、2023年度後学期は、基礎科目を2つ、発展的科目を2つ開講します。



2023(令和5)年度後学期 2023年度後学期 ECCELL リカレント講座
 乳児・家庭の外へ、学びをほぐそう。共に、あたらしく、大学で。
 保育・子育て支援ラーニングプログラム
 文部科学省 職業実践力育成プログラム(BP)認定

科目名	科目名	時数	開講時期	担当
基礎科目	乳幼児の暮らし	12	2023 後学期	濱口
	乳幼児の暮らし	12	10/16、17、24、11/14、21、28 ※水曜(火) 18:30～20:30 卒業	宮里
	発達障害児	12	2023 後学期	浜口
	子ども学習	12	2023 後学期	浜口
	保育デザイン論	12	2023 後学期	宮里
	からだ・表現ワークショップ	6	2023 年度後学期 10/27(土)・卒業 (特設)	宮里
発展的科目	子育て支援フェードワーク	6	2022 後学期	宮里
	保育マネジメント論	22.5	2023 年度後学期(火) 11:20～14:50 (特設)	宮里
	保育実践ワークショップ	22.5	2023 後学期	宮里
	保育実践	22.5	2023 後学期	宮
	子ども発達学	22.5	2023 後学期	小島
乳幼児教育実践	22.5	2023 後学期	小島	
子ども発達学(卒業)	22.5	2023 年度後学期(日) 11:20～14:50 (特設)	小島	
講義科目	保育実践	3	特設	

【日時】2023年10月～2024年3月開講（後学期）

【プログラム】

発展的科目：「保育マネジメント論演習」

(22.5時間)：(火) 18:20～19:50

「子ども発達論演習」

(22.5時間)：(月) 18:20～19:50

基礎科目：「乳幼児の暮らし」(12時間)

「からだ・表現ワークショップ」(6時間)

【講師】浜口順子、宮里暁美、辻谷真知子

(人間発達教育科学研究所保育実践教育部門)

⑮2023年度保育・子育て支援ラーニングプログラム公開講座「乳幼児の暮らしA/B」(オンライン：後援)

【日時】「乳幼児の暮らしA」：10月10日、17日、24日

「乳幼児の暮らしB」：11月14日、21日、28日 ※全6回、火曜日、18:30～20:30

【講師】 宮里 暁美（お茶の水女子大学 アカデミック・プロダクション寄附講座教授）

【プログラム】

本授業は「暮らし」という視点から、子どもの世界の探究と理解を行います。

今回は「文化」に焦点を当て、「遊び・音楽・出会い」という視点から考察します。

子どもの姿や自分の思いを紹介し合いながら考察を深めます。



- A: 1. 講義・対話：お茶大こども園の実践から出てくる「遊
び・音楽」
2. グループワーク・発表：私の思い出の「歌」を語るこ
とから、「歌」について考える
3. ③講義・対話：生活の中に、遊びの中に、歌がある、
ということ
講師：福田翔先生 (あそびうた作家)
- B: 4. 講義・対話：お茶大こども園の実践から出てくる「出
会い・紡がれるもの」
5. 講義・対話：絵本「バスが来ましたよ」に焦点をあて
て
講師：松本春野先生 (絵本作家)
6. グループワーク・発表：「くらし」的アプローチをかた
ちにしてみたら・・・

【対象】 保育現場で働く方、保育に関心のある一般社会人の方、他大学・本学の学生

【定員】 およそ60名 (先着順)

【受講料】 1講座 6,545円 (税込) 2講座 13,090円 (税込)

⑩2023年度保育・子育て支援ラーニングプログラム公開講座 「からだ・表現ワークショップ」(後援)

【日時】 12月2日(土) 10:00~17:00

【会場】 文京区立お茶の水女子大学こども園園舎内外

【講師】 杉浦 正衛 先生 (文京区立お茶の水女子大学こども園 職員)

淵上 真帆 先生 (目白大学 助教)

宮里 耕太 先生 (もの・物・モノ 主宰) <担当：浜口順子、宮里暁美>

【プログラム】

ワクワクした気持ちで日々を過ごしてみたら、新しい可能性がひらけてくるような気がします。<創る・遊ぶ>をテーマにして、からだを動かす体験を通して自分らしさを発揮するワークショップです。

10:00~12:30 ワークショップ 1: 「語る」から「遊ぶ」へ

13:30~16:00 ワークショップ 2: 「創る」から「暮らし」へ

16:00~17:00 ワークショップ 3: 「語り合い」から「明日」へ



10:00～11:30 シンポジウム「ゲームベース・アプローチ (GBA) と保育マネジメント」

Dr. Kanae HANEISHI

米国・ウェスタンコロラド大学教授(リモート参加)

松元剛 (筑波大学体育系准教授)

水村 (久埜) 真由美 (基幹研究院・人文科学系教授)

<進行>宮里暁美 (お茶大アカデミック・プロダクション寄附講座教授)

11:30～11:35 閉会の辞 森義仁 (文京区立お茶の水女子大学こども園園長)

基幹研究院・自然科学系教授

<昼食・休憩> 11:35-13:00

<午後の部> 13:00～16:30

分科会 1～4 :13:00～14:30

分科会 5～8 :15:00～16:30

⑲第3回 お茶大*のびのび子育てサロン (共催)

【日時】2024年6月9日(日) 10:00～11:30

【場所】大学共通講義棟 2-101 及びキャンパス内

【対象】3歳以下のお子さん・保護者・きょうだい

【主催】お茶の水女子大学三園合同研究会(附属幼稚園・いずみナーサリー・こども園の保育者たち)

【共催】お茶の水女子大学人間発達教育科学研究所 保育実践研究部門

【内容】10:00～10:10 はじめのあいさつ

10:10～10:40 ミニトーク「おいしい生活・うれしい生活」

10:40～11:30 キャンパス内散策 かめ広場でゆっくり過ごす おしゃべりタイムなど



- ▶ 日 時 2024年6月9日(日) 10:00～11:30
- ▶ 会 場 お茶の水女子大学共通講義棟 2-101
- ▶ 受 料 大学正門受付 9:30～
※会場まで、お7分(徒歩)10～15分(乗換)の徒歩、乗換を併せてお20分以内
- ▶ 対 象 3歳以下のお子さん(パパママ、きょうだい)
※定員 30名(先着順)
- ▶ 内 容
10:00～10:10 はじめのあいさつ
10:10～10:40 ミニトーク「おいしい生活・うれしい生活」
10:40～11:30 キャンパス内散策 かめ広場でゆっくり過ごす おしゃべりタイムなど
※お茶の水女子大学人間発達教育科学研究所 保育実践研究部門
- ▶ 申し込み締切 2024年5月26日(日) 10:00(郵物) 6月5日(日) 7:00(本館) 当日は定員満員です。
- ▶ 申し込み方法: 下記お申し込みフォーム(QRコード)から申し込みください。
<https://forms.office.com/r/Kj3478ee>
- ▶ 問い合わせ先: 下記お問い合わせフォーム(QRコード)からお問い合わせください。
<https://forms.office.com/r/LXpZ77f8e6>

⑳第4回 お茶大*のびのび子育てサロン (共催)

【日時】2024年10月20日(日) 10:00～11:30

【場所】お茶の水女子大学キャンパス内

【対象】3歳以下のお子さん・保護者・きょうだい

【主催】お茶の水女子大学三園合同研究会(附属幼稚園・いずみナーサリー・こども園の保育者たち)

【共催】国立大学法人お茶の水女子大学人間発達教育科学研究所 保育実践研究部門

【内容】落ち葉や枝、木の実などを拾ったり、虫を探したり。大学本館中庭に、絵本コーナー、作って遊ぶコーナー



- ▶ 日 時 2024年10月20日(日) 10:00～11:30 ※雨天中止
- ▶ 会 場 お茶の水女子大学キャンパス内
- ▶ 受 料 大学正門受付 10:00～
お茶の水女子大学共通講義棟 2-101 正門 NMP を活用してお申し込みください。
- ▶ 対 象 3歳以下のお子さん(パパママ、きょうだい)
※定員 30名(先着順)
- ▶ 内 容
10:00～10:10 はじめのあいさつ
10:10～11:30 落ち葉や枝、木の実などを拾ったり、虫を探したり。大学本館中庭に、絵本コーナー、作って遊ぶコーナー
※お茶の水女子大学人間発達教育科学研究所 保育実践研究部門
- ▶ 申し込み締切 2024年10月15日(日) 10:00(郵物) 10月16日(日) 10:00(本館) 当日は定員満員です。
- ▶ 申し込み方法: 下記お申し込みフォーム(QRコード)から申し込みください。
<https://forms.office.com/r/7e8d81834e>
- ▶ 問い合わせ先: 下記お問い合わせフォーム(QRコード)からお問い合わせください。
<https://forms.office.com/r/7e8d81834e>

一、子育て相談おしゃべりコーナーを用意します。秋を感じながら、ゆっくり過ごしてください。10:00～11:30の間、自由にお過ごしください。

⑫第2回「暮らしの中で楽しむ乳幼児の運動遊び」(共催)

【日時】2024年11月1日(金) 18:30～20:30

【場所】お茶の水女子大学附属小学校体育館

【対象】教育関係者、研究者、学生、スポーツ指導者等、乳幼児の運動遊びに関心がある方々

【主催】お茶の水女子大学保育マネジメント研究会

【共催】お茶の水女子大学 SDGs 推進研究所

科学研究費(基盤B) 多様な参加を受け入れるリゾーム型保育マネジメント論の構築と実践論的展開 代表: 刑部育子

【協力】ログイン株式会社、一般社団法人コーチトラスト

【プログラム】

18:30～18:40 趣旨説明・講師紹介 宮里暁美(お茶の水女子大学)



18:40～20:00 ワークショップ 【moffn】(フワフワボール) で遊ぼう他

進行: 松元剛(筑波大学)

スペシャルゲスト: Dr. Kanae HANEISHI (米国・ウエスタンコロラド大学)

20:00～20:30 体験のまとめ・質疑応答

進行: 宮里暁美(お茶大) 松元剛(筑波大学) Dr. Kanae HANEISHI (ウエスタンコロラド大学)

⑬国際シンポジウム「世界の幼児教育は、今: Part2 タイと日本における0-3歳の課題を考える」(主催)

【日時】2024年12月21日(土) 18:00～20:00

【場所】お茶の水女子大学 (オンライン) ※同時通訳あり

【プログラム】

18:00～開会挨拶・趣旨説明 小玉亮子(お茶の水女子大学基幹研究院)

18:10～講演 「タイにおける0-3歳の幼児教育の課題と挑戦」

ウドムラック・クラピチトル(ラチャターニー大学准教授/OMEPタイ委員会会長)

18:50～指定討論1 「0歳からの質の高い幼児教育の実現に向けた課題」



上垣内伸子（お茶の水女子大学人間発達教育科学研究所）

19:10～ 指定討論 2「日本における 0-3 歳の育ちを支える保育」

宮里暁美（お茶の水女子大学人間発達教育科学研究所）

19:30～ 全体討論 質疑・討論

19:55～ 閉会挨拶 一見真理子（お茶の水女子大学人間発達教育科学研究所）

司会進行：内海緒香/一見真理子（お茶の水女子大学人間発達教育科学研究所）

⑳第 8 回お茶の水女子大学大子ども園フォーラム（後援） 2025 年 3 月 20 日開催予定

<保育実践研究部門：社会的インパクトの範囲と重要性>

※ミッション実現戦略分「社会的インパクト」調書（R6 年度時点：学内調査）より一部抜粋

（※注：左欄の番号は部門開催イベント番号）

※注	この講座は、保育・乳幼児教育関係者だけでなく、研究者、教職員、NPO 関係者、保護者など多様なステークホルダーに対して、それぞれの立場に応じた実践的・理論的なインパクトを与えている。特に、保育の質向上や子どもとの関わり方を再考するきっかけとなり、受講者全体において学びの意欲を高める結果を生んでいる。
①	
②	
③	主なステークホルダーは、幼稚園教諭、保育士などの現職者をはじめ、研究者・大学職員、保護者、行政担当者、NPO 活動家など子どもに関わる社会人である。オンラインでの公開講座を中心に、対面のワークショップを取り入れ、地域の人でも遠方の人と一緒に学ぶことができた。これにより、持続可能な子育て支援や教育の質向上が期待され、少子化や子育ての負担といった社会的課題に対応できる人材を育成することができると考えられる。
⑤	
⑧	
⑨	
⑭	1. 保育・乳幼児教育施設関係者
⑮	保育の現場で実践できる新たな視点やスキルを獲得し、保育の質向上に直接的に寄与。特に「子どもの表現理解」「ドキュメンテーション」「保育デザイン論」が役立った。受講後の知識が保育現場で即実践に繋がるため、施設全体の保育の質向上に貢献した。
⑯	2. 研究者・大学職員
	理論的な視点や研究課題の探求に役立ち、教育や研究に新たなアプローチを取り入れる機会を得た。学問的探求の範囲で活かされるが、直接的な保育実践に与える影響は限定的。アクションリサーチなどの実践に関わる研究には重要。
	3. 小中高教職員
	幼児教育の知見を通じて、児童や生徒との関わり方に新たな視点を得ることができ、教育現場に役立てられる。保育とは異なるが、子どもとの関わりにおいて間接的な影響を与える。
	4. NPO・法人団体関係者
	保育や子育て支援に関する知識をもとに、地域社会や団体活動における支援の質を向上させることができた。保育や子育て支援の現場に直接的に影響し、幅広い社会的インパクトを生む。
	5. 主婦・保護者
	子育てに関する新しい知識や視点を得て、家庭での育児に役立てることができた。特に「手遊び」「歌遊び」「絵本」の見方が深まった。家庭での育児がより豊かになるため、保育と家庭育児の相乗効果を生む。
	6. 受講者全体
	受講者同士のディスカッションや講師との交流を通じ、多様な視点や経験を得ること

	<p>で視野が広がった。特に異業種交流やグループ作りの手法が役立った。学びの深まりだけでなく、受講者間のネットワーク形成が促進され、実践や知識の共有が生まれた。</p>
⑦ ⑱	<p>「お茶大こどもフォーラム」は、保育・教育関係者、研究者、地域の保護者を主なステークホルダーとし、これらの関係者に重要な影響を与えている。特に、最新の研究成果や実践的な知識を共有し、保育や教育の質向上に貢献する場としての役割がある。保育の現場における新たな知見を提供し、実際の教育現場や家庭での子育てに役立つ情報が得られるため、ステークホルダーにとっては非常に重要なイベントである。</p> <p>1. インパクトの範囲：主要なステークホルダーは、保育・幼児教育施設関係者と研究者・大学職員であり、多数を占めたが、保護者含む地域/一般の方、さらに会社員、行政職員など参加者の所属は多岐にわたり、社会から幅広い関心がもたれていること、本フォーラムの持つ社会的インパクトの影響力を示唆するものである。</p> <p>2. インパクトの重要性：</p> <p>①新たな保育や教育の視点の共有：第7回のオンラインフォーラムでは、「こどもむら」や「円卓」などの保育の取り組みが注目され、多くの参加者がこれらを参考にしたいと感じた。これにより、保育現場での実践に新たな視点が加わり、保育者同士が学び合い、失敗を恐れず挑戦する姿勢の重要性が強調されました。これは保育の本質を再認識し、現場での改革を促す重要な機会となった。</p> <p>②新しい学習アプローチの導入：第8回では、GBAやUDLの考え方が保育マネジメントや環境作りに応用できるという新たな発見が参加者に強い影響を与えた。これにより、保育や教育現場での子どもとの関わり方や学びの環境作りに対する姿勢が変わり、実際の保育活動における実践的な変化が期待される。</p> <p>③学びとリフレクションの機会の提供：両イベントともに、参加者が保育や教育の現場で新しい視点を獲得だけでなく、自分たちの実践を見直し、子どもを中心に据えた保育の重要性を再認識する機会を提供した。特に第8回では、シンポジウムの講師の説明がわかりやすく、具体的な学びを通じて、参加者が実際の現場での応用を考えるきっかけになった。</p>
⑩ ⑰ ⑲	<p>1. インパクトの範囲：申込者の内訳では、夫婦と子どもなど家族連れでの参加が多く、文京区の他、新宿区、渋谷区、豊島区、台東区、練馬区、西東京市、埼玉県、神奈川県、千葉県からの参加希望者がおり、幅広く関心がもたれていることが分かった。地域的な子育て支援の取り組みであるほかに、大学環境やお茶の水女子大学の保育教育に関心のある層の見学の場ともなっていた。イベントは主に30代～40代の母親や夫婦を中心とする参加者層を対象にしており、子育て中の親とその子どもがリラックスし、楽しめる場を提供した。特に、子どもが自由に過ごせる環境や親子のふれあいを促進するプログラムが評価された。また、食育に関する新たな視点や実践的なレシピ紹介など、子育てに役立つ知識も提供され、参加者に大きな影響を与えた。</p> <p>2. インパクトの重要性：</p> <p>親子のリフレッシュと絆の強化：各イベントを通じて、親子は無料で自由に遊び、音楽や活動を楽しむことができ、家庭でも取り入れられる遊びやふれあいを学べる場となった。このような体験は親の育児負担を軽減し、親子の絆を強化する大きなインパクトをもたらしている。</p> <p>保育園・幼稚園・こども園などに通っていない未就園児の子どもを持つ子育て中の親子を対象に、食や子育てに関する知識共有とリラックスできる場を提供した。持続可能な子育て支援に繋がり、少子化や育児支援の不足といった社会課題への一助となることが期待される。</p>
④	<p>アート教育に関わる実践者や研究者、生徒・学生、一般市民がステークホルダーである。この展示会は、アートを通じて生活や社会の課題を多角的に考える場を提供し、個々の創造力を高めるだけでなく、日常生活や社会全体における新たな視点を促進する。特に、教育や文化に携わる人々にとっては、重要な学びや創造的なインスピレーションを得る機会として大きな影響を与えた。</p>

⑫	<p>このイベントは、ステークホルダーの持続可能な教育ツールについての認識を高め、創造的な身体的遊びを奨励し、環境の持続可能性や子どもの発達といったより広範な社会的課題に取り組むものである。保育や幼児教育の現場に携わる人々にとって、新たな理論や実践を学び、即座に現場で応用できる貴重な学びの場となった。また、参加者の大多数が新しい視点を獲得し、自分の活動に取り入れたいと感じたことから、このセミナーは大きなインパクトを与えたと言える。</p> <p>1. インパクトの範囲：</p> <p>①参加者層の多様性： 54名の申込者は保育・幼児教育施設関係者を中心に、大学教職員、学生、民間企業、スポーツコーチなど幅広い層が参加した。これにより、保育や教育の現場だけでなく、スポーツ指導や企業の研究分野にも影響を与える可能性があることが示唆される。特に保育士や幼稚園教諭が全体の半数を占め、現場に直結する学びが提供されていたことがわかる。</p> <p>②実践と理論の融合： アンケート回答者のうち74.3%が「moffn」を使った運動遊びを実践に取り入れる意欲を示し、62.9%が日常生活での導入を検討していることから、学んだ内容がすぐに実践に結びつくものだったと評価されている。また、54.3%が運動遊びや体育・スポーツの理論をさらに学びたいと考えており、学びの持続的な影響も期待される。</p> <p>2. インパクトの重要性：</p> <p>①新たな指導法と子ども中心のアプローチ： イベントでは、ゲームベースアプローチ（GBA）やユニバーサルデザイン学習（UDL）など、新しい指導理論が紹介され、これにより参加者は子どもが楽しみながら主体的に運動に取り組む重要性を学んだ。この理論の実践的な応用が評価され、指導の現場において革新的なアプローチが取り入れられる可能性が高まった。</p> <p>②環境設定と多様性への配慮： 運動遊びの際に、子どもたちが主体的に楽しむための環境設定の工夫が強調され、全ての子どもが楽しめるような多様性への配慮が指導者に認識された。この点は、すべての子どもにとって包摂的な保育や教育環境を作る上で非常に重要である。</p> <p>③実践的な学びの効果と意欲： セミナーに参加した多くの指導者や保育関係者は、学んだ内容を自らの現場に持ち帰り、実践に活かしたいという意欲を示した。特に「moffn」を活用した運動遊びの安全性や多様な活用法が高く評価され、実際の保育や指導にすぐに役立つ具体的な学びが提供されたことが、大きな効果を生んでいる。</p> <p>④サステナビリティを学ぶ： 障がい者の手によって医療用廃材から作られた「moffn」はモノのサステナビリティの視点も取り入れた商品であるが、人と人がつながり生まれる成長、人のサステナビリティを大事にしている。障がい者の方々にやりがいを感じてもらおうとともに、障がい者の雇用促進・定着から「仕事を通じた成長」への拡大といった循環を学んでもらう。</p>
⑪	<p>日米同時通訳を活用したこのシンポジウムは、国際的な幼児教育の最新の動向や課題に対する理解を深め、各国の教育施策に影響を与える重要な機会となった。特に、SDG4（教育に関する持続可能な開発目標）の実現に貢献するための情報が共有され、ステークホルダーにとって非常に重要である。</p> <p>1. インパクトの範囲：</p> <p>①多様な参加者層： 265名の申込者は、大学教職員や学生、保育・幼児教育施設関係者を中心に、民間企業や行政職、NPO/NGOなど、多様なバックグラウンドを持つ人々が参加した。この広範な参加者層は、幼児教育に関する議論が学術界や教育現場だけでなく、企業、非営利団体、政府機関など、さまざまなセクターに影響を与えることを示している。</p> <p>②国際的な視点と国内への応用： 世界の幼児教育の現状を国際的な視点から学び、日本の現状や課題を再認識する機会となった。特に、質の高い幼児教育の提供や人材不足、保育と幼児教育の一元化の課題が浮き彫りになり、今後の政策や取り組みに影響を与える可能性がある。また、データ収集の重要性が強調され、今後の教育政策への</p>

	<p>活用が期待される。</p> <p>2. インパクトの重要性：</p> <p>①幼児教育の未来に向けた重要な議論： 幼児教育を「投資」として捉える国際的な視点に対して、将来的な利益と結びつけて理解する一方で、資本主義的なアプローチへの疑問も示された。これは、幼児教育を経済的な利益だけでなく、子どもの権利や社会全体の持続可能な発展という視点から再評価する重要な議論を喚起したと考えられる。</p> <p>②保育士の専門性と社会的地位の向上： シンポジウムでは、保育士の専門職としての役割とその質の向上が議論され、保育士の社会的地位の向上が求められた。このテーマは、保育や幼児教育に関わる現場で働く人々にとって重要であり、職業としての専門性を高めるための政策や教育プログラムの改革が求められることが示唆されている。</p> <p>③国際協力の必要性： 世界の幼児教育の状況と日本の現状を比較することで、国際協力や政策の共有が必要であることが強調された。特に、少子高齢化が進む日本にとって、幼児教育の質を向上させ、国際的な知見を活用することが急務であるとの認識が参加者間で共有された。</p> <p>このシンポジウムは、幼児教育における国際的な動向を日本の教育関係者や保育士が学ぶ貴重な機会となり、日本国内の教育改革に向けた新たな視点を提供した。質の高い幼児教育の重要性や保育士の地位向上といったテーマが、今後の政策や現場での取り組みにおいて重要な影響を与えることが期待される。</p>
--	---

人間発達基礎研究部門

①国際セミナー「心理的援助要請に関する日伊比較」(主催)

お茶の水女子大学 人間発達教育科学研究所主催

国際セミナー

心理的援助要請に関する日伊比較

日時
2023年6月14日(水)
10:40~12:10

形式
対面開催 参加無料
(対象：本学学部生・大学院生・職員の方)

場所
お茶の水女子大学
生活科学部本館-306室

講演内容
心理的な悩みを抱えた個人が積極的に心理的援助を求めることを、心理的援助要請(help-seeking)という。心理的援助要請は、治療への道の始まりである。心理的援助要請は、個人が所属する文化の影響を大きく受けると考えられる。この「文化」は何を意味するのだろうか？ 国籍や個人の伝統？ 安定した概念、あるいは想像以上に変化するもの？ さらに、心理的介入を成功させるための前提条件である治療同盟(Therapeutic Alliance)にも、文化の影響はあるだろうか？ 本セミナーでは、イタリアと日本における援助要請の比較を通して、援助要請態度と文化の関連について解説する。

※ 使用言語：日本語

参加方法
以下のURLまたはお茶の水女子大学から、参加申込を行ってください(申込は先着順です)。
<https://forum.sci.educ.chu.ac.jp/>

お問い合わせ
人間発達教育科学研究所 事務局
(info-ehd@cc.chu.ac.jp)

講師
Marco Montanari, PsyD
(モンターリ・マルコ先生)
職名：准教授、臨床心理士
所属：Università Statale Sapienza di Roma/ Clinica Casa Santa Rosa (ローマサピエンツァ国立大学/ サンタローザクリニック) 精神科臨床心理学、オンライン教育

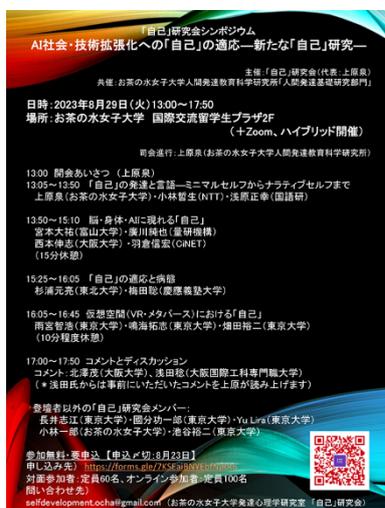
【日時】2023年6月14日(水) 10:40~12:10

【場所】お茶の水女子大学生活科学部本館 306 室

【講師】Marco Montanari, PsyD
(Università Statale Sapienza di Roma/ Clinica Casa Santa Rosa)

【概要】心理的な悩みを抱えた個人が積極的に心理的援助を求めることを、心理的援助要請(Help-seeking)という。心理的援助要請は、治療への道の始まりである。心理的援助要請は、個人が所属する文化の影響を大きく受けると考えられる。この「文化」は何を意味するのだろうか？ 国籍や個人の伝統？ 安定した概念、あるいは想像以上に変化するもの？ さらに、心理的介入を成功させるための前提条件である治療同盟(Therapeutic Alliance)にも、文化の影響はあるだろうか？ 本セミナーでは、イタリアと日本における援助要請の比較を通して、援助要請態度と文化の関連について解説する。

②「自己」研究会シンポジウム「AI 社会・技術拡張化への「自己」の適応—新たな「自己」研究—」（共催）



【日時】2023年8月29日（火）13:00～17:50

【場所】お茶の水女子大学 国際交流留学生プラザ 2F
(+Zoom、ハイブリッド開催)

【主催】「自己」研究会（代表：上原泉）

【プログラム】

13:00～ 開会あいさつ 上原泉（お茶の水女子大学人間発達教育科学研究所）

13:05～13:50 「自己」の発達と言語—ミニマルセルフからナラティブセルフまで

上原泉（お茶の水女子大学）小林哲生（NTT）浅原正幸（国語研）

13:50～15:10 脳・身体・AIに現れる「自己」

宮本大祐（富山大学）廣川純也（量研機構）西本伸志（大阪大学）羽倉信宏（CiNET）

15:25～16:05 「自己」の適応と病態

杉浦元亮（東北大学）梅田聡（慶應義塾大学）

16:05～16:45 仮想空間（VR・メタバース）における「自己」

雨宮智浩（東京大学）鳴海拓志（東京大学）畑田裕二（東京大学）

17:00～17:50 コメントとディスカッション・北澤茂（大阪大学）・浅田稔（大阪国際工科大学）

③第3回 IGI セミナー IGI Tokyo / Sex & Gender Australia webinar（共催）

【日時】2023年10月4日（水）10:00～12:00

【会場】Zoom ミーティング

【言語】英語

【共催】保健・医療分野における性別とジェンダー政策研究プロジェクト（豪）
ジェンダー・イノベーション研究所（IGI）

【プログラム】

10:00～10:15 開会宣言 リリー・ホリディ

（オーストラリア人権研究協会 研究プロジェクトリーダーおよびプログラムマネージャー／サウスウェールズ大学 戦略的プロジェクトマネージャー）

主催組織代表挨拶

保健・医療分野における性別とジェンダー政策研究プロジェクト：ロビン・ノートン教授（ジョージ・インスティテュート・フォー・グローバルヘルス（TGI））

ジェンダー・イノベーション研究所：石井クンツ昌子研究所長／理事・副学長（お茶の水

女子大学)

10:15～11:40 研究発表 (各報告者発表 15 分、質疑応答 5 分)

1. 大森美香教授 (お茶の水女子大学) 「心理学と健康」
2. ブライアー・マッケンジー博士 (ハート財団)
「性別とジェンダーを研究に組み入れる：食習慣と循環器疾患の関係性研究の事例から」
3. 伊藤貴之教授 (お茶の水女子大学) 「ジェンダーバイアス発見のための情報可視化」
4. シェリル・カーセル博士 (ハート財団 (豪)) 「オーストラリアの保健・医療研究における性別とジェンダー」

11:40～12:00 ディスカッション

1. 研究発表のプロジェクトでの共同研究は可能だろうか？
2. 連携に加わってほしい他の IGI や TGI の研究者はいるか？
3. 「National Centre for Sex & Gender Equity in Health and Medical Research in Australia」設立について
4. 将来的な組織間連携の計画

④第 1 回認知発達科学セミナー 自閉スペクトラム症者の非定型な知覚に関する基礎的・応用的検討 (主催)

主催: お茶の水女子大学 人間発達教育科学研究所 人間発達基礎研究部門 

第 1 回認知発達科学セミナー 自閉スペクトラム症者の 非定型な知覚に関する 基礎的・応用的検討

日時 2023 年 10 月 19 日 (木) 16:40～18:10	開催方式 対面開催、要申込、参加無料
会場 お茶の水女子大学 本館 306 室	対象者 学生・教職員・一般の方

開催概要

自閉スペクトラム症 (ASD) とは、多数派の人々とは異なる人同士の感じ方や行動の強さといった特徴を有する障害であり、近年では ASD 者の非定型な知覚についても着目されてきている。発表者は、知覚心理学的な実験を通して、ASD 者の非定型な知覚の基礎にあるメカニズムの解明を進めてきた。また、アウトリーチ活動に伴った調査を通じて、多数派の人々が ASD 者の非定型な知覚の基礎にあるメカニズムの解明を進めてきた。本発表では、これまでの成果を概説するとともに、障害を持つ当事者と研究者が研究を共同創造していく重要性や今後の課題・展望についても考察する。



辻田 匡葵 博士 (理学)

東京大学先端科学技術研究センター 特任助教

【専門】 知覚心理学・発達心理学・社会心理学

申込方法 10月17日(火)18時までに、QRコードまたは以下URLから参加申込をしてください
<https://forms.gle/9JESoPHtF0GK5816>

問合せ先 お茶の水女子大学人間発達教育科学研究所事務局
into-ied@cc.ocha.ac.jp



【日時】 2023 年 10 月 19 日 (木) 16:40～18:10

【場所】 お茶の水女子大学 本館 306 室 (対面開催)

【講師】 辻田匡葵 (東京大学先端科学技術研究センター 特任助教)

【講演内容】 自閉スペクトラム症 (ASD) とは、多数派の人々とは異なる対人関係の様式やこだわりの強さといった特徴を有する障害であり、近年では ASD 者の非定型な知覚についても着目されてきている。発表者は、知覚心理学的な実験を通して、ASD 者の非定型な知覚の基礎にあるメカニズムの解明を進めてきた。また、アウトリーチ活動に伴った調査を通じて、多数派の人々が ASD 者の非定型な知覚を理解することで ASD 者に対する態度がどのように変容する

のかを検討してきた。本発表では、これまでの成果を概説するとともに、障害を持つ当事者と研究者が研究を共同創造していく重要性や今後の課題・展望についても考察する。

⑤シンポジウム「自己の科学は可能か：心身脳問題として考える」(共催)

【日時】 2024 年 1 月 20 日 (土) 13:00-18:00

【会場】 お茶の水女子大学国際交流留学生プラザ多目的ホール
(オンラインのハイブリッド開催)

【主催】 自他表象研究会

【共催】 東海大学 文明研究所、産業技術総合研究所、新曜社



【プログラム】

13:00～13:10 開会の挨拶

Round 1: 著者講演

13:10～13:30 浅井智久 (ATR)

13:30～13:50 金山範明 (産業技術総合研究所)

13:50～14:10 田中彰吾 (東海大学)

Round 2: ゲスト講演

14:30～14:50 入来篤史 (理化学研究所)

14:50～15:10 積山薫 (京都大学)

15:10～15:30 苧阪直行 (京都大学)

Round 3: 著者陣とゲストによる自己をめぐるディスカッション

16:00～18:00 著者陣：浅井智久、今泉修、金山範明、田中彰吾、弘光健太郎

ゲスト：苧阪直行、積山薫、入来篤史

18:00 閉会の挨拶

⑥第7回 統計教育シンポジウム

「学校の算数・数学で学ぶ統計の“光と影”～学びにくさ/教えるにくさについて語ろう～」

(共催)

【日時】 2024年3月17日 (日) 10:00～12:20

【形式】 Zoom によるオンライン開催

【主催】 お茶の水女子大学附属学校園連携研究 算数・数学部会

【プログラム】

開会の挨拶 加々美 勝久 (元お茶の水女子大学附属中学校 副校長、日本数学教育学会 実践研究推進部長)

趣旨説明 真島 秀行 (お茶の水女子大学 名誉教授、日本学術会議 連携会員)

<異学校種のつながり>

実践発表 1 岡田 紘子 (お茶の水女子大学附属小学校 教諭)

こんな授業どう？

「データを活用した問題解決の学習～生活場面の問題を解決するために～」

実践発表 2 藤原 大樹 (お茶の水女子大学附属中学校 教諭)

こんな授業どう？「生徒会ルールをよりよくしよう！～箱ひげ図などを総合的に活用した学校改善～」

三橋 一行（お茶の水女子大学附属高等学校 教諭）

こんな資料どう？「統計の授業でこんなところがやりづらい！～乗り越えるために必要なこと&参考図書～」

<同学校種のつながり> ともに語ろう！（学校種別分科会）

小学校 提案・進行（お茶小）：岡田・久下谷・倉次

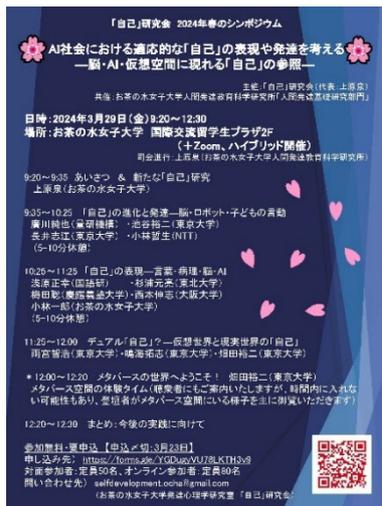
中学校 提案・進行（お茶中）：大塚・藤原・松本

高校 提案・進行（お茶高）：阿部・十九浦・三橋・松嶋

分科会を終えて

閉会の挨拶：吉田 裕亮（お茶の水女子大学 教授、お茶の水女子大学附属高等学校 校長）

⑦「自己」研究会 2024 年度春のシンポジウム「AI 社会における適応的な「自己」の表現や発達を考える～脳・AI・仮想空間に現れる「自己」の参照～」（共催）



【日時】2024年3月29日（金）9:20-12:30

【会場】お茶の水女子大学・国際交流留学生プラザ 2F (Zoom、ハイブリッド開催)

【主催】「自己」研究会（代表：上原泉）

【プログラム】

9:20～9:35 あいさつ & 新たな「自己」研究 上原泉（お茶の水女子大学）

9:35～10:25 「自己」の進化と発達—脳・ロボット・子どもの言動

廣川純也（量研機構）・池谷裕二（東京大学）・長井志江（東京大学）・小林哲生（NTT）

(5-10分休憩)

10:25～11:25 「自己」の表現—言葉・病理・脳・AI

浅原正幸（国語研）・杉浦元亮（東北大学）・梅田聡（慶應義塾大学）・西本伸志（大阪大学）

小林一郎（お茶の水女子大学）

(5-10分休憩)

11:25～12:00 デュアル「自己」？—仮想世界と現実世界の「自己」

雨宮智浩（東京大学）・鳴海拓志（東京大学）・畑田裕二（東京大学）

12:00～12:20 メタバースの世界へようこそ！ 畑田裕二（東京大学）

12:20～12:30 まとめ：今後の実践に向けて

⑧2024 科学技術週間 「自己」研究会 ミニシンポジウム AI、仮想技術、ロボットが進展する社会で、私らしく生きるには？新たな技術への向き合い方と「自己」（共催）



【日時】2024年4月16日（火）16:30～18:30

【場所】オンライン（Zoom）開催

【主催】「自己」研究会（代表：上原泉）

【プログラム】

司会進行：上原泉（お茶の水女子大学人間発達教育科学研究所）

16:30～16:45 導入：新たな技術の進展に伴う社会の変化と「自己」・上原泉（お茶の水女子大学）

16:45～17:20 「自己」の進化と発達から考える一動物・脳・子ども

廣川純也（量研機構）・池谷裕二（東京大学）・小林哲生（NTT）

17:25～18:15 「自己」の表現から考える一病理・脳・AI・メタバース

梅田聡（慶應義塾大学）・杉浦元亮（東北大学）・西本伸志（大阪大学）・雨宮智浩（東京大学）

18:15～18:25 これからの教育と「自己」 大多和直樹（お茶の水女子大学）

18:25～18:30 閉会のあいさつ：今後に向けて 上原泉（お茶の水女子大学）

⑨第2回認知発達科学セミナー「抑うつ的認知バイアスの研究と新しい展開」（主催）



【日時】2024年6月13日（木）16:40～18:10

【場所】お茶の水女子大学 国際交流留学生プラザ 2F 多目的ホール※zoom 同時配信あり

【講師】西口雄基（千葉大学教育学部 准教授）

【講演要旨】抑うつ状態になった人は、ネガティブな情報ばかりを取り入れてポジティブな情報を無視してしまうと言われており、このような偏った認知は「抑うつ的認知バイアス」と呼ばれています。抑うつ的認知バイアスは抑うつ状態の長期化や重症化の原因だと考えられてきており、長い間研究の対象になってきました。抑うつ的認知バイアスが生じるメカニズムや認知バイアスを弱める方法について私も研究を進めてきておりますが、最近では乗り越えるべき課題や新しいモデルが提唱され、大きな転換点を迎えているように思われます。本講演ではこれまで私が行ってきた抑うつ的認知バイアスの研究の成果を発表し、そのうえで近年の新しい展開についてもご紹介したいと考えております。

べき課題や新しいモデルが提唱され、大きな転換点を迎えているように思われます。本講演ではこれまで私が行ってきた抑うつ的認知バイアスの研究の成果を発表し、そのうえで近年の新しい展開についてもご紹介したいと考えております。

⑩第12回子どもの教育・支援について語り合う会「発達障害のある子どもと家族の暮らしと育ちを支える地域づくり～臨床・研究・政策をつなぐ～」(後援)



【日時】2024年6月29日(土) 19:30-21:30

【場所】オンライン (Zoom) 開催

【プログラム】

19:30-19:35 主催者あいさつ 辻百合香 (お茶の水女子大学・博士後期課程)

19:35-20:05 話題提供 原口英之 (臨床心理士・公認心理師)

20:05-21:30 ディスカッション

⑪アンドレア・スカランティーノ教授による国際ワークショップ・講演会・セミナー(共催)



<国際ワークショップ>

How Should Emotions Be Defined? Why Agnosticism is Not an Option for Developmental Psychologists

感情 (emotions) はいかに定義されるべきか? 不可知論が発達心理学者の選択肢ではない理由

【日時】2024年8月3日(土) 10:00~17:30、4日(日) 10:00~12:15

【会場】お茶の水女子大学 (本館 127)

【主催】日本発達心理学会

<公開講演会> (通訳あり)

Emotional Development and the New Basic Emotion Theory

【日時】2024年8月4日(日) 13:30~16:45

【会場】お茶の水女子大学 (本館 306)

【主催】日本発達心理学会

<学術セミナー>

【日時】8/5(月) 13:30~18:00

【会場】お茶の水女子大学 本館3階306室/Zoom ハイブリッド開催

【主催】日本感情心理学会

第1部: 講演 How to Do Things with Emotional Expressions: From Emotional Signals to Language

第2部: 国際シンポジウム What Are Kanjo and Jodo?: Scarantino's Motivational

⑫第13回子どもの教育・支援について語り合う会「自閉症スペクトラム症の“コミュニケーション障害”について」(後援)



【日時】2024年8月31日(土) 19:00~21:00

【場所】オンライン (Zoom) 開催

【対象】教育、心理、福祉、医療等の領域の実践家(教師、塾講師、保育士、心理士、ソーシャルワーカー、看護師、医師など)、子どもの教育・支援に関心のある研究者・学生

【プログラム】

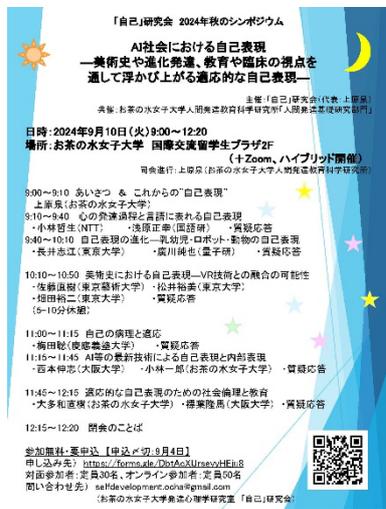
19:00-19:05 主催者あいさつ 辻百合香(お茶の水女子大学・博士後期課程)

19:05-19:30 話題提供 緒方亜文

(東京大学大学院教育学研究科博士課程、日本学術振興会特別研究員)

19:30-21:00 ディスカッション

⑬「自己」研究会 2024年秋のシンポジウム「AI社会における自己表現—美術史や進化発達、教育や臨床の視点を通して浮かび上がる適応的な自己表現—」(共催)



【日時】2024年9月10日(火) 9:00~12:20

【場所】お茶の水女子大学 国際交流留学生プラザ 2F (+Zoom、ハイブリッド開催)

【主催】「自己」研究会(代表:上原泉)

【プログラム】司会進行:上原泉(お茶の水女子大学人間発達教育科学研究所)

9:00~9:10 あいさつ&これからの“自己表現”・上原泉(お茶の水女子大学)

9:10~9:40 心の発達過程と言語に表れる自己表現・小林哲生(NTT)・浅原正幸(国語研)

9:40~10:10 自己表現の進化—乳幼児・ロボット・動物の

自己表現

長井志江(東京大学)・廣川純也(量子研)

10:10~10:50 美術史における自己表現—VR技術との融合の可能性

佐藤直樹(東京藝術大学)・松井裕美(東京大学)・畑田裕二(東京大学)

(5-10分休憩)

11:00~11:15 自己の病理と適応・梅田聡(慶應義塾大学)

11:15~11:45 AI等の最新技術による自己表現と内部表現

西本伸志（大阪大学）・小林一郎（お茶の水女子大学）

11:45～12:15 適応的な自己表現のための社会倫理と教育

大多和直樹（お茶の水女子大学）・標葉隆馬（大阪大学）

12:15～12:20 閉会のことば

⑭第 1 回心身の健康に関する基礎的研究セミナー若年労働者のメンタルヘルス支援を考える —基礎研究と実践研究から—（主催）

【日時】2025年1月10日（金）15:00～16:30

【開催方法】オンライン（Zoom Webinar）

【講師】川人潤子（香川大学大学院医学系研究科臨床心理学専攻 准教授）

【内容】現代の若年労働者の中には、さまざまなストレス問題から不調を感じる例があります。本セミナーでは、これらの課題に関する基礎研究や、自分自身について知っていることを表す心理学的な概念の一つである自己複雑性を活用したストレスケアの実践的研究をご紹介します。また、職場における支援体制の整備、心理教育の実施、セルフケアの推進、およびサポート体制の効果についても考えます。心理学の研究手法やメンタルヘルス支援にご興味のある方は、是非ご参加ください。

是非ご参加ください。

⑮第 3 回認知発達科学セミナー「視聴覚情報が伝えるコミュニケーションの生涯発達」（主催）

【日時】2025年2月18日（火）15:00-16:30

【場所】オンライン（Zoom ミーティング。
アーカイブ配信はありません）

【講師】山本 寿子 先生（立命館大学総合心理学部 助教）
専門：発達心理学、認知心理学

【参加費】無料

【講演要旨】私たちは日常生活の中で、他者の表情に目を向けたり、声の調子に耳を傾けたりと、複数の感覚情報を組み合わせることで、コミュニケーションに必要な情報を読み取っています。このとき、どの情報がより強く影響を与えるかについては、文化、年齢、特性といった要因によって違いがみられることが明らかにされてきました。

本講演では、幼児から大人までを対象とした研究紹介を通じて、視聴覚情報の読み取りにお

ける生涯発達の過程を考察していきます。

また、発表者はこれらの研究を、科学館におけるサイエンスコミュニケーション活動の一環としても実施してきました。心理学におけるサイエンスコミュニケーション活動の実例についても、併せてご紹介します。

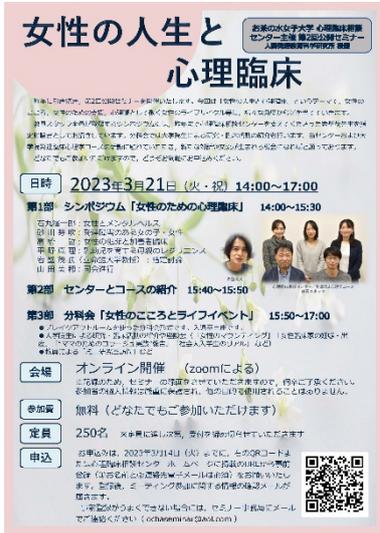
<人間発達基礎研究部門：社会的インパクトの範囲と重要性>

※ミッション実現戦略分「社会的インパクト」調書（R6年度時点：学内調査）より一部抜粋
（※注：左欄の番号は部門開催イベント番号）

<p>※注 ④ ⑨</p>	<p>ステークホルダーとしては、公開セミナーの聴衆たる①大学生・大学院生、②教職員、③心理学の基礎研究に興味関心のある一般市民の方を設定している。</p> <p>社会的インパクトの範囲および重要性：</p> <p>①基礎研究への関心の向上：自閉症スペクトラム症における知覚のメカニズム解明や、抑うつや長期化や重症化に関わる認知バイアスが生じるメカニズムの研究、そして新たなモデルについて、基礎研究からの取組みを学ぶ機会を提供した。心理学の基礎研究が社会的に関心の高い精神疾患のメカニズム解明に貢献すること、基礎研究で行われる実験の手法についての知識を提供し、興味関心を促進した。</p> <p>②研究者育成への貢献：若手研究者としてのロールモデルを提供した。具体的には、若手研究者である講演者から、学位取得やその後の就職、研究テーマの設定などの体験談を講演いただいた。学生が自分の研究の進め方や研究者としての進路に関する知識やスキルを学ぶ機会となった。</p> <p>③臨床・教育現場への貢献：いずれの公開セミナーにも精神疾患に関心のある教育関係者や臨床実践の関係者が参加していた。疾患に関する最新の動向や研究成果を共有することで、疾患患者の理解を深める機会となった。</p>
<p>② ⑦ ⑧ ⑬</p>	<p>シンポジウムは、いずれも、生成AIをはじめとするAI技術やVR、メタバースなどの技術が急速に進展する社会において、自己はどうあるべきか、人はどう対応していくべきかをテーマにしており、自己との関係で、その有用な活用のあり方と留意すべき点、E L S Iの問題、これらに対処するために社会や教育はどうあるべきか、これらの技術の融合の在り方など、社会的に広く関心を持たれやすいうえ、まさに社会が今後直面するような問題に関わる内容について、心理学、言語学、脳科学、人工知能、VR・メタバース研究、認知発達とロボット学、教育学、社会学、美学・美術史、哲学と、広範囲の領域の研究者が、最新の知見を持ち寄り、考察と社会への提言を試みるという、先進的な取り組みであった。各シンポジウム回で焦点をあてる側面や視点を多少変えて4回実施した。</p> <p>最新技術による自己の拡張と自己の混乱といった、社会全体で直面することが必至な問題に対して、人工知能やVR、メタバース、認知発達ロボット、脳科学といった最新技術の進展に関わる学問領域と、心理学、言語学、教育学、社会学、美術史・美学、哲学といった人文社会の学問領域が、よりよい方向に、人が有用に活用し自己実現していけるような社会になるよう、融合的に取り組むことの、必要性和有用性を、本邦初の学術的取り組みとして、示すことができたのではないかと思われる。これだけ多くの領域の、しかも各領域トップクラスの研究者で行ってきた取り組みであるため、それぞれが所属する研究領域の学会や学術活動に反映させていくことで、少し遅れながらも波及効果が出てくることが期待される。</p>

発達臨床支援研究部門

①お茶大心理臨床相談センター第2回公開セミナー「女性の人生と心理臨床」(後援)



【日時】2023年3月21日(火・祝) 14:00-17:00

【会場】Zoomによるオンライン開催

【主催】お茶の水女子大学 心理臨床相談センター

【演題】女性の人生と心理臨床

【プログラム】

第1部 シンポジウム「女性のための心理臨床」

石丸径一郎：女性とメンタルヘルス

砂川芽吹：発達障害のある女の子・女性

高橋 哲：女性の犯罪と加害者臨床

平野真理：乳幼児を育てる母親のレジリエンス

岩壁茂氏(立命館大学教授)：指定討論

山田美穂：司会進行

第2部 センターとコースの紹介

大学院生による研究・臨床活動の紹介や座談会(「女性のマウンティング」「女性臨床家の妊娠・出産」「ママのためのコラージュ実践」報告)「社会人入学生のリアル」など)

②お茶大心理臨床相談センター 第3回公開セミナー(後援)

「メンタルヘルスのヤングケアラー～外から見えにくい「ケア」へのまなざし～」

【日時】2024年3月2日(土) 13:00~16:00

【会場】Zoomによるオンライン開催

【主催】お茶の水女子大学 心理臨床相談センター

【プログラム】

第1部 講演：田野中恭子(佛光大学)

「親の精神疾患とともに生きる子どもへの支援」

第2部 センターとコースの紹介

学生・教員による実践・研究の発表/受験生向け

質問会/OG向け交流会 ほか

【参加費】無料

【定員】250名



③お茶大心理臨床相談センター 第4回公開セミナー（後援）

「ニューロダイバーシティとジェンダーダイバーシティ～自閉スペクトラムと性別違和の共起と当事者視点～」

自閉スペクトラムと性別違和の共起について研究をされている公認心理師/臨床心理士の霜山祥子先生(東京大学 先端科学技術研究センター 当事者研究分野 特任研究員)にご講演を頂き、後半では、心理臨床相談センター/大学院発達臨床心理学コース所属の大学院学生による関連研究の紹介を行います。



【日時】 2025年3月1日(土) 13:00-16:00

【会場】 Zoomによるオンラインでの開催

【主催】 お茶の水女子大学 心理臨床相談センター

【登壇者】 霜山祥子先生(東京大学 先端科学技術研究センター 特任研究員(日本学術振興会 RPD))
本学心理臨床相談センター教員・学生

【参加費】 無料

【定員】 250名

<発達臨床支援研究部門：社会的インパクトの範囲と重要性>

※ミッション実現戦略分「社会的インパクト」調書(R6年度時点：学内調査)より一部抜粋

(※注：左欄の番号は部門開催イベント番号)

<p>※注</p> <p>①</p> <p>②</p> <p>③</p>	<p>本学心理臨床相談センターでは、地域の方々を対象にカウンセリング等の心理学的支援を行っている。こうした心理臨床実践を通じて得られたメンタルヘルスに関する専門的な知識を外部に積極的に発信し、一般市民に広め、社会全体の心の健康増進につながるという社会的な意義や価値を有している。</p> <p>個人の心の健康のみならず社会全体の幸福度向上まで幅広い範囲に影響を与え、その社会的インパクトは多岐にわたる。具体的にインパクトを与えた領域としては「地域社会への寄与」「福祉の改善への寄与」「専門職の高度化への寄与」が挙げられる。</p> <p>主なステークホルダーとしては、公開セミナーの聴衆たる①地域住民、②心理学的支援に携わる公認心理師・臨床心理士、③社会福祉等の近接領域の専門家、④大学生・大学院生を設定している。</p> <p>①ヤングケアラーの関心の向上： 第三回の公開セミナーでは「メンタルヘルスのヤングケアラー」をテーマとしたが、本セミナーを通じて多くの市民や専門家がヤングケアラーの実態と背景に関する理解を深めることができ、これはヤングケアラーの早期発見・早期支援につながるインパクトをもたらしたと考える。</p> <p>②メンタルヘルスの重要性の認識： いずれの公開セミナーも心の健康が身体の健康と同じくらい重要であることを認識させ、セルフケアの重要性を啓発した。特に、第二回の公開セミナーでは「女性の人生と心理臨床」をテーマとしたが、登壇者が多岐にわたるテーマ(女性とメンタルヘルス、発達障害のある女性・女の子、乳幼児を育てる母親のレジリエンス、女性の犯罪と加害者臨床)を報告し、精神疾患に対する誤解や偏見を解消し、心の病は誰にでも起こりうるという理解を深めさせることを通じて</p>
--------------------------------------	---

<p>脱スティグマ化に寄与したと考える。</p> <p>③社会問題解決への貢献： 精神疾患による社会問題の解決策を模索し、より包容力のある社会の実現に貢献した。</p> <p>④地域社会の活性化： 地域住民向けのセミナーによりコミュニティの絆を深め、地域全体のウェルビーイング向上につながったと考える。</p> <p>⑤教育現場への貢献： いずれの公開セミナーにも教育関係者が多く聴講していたところ、子どもたちの心の成長を支援するための知識やスキルを提供した。</p> <p>⑥専門家育成への貢献： 臨床心理学に興味を持つ人材の育成に繋がり、専門分野の裾野を広げることに寄与した。また、公開セミナーでは全体講演会だけでなく分科会も設け、専門家同士の交流の場とし、最新の研究成果や治療法の共有を促進した。</p>

資料① 2022-24年度 人間発達教育科学研究所メンバー一覧

※()内職名は2024年度現在、◎は運営会議委員

身分	役割 (注1)	氏名	所属・(職名)	部門名	2022	2023	2024
研究所長		大森美香	基幹研究院 人間科学系(教授)	人間発達基礎研究部門	◎	◎	◎
副研究所長		浜野 隆	基幹研究院 人間科学系(教授)	人間発達基礎研究部門		◎	◎
教員		上原 泉	人間発達教育科学研究所(教授)	人間発達基礎研究部門	◎	◎	◎
		今泉 修	人間発達教育科学研究所(准教授)	人間発達基礎研究部門	◎	◎	◎
	部門長(2022-23)	浜口順子	基幹研究院 人間科学系(教授)	保育実践研究部門	◎	◎	
	部門長(2024-)	小玉亮子	基幹研究院 人間科学系(教授)	保育実践研究部門	○	○	◎
		刑部育子	基幹研究院 人間科学系(教授)	保育実践研究部門	○	○	○
		西 隆太郎	基幹研究院 人間科学系(教授)	保育実践研究部門			○
		大森美香	基幹研究院 人間科学系(教授)	人間発達基礎研究部門	◎	◎	◎
		大森正博	基幹研究院 人間科学系(教授)	人間発達基礎研究部門	○	○	○
	部門長	浜野 隆	基幹研究院 人間科学系(教授)	人間発達基礎研究部門	◎	◎	◎
		坂本佳鶴恵	基幹研究院 人間科学系(教授)	人間発達基礎研究部門	○		
		富士原紀絵	基幹研究院 人間科学系(教授)	人間発達基礎研究部門	◎	◎	○
		杉野 勇	基幹研究院 人間科学系(教授)	人間発達基礎研究部門	○	○	○
		大多和直樹	基幹研究院 人間科学系(教授)	人間発達基礎研究部門	○	○	○
		石丸径一郎	基幹研究院 人間科学系(教授)	発達臨床支援研究部門	○	○	○
		山田美穂	コンピテンシー育成開発研究所(教授)	発達臨床支援研究部門	○	○	○
		伊藤大幸	基幹研究院 人間科学系(准教授)	人間発達基礎研究部門	○	○	○
	部門長	高橋 哲	基幹研究院 人間科学系(准教授)	発達臨床支援研究部門	◎	◎	◎
		宝月理恵	基幹研究院 人間科学系(准教授)	人間発達基礎研究部門		○	○
		平野真理	基幹研究院 人間科学系(准教授)	発達臨床支援研究部門		○	○
		武藤世良	基幹研究院 人間科学系(講師)	人間発達基礎研究部門	○	○	○
		松島のり子	基幹研究院 人間科学系(講師)	保育実践研究部門	○	○	○
		辻谷真知子	基幹研究院 人間科学系(助教)	保育実践研究部門	○	○	○
		齊藤 彩	基幹研究院 人間科学系(助教)	人間発達基礎研究部門	○	○	○
		三宅雄大	基幹研究院 人間科学系(助教)	人間発達基礎研究部門	○	○	○
		砂川芽吹	基幹研究院 人間科学系(助教)	発達臨床支援研究部門	○	○	○
特任准教授		内海緒香	人間発達教育科学研究所特任准教授	保育・教育実践研究部門	○	○	○
特任RF		合澤典子	人間発達教育科学研究所特任RF	人間発達基礎研究部門		○	○
特任AF		松本聡子	人間発達教育科学研究所特任AF	人間発達基礎研究部門	○		
連携研究員		岡田了祐	教学IR教育開発学修支援センター	保育・教育実践研究部門	○		
特別招聘研究員		秋篠宮妃殿下		人間発達基礎研究部門	○	○	○
客員教授		神尾陽子	一般社団法人発達障害専門センター(代表理事)	人間発達基礎研究部門	○	○	○
		榊原洋一	お茶の水女子大学名誉教授	人間発達基礎研究部門	○	○	○
		菅原ますみ	白百合女子大学教授	人間発達基礎研究部門	○		
客員研究員	小玉	一見真理子		保育実践研究部門	○	○	○
	刑部	宮里暁美		保育実践研究部門	○	○	○
	小玉	上垣内伸子		保育実践研究部門			○
研究協力員	浜野	岡田泰孝		人間発達基礎研究部門	○		
	小玉	菊地知子		保育実践研究部門	○	○	○
	大森(美)	島田祥子		人間発達基礎研究部門	○	○	○
	齊藤	松浦素子		人間発達基礎研究部門	○		
	齊藤	松本聡子		人間発達基礎研究部門		○	○
	大森(美)	山宮 裕子		人間発達基礎研究部門	○	○	○
AA		猪股富美子	人間発達教育科学研究所AA	人間発達基礎研究部門	○	○	○
		西田麻衣	人間発達教育科学研究所AA	人間発達基礎研究部門			○

(注1)客員研究員及び研究協力員は受け入れ教員名

資料② 国立大学法人お茶の水女子大学人間発達教育科学研究所規則

平成28年3月25日制定

改正 平成29年3月27日

平成30年3月27日

令和2年3月31日

令和4年3月29日

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人お茶の水女子大学ヒューマンライフイノベーション開発研究機構規則第4条第2項の規定に基づき、国立大学法人お茶の水女子大学人間発達教育科学研究所（以下「研究所」という。）に関し必要な事項を定める。

(目的)

第2条 研究所は、ヒューマンライフイノベーション開発研究機構に附属する研究所として、人間の発達と教育に関する総合的、国際的な研究及び調査を行い、国際研究拠点を構築することを目的とする。

(研究及び業務)

第3条 研究所は、前条の目的を達成するため、次に掲げる研究及び業務を行う。

- (1) 人間発達に関する基礎的研究
- (2) 教育実践および保育実践に関する研究
- (3) 発達臨床支援に関する研究
- (4) その他前条の目的を達成するために必要な業務

(組織)

第4条 研究所に、次に掲げる者をもって組織する。

- (1) 研究所長
- (2) 教員
- (3) 研究員
- (4) その他学長が必要と認めた職員

2 研究所に、次に掲げる者を加えることができる。

- (1) 副研究所長

- (2) 特任職員
 - (3) 連携研究員
 - (4) 客員教員
 - (5) 客員研究員
 - (6) 研究協力員
- (研究所長)

第5条 研究所長は、基幹研究院人文科学系、人間科学系及び自然科学系の系会議構成員である教授のうちから学長が任命する。

- 2 研究所長は、研究所の業務を掌理する。
- 3 研究所長の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。
- 4 研究所長が辞任を申し出たとき、又は欠員となったときの後任の者の任期は、前任者の残任期間とする。

(副研究所長)

第6条 副研究所長は、系会議構成員のうちから、研究所長が指名する。

- 2 副研究所長は、研究所長から指定された業務を掌理する。
- 3 副研究所長の任期は、1年とする。ただし、再任を妨げない。
- 4 副研究所長が辞任を申し出たとき、又は欠員となったときの後任の者の任期は、前任者の残任期間とする。

(研究員)

第7条 研究員は、第3条に掲げる研究及び業務に従事する。

- 2 研究員は、本学専任の教授、准教授、講師及び助教のうちから、学長が任命する。
- 3 研究員の任期は2年とし、その終期が研究員となる日の属する年度の翌年度の末日を超えることとなる場合は、翌年度の末日までとする。ただし、再任を妨げない。

(連携研究員)

第8条 連携研究員は、第3条に掲げる研究及び業務のうち、特定の研究及び業務に従事する。

- 2 連携研究員は、本学各附属学校、保育所及びこども園の専任職員並びに本学特任教員及び任期付教員のうちから、学校教育研究部長によって推薦された者を学長が任命する。
- 3 連携研究員の任期は1年とし、その終期が連携研究員となる日の属する年度末

を超えることとなる場合は、年度末までとする。ただし、再任を妨げない。

(客員研究員)

第9条 客員研究員は、第3条に掲げる研究及び業務に参画する。

2 客員研究員は、本学専任の教員以外の者を、学長が委嘱する。

3 客員研究員の任期は1年とし、その終期が委嘱する日の属する年度末を超えることとなる場合は、年度末までとする。ただし、再任を妨げない。

(研究協力員)

第10条 研究協力員は、第3条に掲げる研究及び業務に協力する。

2 研究協力員は、本学専任の教員以外の者を、研究所長が委嘱する。

3 研究協力員の任期は1年とし、その終期が委嘱する日の属する年度末を超えることとなる場合は、年度末までとする。ただし、再任を妨げない。

(運営会議)

第11条 研究所に、研究所の運営並びに研究及び業務に関する事項を審議するため、人間発達教育科学研究所運営会議（以下「運営会議」という。）を置く。

2 運営会議は、次に掲げる者をもって組織する。

(1) 研究所長

(2) 第4条第1項第2号に掲げる教員

(3) 第4条第1項第3号に掲げる研究員

(4) その他ヒューマンライフイノベーション開発研究機構長が必要と認めた者

3 運営会議の議長は研究所長をもって充て、議長は運営会議を主宰する。

4 運営会議の構成員は、第2条の目的を達成する上で必要な事項について、運営会議での審議を求めることができる。

5 研究所長が必要と認めたときは、構成員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

6 本条に定めるもののほか、運営会議に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第12条 研究所の事務は、研究協力課が行う。

(雑則)

第13条 この規則に定めるもののほか、研究所に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規則は、平成28年4月1日から施行する。

2 国立大学法人お茶の水女子大学人間発達科学研究所規則は、廃止する。

附 則（平成29年 3 月27日）

この規則は、平成29年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成30年 3 月27日）

この規則は、平成30年 4 月 1 日から施行する。

附 則（令和 2 年 3 月31日）

この規則は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（令和 4 年 3 月29日）

この規則は、令和 4 年 4 月 1 日から施行する。